

学校法人 佑愛学園
愛知医療学院短期大学

2018年度 授業評価レポート



2019/6/30

目次

■ 資料

- 1 学生による授業評価実施要項
- 2 学生による授業評価アンケートの実施要領

■ 授業評価レポート

【教養基礎科目】

- 1 心の理解
- 2 現代社会の理解
- 3 情報処理
- 4 外国語 1 (英会話)
- 5 外国語 2 (韓国語会話)
- 6 外国語 3 (中国語会話)
- 7 英文講読
- 8 現代語コミュニケーション
- 9 人間関係論
- 10 レクリエーション
- 11 健康運動とスポーツ
- 12 生物と環境
- 13 生命の科学
- 14 エネルギーのしくみ
- 15 教養演習 (PT)

【専門基礎科目】

- 16 解剖学
- 17 解剖学実習
- 18 人体触察法実習 (PT)
- 19 人体触察法実習 (OT)
- 20 生理学
- 21 生理学実習
- 22 運動学総論
- 23 運動学Ⅰ (頭頸部・上肢)
- 24 運動学Ⅱ (体幹・下肢)
- 25 運動学実習 (PT)

- 26 運動学実習 (OT)
- 27 人間発達学
- 28 一般臨床医学
- 29 公衆衛生学
- 30 臨床心理学
- 31 内科学
- 32 整形外科学
- 33 神経学
- 34 精神医学
- 35 小児科学
- 36 医療安全学・救急医学
- 37 リハビリテーション概論
- 38 リハビリテーション倫理
- 39 社会福祉学

【専門科目】

- 40 障害支援とアシスタンスドッグ
- 41 障がい者スポーツ演習
- 42 理学療法概論
- 43 理学療法研究法
- 44 臨床運動学 (PT)
- 45 運動療法総論
- 46 検査測定法
- 47 検査測定法実習
- 48 理学療法評価法
- 49 理学療法評価法実習
- 50 中枢神経系障害理学療法治療学
- 51 中枢神経系障害理学療法治療学実習

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 52 整形外科系障害理学療法治療学 | 85 身体障害作業評価学 |
| 53 整形外科系障害理学療法治療学実習 | 86 精神障害作業評価学 |
| 54 内部疾患系障害理学療法治療学 | 87 発達障害作業評価学 |
| 55 内部疾患系障害理学療法治療学実習 | 88 作業治療学理論 |
| 56 小児疾患系障害理学療法治療学 | 89 作業療法治療学実習 |
| 57 小児疾患系障害理学療法治療学実習 | 90 身体障害作業治療学Ⅰ |
| 58 老年期障害理学療法学 | 91 身体障害作業治療学Ⅱ |
| 59 日常生活活動学 | 92 身体障害作業治療学実習 |
| 60 日常生活活動学実習 | 93 精神障害作業治療学 |
| 61 義肢装具学 | 94 精神障害作業治療学実習 |
| 62 義肢装具学実習 | 95 発達障害作業治療学 |
| 63 物理療法学 | 96 発達障害作業治療学実習 |
| 64 物理療法学実習 | 97 老年期作業療法学 |
| 65 理学療法特論Ⅰ（神経生理学的アプローチ） | 98 日常生活作業学Ⅰ |
| 66 理学療法特論Ⅱ（関節運動学的アプローチ） | 99 日常生活作業学Ⅱ |
| 67 理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法） | 100 日常生活作業学実習 |
| 68 理学療法特論Ⅴ（吸引・喀痰法） | 101 高次脳障害作業治療学 |
| 69 生活環境論 | 102 義肢装具作業療法学 |
| 70 地域理学療法学 | 103 義肢装具作業療法学実習 |
| 71 地域理学療法学実習 | 104 作業科学 |
| 72 臨床実習Ⅰ（基礎）（PT） | 105 人間作業モデル論 |
| 73 臨床実習Ⅱ（評価）（PT） | 106 リハビリテーション関連機器 |
| 74 臨床実習Ⅲ（総合1）（PT） | 107 地域作業療法学 |
| 75 臨床実習Ⅳ（総合2）（PT） | 108 地域作業療法学実習 |
| 76 卒業研究（PT） | 109 就労支援学 |
| 77 総合演習（PT） | 110 臨床実習Ⅰ（基礎）（OT） |
| 78 作業療法概論 | 111 臨床実習Ⅱ（評価）（OT） |
| 79 作業療法研究法 | 112 臨床実習Ⅲ（総合1）（OT） |
| 80 臨床運動学（OT） | 113 臨床実習Ⅳ（総合2）（OT） |
| 81 基礎作業学 | 114 卒業研究（OT） |
| 82 基礎作業学実習 | 115 総合演習（OT） |
| 83 作業療法評価法 | |
| 84 作業療法評価法実習 | |

2018 年度 学生による授業評価実施要項

1. 実施目的

学生による授業評価アンケートは、FD&SD 委員会規程に基づいて行われ、アンケート結果を参考に授業の改善を図り、本学教育の質の一層の向上に資することを目的とする。

2. 実施方法

2018 年度開講科目を対象として、授業毎にアンケートを実施する。

学生は、履修した科目のアンケートを Web アンケート（Google フォーム）方式で回答する。

3. アンケート内容

I 授業の内容について	3 問
II 授業の方法について	5 問
III 授業担当教員について	5 問
IV あなたの受講態度について	3 問
V あなたの学習態度について	2 問
VI この授業についてのあなたの満足度	2 問
VII ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握	3 問
VIII 総合評価	2 問

4. 調査結果の集計

調査結果の集計は、FD&SD 委員会が行う。

5. 調査結果の配布

実施した専任教員および非常勤講師には、個人集計結果ならびに全学集計結果に成績平均点分布表を添えて配布する。

6. 実施結果の公表

個人集計結果を除き、全学集計結果を本学ホームページにて公開する。

学生の皆さんへ

「学生による授業評価アンケート」への協力をお願い

FD&SD 委員会

本学では「授業の質」を高めることを目的として、授業科目毎に「学生による授業評価アンケート」を実施しています。このアンケートが皆さんの成績評価に影響を与えることはありませんので、安心して率直に回答してください。

皆さんの素直で厳しい意見によって、本学の授業がより良いものになります。真剣に回答頂きますよう、ご協力をお願いいたします。

<実施科目>

全科目・全クラス

※但し、下記の科目は、科目の性質上、一部アンケートの設問を除外して実施します。

〔教養演習（OT）・総合演習・臨床実習・卒業研究〕

<実施時期>

原則として、各科目1回、授業の最後に実施します。

<実施方法>

履修した科目について、Web アンケート（Google フォーム）方式で回答します。

※オムニバス形式の授業の場合、全体で一つの授業科目としてアンケートを実施します。

（オムニバス形式の授業のアンケートは、担当教員別には実施しません。）

<所要時間>

約 20 分程度

〈授業評価アンケート〉

I 授業の内容について

1. 授業の内容は、あなたにとって、興味深いものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
2. 授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
3. 授業の内容は、後輩にも推薦したいと思いましたが
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

II 授業の方法について

4. 授業の進み具合は適切でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
5. 授業中、教員の説明は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
6. 板書の文字の大きさ、書き方、レジュメ（配布資料）の提示は効果的でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
7. ICTの使用は効果的でしたか
※ICTの使用とは、プロジェクターによるパワーポイントや動画の提示、コンピュータ機器の使用、
デジタル教材、電子媒体でのレポート提出 等を指します
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない ⑥ICTの使用はなかった
8. 指定された教科書や参考図書、参考文献などの使用は適切でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

III 授業担当教員について

9. 講義の準備を十分にしていたと思いますか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
10. 意欲的に、熱意を持って取り組んでいましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
11. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

12. 私語など授業を妨げる行為に対して、適切な対応をしましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
13. 学生が質問、意見を述べられるような環境でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

IV あなたの受講態度について

14. この授業に対して熱心に取り組みましたか
①熱心に取り組んだ ②どちらかといえば熱心に取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり熱心に取り組まなかった ⑤熱心に取り組まなかった
15. 理解できない点などを質問しましたか
①その場で授業担当教員に質問した ②授業後に授業担当教員に質問した
③授業担当教員に質問していない
16. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり取り組まなかった ⑤取り組まなかった

V あなたの学習態度について

17. この授業1回につき、予習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※予習とは、教員から提示される予習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間
④3－5時間 ⑤6－10時間 ⑥10時間以上
18. この授業1回につき、復習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※復習とは、教員から提示される復習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間
④3－5時間 ⑤6－10時間 ⑥10時間以上

VI この授業についてのあなたの満足度

19. この授業を受けて、知識修得に満足していますか
①満足している ②どちらかといえば満足している ③どちらともいえない
④あまり満足していない ⑤満足していない
20. この授業を受けて、学習に達成感を得られましたか
①得られた ②どちらかといえば得られた ③どちらともいえない
④あまり得られなかった ⑤得られなかった

VII ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握

VII(1)この授業の授業到達目標を知っていましたか

- ①知っていた ②知らなかった

VII(2)この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか

- ①知っていた ②知らなかった

VII(3)この授業を受けて、ディプロマポリシーに基づく授業到達目標を達成することができましたか

- ①達成することができた
- ②どちらかといえば達成することができた
- ③どちらともいえない
- ④あまり達成できなかった
- ⑤達成できなかった
- ⑥ディプロマポリシーや授業到達目標がわからない

VII 総合評価

21. この授業の総合評価を5段階でしてください

- ①良い
- ②どちらかといえば良い
- ③どちらともいえない
- ④どちらかといえば悪い
- ⑤悪い

22. この授業の良かった点や改善すべき点などを自由に書いてください

IV あなたの受講態度について

1. この授業に対して熱心に取り組みましたか
①熱心に取り組んだ ②どちらかといえば熱心に取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり熱心に取り組まなかった ⑤熱心に取り組まなかった
2. 理解できない点などを質問しましたか
①その場で授業担当教員に質問した ②授業後に授業担当教員に質問した
③授業担当教員に質問していない
3. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり取り組まなかった ⑤取り組まなかった

V あなたの学習態度について

4. この授業1回につき、予習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※予習とは、教員から提示される予習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1-2時間
④3-5時間 ⑤6-10時間 ⑥10時間以上
5. この授業1回につき、復習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※復習とは、教員から提示される復習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1-2時間
④3-5時間 ⑤6-10時間 ⑥10時間以上

VI この授業についてのあなたの満足度

6. この授業を受けて、知識修得に満足していますか
①満足している ②どちらかといえば満足している ③どちらともいえない
④あまり満足していない ⑤満足していない
7. この授業を受けて、学習に達成感を得られましたか
①得られた ②どちらかといえば得られた ③どちらともいえない
④あまり得られなかった ⑤得られなかった

VII ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握

8. この授業の授業到達目標を知っていましたか
①知っていた ②知らなかった
9. この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか
①知っていた ②知らなかった
10. この授業を受けて、ディプロマポリシーに基づく授業到達目標を達成することができましたか
①達成することができた ②どちらかといえば達成することができた
③どちらともいえない ④あまり達成できなかった ⑤達成できなかった
⑥ディプロマポリシーや授業到達目標がわからない

VII 総合評価

11. この授業の総合評価を5段階でしてください

①良い ②どちらかといえば良い ③どちらともいえない

④どちらかといえば悪い ⑤悪い

12. この授業の良かった点や改善すべき点などを自由に書いてください

科目名

1. 心の理解

担当教員

山田 ゆかり

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

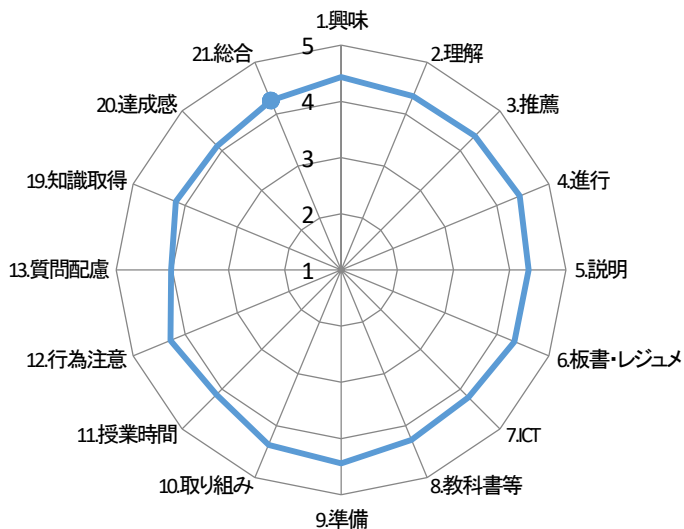
95名

◆集計データ結果について

集計データ結果から、体験的な内容の導入、明瞭で聴きやすい話し方、例示などによるわかりやすい説明、板書、使いやすいプリントの編集など、授業方法についての基本的な工夫が評価された結果となっている。数値データに基づく円グラフを見ると、平均評定値は概ねバランスのとれた形であるが、質問11(授業時間)と項目16(質問配慮)の評価がやや低め(4.13・4.02)となっている。質問項目11(授業時間)の評価は、15回目が1時限のみの授業であり、終了時間の認識ミスが印象に残ったためと思われる。また、学生の授業態度についての項目18(質問)、項目19(予習・復習)については、依然として改善の余地があると思われる。教養基礎科目であり、課題が学生の過重負担にならないようにしているが、もう少し積極的な課題提示を検討する必要があるかもしれない。授業を通しての実感としては、授業運営が比較的容易であり、大規模クラスであっても授業後の小レポート等により個別の疑問・質問を把握し、対応することができたと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「実際に体験してみる内容が良かった」「自分の日常の経験に関連付けることができた」「説明がわかりやすい」「興味深い内容」「ためになった」「おもしろかった」等の肯定的な記述が多くあり、授業内容や方法については高く評価されているようである。授業内容について、心理測定尺度の体験や実験的な要素を取り入れることが興味を引き起こすことにつながっているため、今後もこうした工夫を継続していく。改善すべき点については、特に指摘がなかった。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評)

◆今後の改善に向けて

基本的には、現在の授業内容、授業方法が学生に受け入れられている結果となっており、今後もこれを継続していく。体験的な内容、身近で具体的な例示による解説が授業の理解度を上げるポイントと考えている。大規模クラスでのアクティブラーニングをどのように促進していくかが継続的課題である。また、モチベーションが高く理解力もある学生の満足度をさらに上げること、理解力に課題があり、なかなか授業に集中できない学生を把握し、統制することのバランス図りつつ、学修意欲を引き出す工夫が必要となる。

教養基礎科目に対する学修意欲を引き出すために、将来の専門性や職務との関連、および「教養」としての位置づけについて積極的に説明している。これに加えて、シラバスに記載する「ディプロマポリシーとの関連」「学修到達目標」及び「履修上の注意」についてより詳細に繰り返し伝えていく。今後とも、より理解を助けるような教材を作成し、内容の解説を工夫するなどともに、折にふれて、課題への取り組み方の助言を行い、積極的な予習・復習を促していきたい。

科目名

2. 現代社会の理解

担当教員

王 昊凡

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

84名

◆集計データ結果について

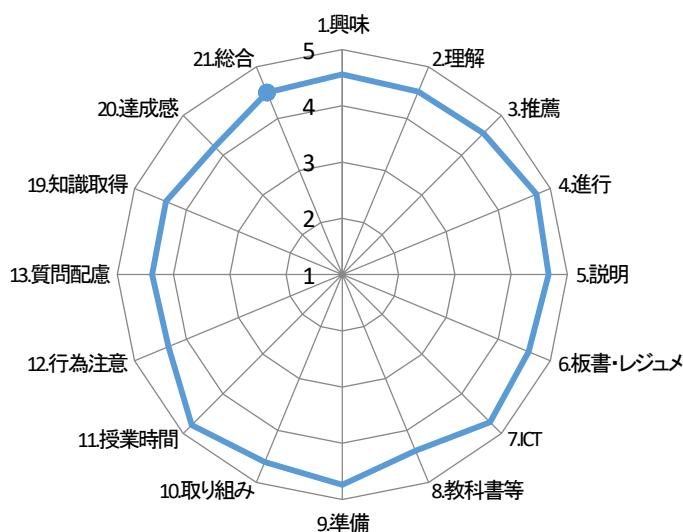
予習復習の項目及びディプロマポリシーを除き、おおよそ平均点が4以上となっており、学生からはある程度の評価を得たと考える。予習復習については、テストの結果がたいへんよかったことをふまえるとある程度の勉強時間を割いていたはずであり、それを含めるならば、復習時間についてはもう少し増えていてもよいはずだろう。この数値を授業前後の予習・復習と捉えるならば、複雑な課題を課していなかったことが反映したものと思われる(この点は後述する改善点に含む必要がある)。ディプロマポリシーについては、「1」と「5」の両極端の回答であった。本講義がいわゆる一般教養に類するものであるゆえに、すぐさま役に立つわけではないため仕方ない部分もあるかもしれないが、この点についても改善の余地がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

非常に多くの学生から肯定的な評価(81名中79名、ただし「とくになし」等は除く)を得ることができ、講義担当者としてたいへんうれしく思う。食という身近なテーマから出発し、現代社会に関する様々な現象の歴史的定位と争点を理解したうえで、受講生が自らの力で考えるという本講義の意図がおおよそ伝わったものと解したい。少数意見であるが「説明がわかりづらいときがあった」「レジュメがわかりにくいところがあった」という旨の記述があり、対処を行う必要があるものと思われる。ただし一方で「説明がわかりやすかった」「わかりやすいレジュメだった」という旨の記述もあるため、できるだけ多くの学生にとって理解しやすいものとなるよう、改善を試みることが求められる。

◆今後の改善に向けて

非常に多くの学生から肯定的な評価(81名中79名、ただし「とくになし」等は除く)を得ることができ、講義担当者としてたいへんうれしく思う。食という身近なテーマから出発し、現代社会に関する様々な現象の歴史的定位と争点を理解したうえで、受講生が自らの力で考えるという本講義の意図がおおよそ伝わったものと解したい。少数意見であるが「説明がわかりづらいときがあった」「レジュメがわかりにくいところがあった」という旨の記述があり、対処を行う必要があるものと思われる。ただし一方で「説明がわかりやすかった」「わかりやすいレジュメだった」という旨の記述もあるため、できるだけ多くの学生にとって理解しやすいものとなるよう、改善を試みることが求められる。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階)

科目名

3. 情報処理

担当教員

齋藤 末広

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

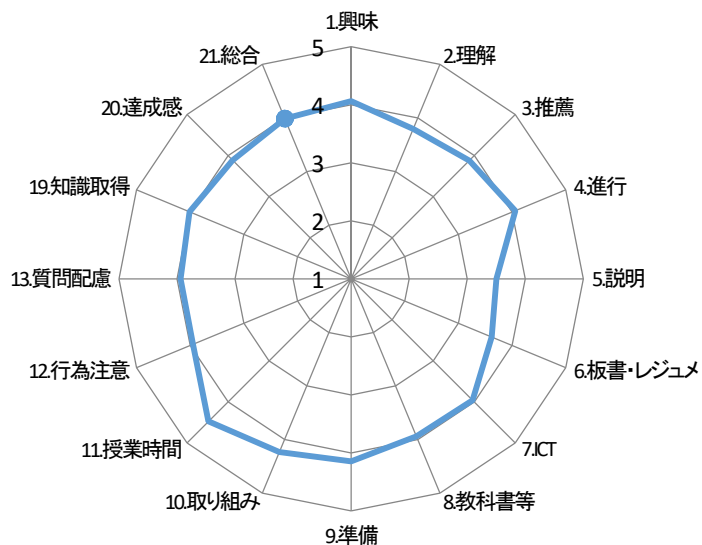
82名

◆集計データ結果について

ほぼ4ということ、安心したが、板書、説明の仕方に不満さらに、教科書の使用が不適切と感じてる学生もかなり存在している。授業の生徒の取り組み姿勢で、82人中52人が「取り組まなかった」と答えている。
20の学習達成感が4に到達していない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

パソコンを道具として抵抗なく使うには、タッチタイプが重要であることを授業でも強調している。それにたいして、タッチタイプが身についたというコメントがおおく、うれしく思う。説明の仕方へのこちらも出ているので、今後工夫していきたい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

USBメモリーのかわりに、Google Driveで保存可能となっているので、来期からは、USBメモリが必要は、授業ないではかかないようにする。

授業の初期段階では、操作に時間がかかる学生が発生する。最初の方の授業では、知識項目を増やし、操作を少な目、操作になれる授業後期に操作から学ぶことを増やすなどしたい。

エクセルで統計処理をする場合が卒業あるかと思われるので、統計処理への苦手意識をもたないような、指導もしていきたい。

科目名

4. 外国語1(英会話)

担当教員

ジェームス・比嘉

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

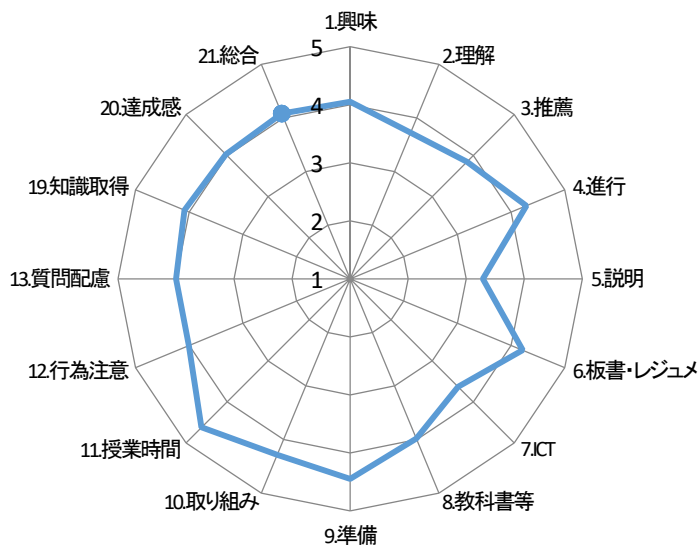
98名

◆集計データ結果について

The majority of the students seemed to have been satisfied with the English lessons. In class, the students worked in pairs and in small groups. They had the opportunity to interact with each other using mostly English. Their attitude towards speaking English seemed positive.

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

In general, the students communicated and used the English they know and did very well. I appreciate the students' honesty and the time they took to fill out the class evaluation.



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

The students gave some useful feedback and I appreciate it very much. Will try to incorporate the suggestions into my teaching.

科目名

5. 外国語2(韓国語会話)

担当教員

金 春子

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

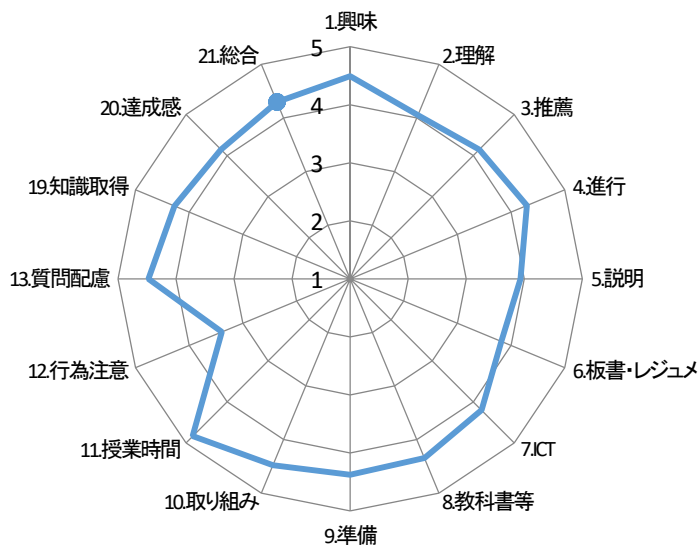
61名

◆集計データ結果について

今年は多くの生徒がハングルを読めるようになり、それが「楽しい。」「良かった。」の結果データとして表れていると思う。生徒たちは、僅か8週の短い時間で韓国語、ハングルを読めるようになってくれて、本当にやりがいを感じる。まだ若い学生は、韓国語だけでなく、色々なことを学ばなければならないと思う、今回は韓国の旅行についてたくさん注意すべきことを話した。海外旅行の経験がない生徒も多くいたので、参考になればいいです。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「韓国語を学んで楽しかった。韓国のことがわかって良かった。」など多くの生徒たちが韓国語に興味を持ってくれてうれしいです。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

韓国語の授業を受ける生徒が多いので、一人一人をよく見ることができなくて残念です。今後は一人一人をよく関心をもって見たいです。今回使用した韓国語の本がとても良かったです。生徒の中にも本が良かったと書いていた。次回も木内明著者の「基礎から学ぶ韓国語講座」を使用しようと考えています。この本は文法、会話が全体的によくまとまっていて良かったです。黒板の字が見えにくいとの意見が数人いたので、後ろまで見えるように配慮する必要があります。

科目名

6. 外国語3(中国語会話)

担当教員

候 英梅

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

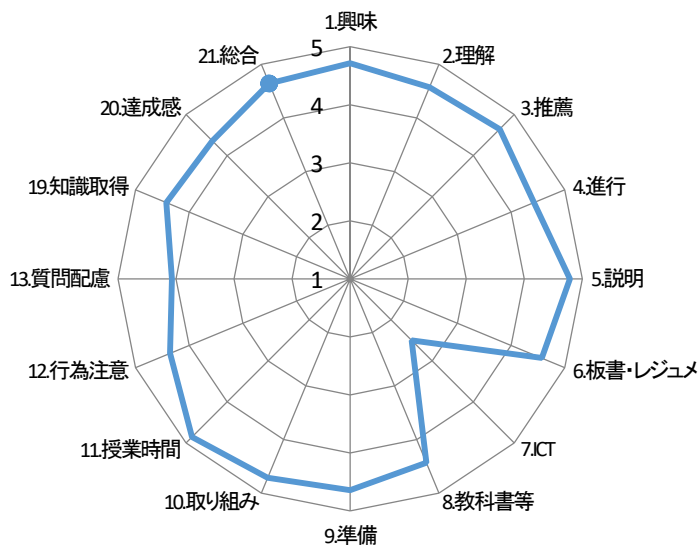
14名

◆集計データ結果について

評価から、全体としては高い評価をいただいたと思いますが、集計結果の各設問において、質問7「ICTの使用(プロジェクターによるパワーポイントや動画の提示、コンピュータ機器の使用、デジタル教材)」の満足度が低かったです。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

発音と日中文化について、楽しくわかりやすく学ぶことができましたと思います。特に発音について書いた生徒さんが多かったです。発音に関心を持っていることが分かりました。今後も限られた時間の中で中国語の発音を覚えられるように更に分かる授業を目指していきたいです。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

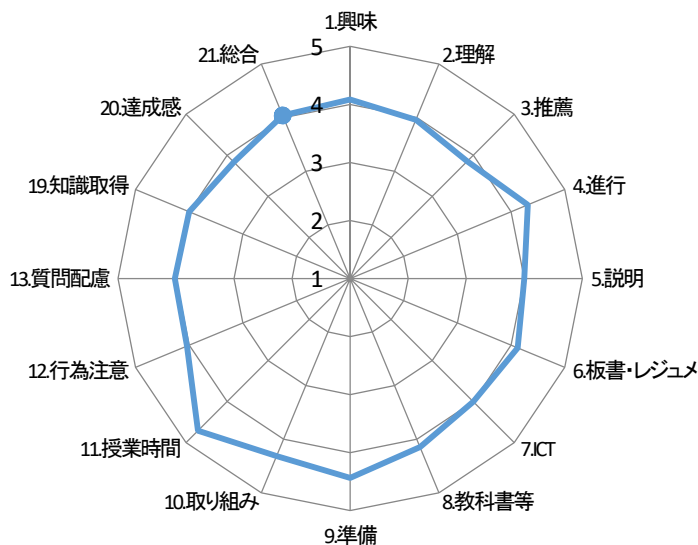
- 生徒さんの理解状況やニーズを把握しながら授業を進めていくこととしたいです。
- 生徒さんはみんな発音以外に中国の文化にも興味を持っていますので、今後、写真や動画などを補助資料の一部として取り入れながら、文化についてもっと分かりやすい授業にしたいです。
- 時間が限られていますので、今後文法より挨拶言葉、と毎日使う簡単な会話に時間をかけて練習していきたいです。

◆集計データ結果について

総じて評価は4であった。個別の項目について見ても、ほぼ均一に4という評価で、恐れていた「行為注意」についても同様だった。受講学生の人数が昔の小中学校の教室のような50名弱だったことがその主な原因だったと考えられる。小テストを実施して、解説し自己採点してもらった講義の流れが、受験勉強慣れた学生たちに合っていたのかもしれない。出席シートで報告してもらった採点結果を見る限り、正解率はあまり高くはなかったが、ある程度の「達成感」を味わってもらえたようである。英語の文法の学習は覚えなければならない細かい事項が多く、楽しい仕事とは言えないが、この講義をきっかけにして「暇なときに続けて勉強していこう」と思った学生が1人でもいれば嬉しい限りである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

中には「問題が難しすぎてよく分からなかった」、「何を勉強したのかがいまいち」という声も聞かれるが、「高校で分からなかったところが分かった」、「文法の復習ができてよかった」という感想が多かった。例年と同じく、「私語が多くて聞こえなかった」、「板書が読みづらかった」という苦情がある一方で、「楽しかった」、「いろいろなことが学べた」という好評もある。私語を注意することで講義の流れが中断し、「楽しく明るい」雰囲気が損なわれるのを恐れるので、痛痒しというところである。「英字新聞の解説をもっとしてほしいかった」という声も聞かれ、文法に偏り過ぎたことを申し訳なく思っている。「講読」と称している以上、文章を読むことの方にウエイトを置くべきだと反省している。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 21 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

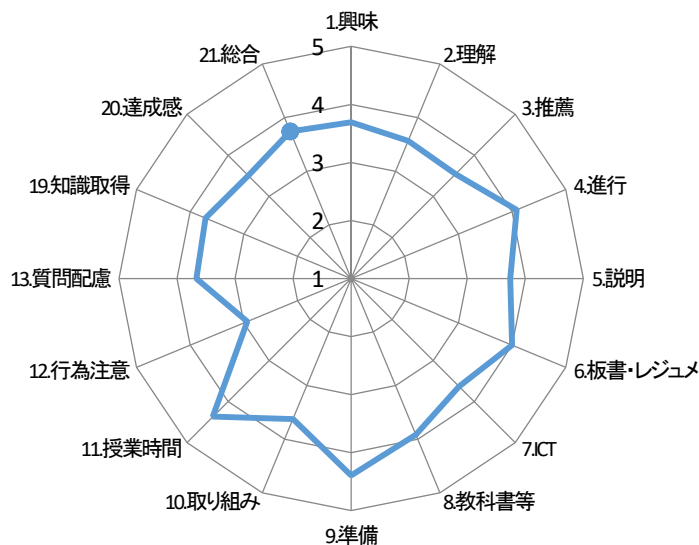
今年の英文講読は、小テストの文法解説にやや時間をかけ過ぎたと反省している。小テストは今後も続けていくが、解説をもっとテキパキとおこない、英字新聞の記事の解説にもっと時間を割くようにしたい。なお、初夏の豪雨でがけ崩れが起き、高山線の特急列車が長期間運休となった。その結果、外国人観光客がしばらく普通列車を利用せざるを得なくなった。JR東海はあわてて普通列車に英語のアナウンスを導入することになった。(それが始まったとたん特急が走りはじめ、皮肉なことに外国人は普通列車に乗らなくなったが)このように身の回りに外国語の音声が行き渡る環境ができつつあり、この講義でもそれに配慮する必要性が生まれているように感じている。

◆集計データ結果について

総合評価は3.7と、例年よりかなり低い結果だった。大きなマイナス要因は「行為注意」が3であったことで、「私語に対する注意がまったく行われていない」という苦情が多かったからである。注意喚起に必要な体力のパワーが加齢とともに着実に低下しているためもあり、また解説にすべての注意を集中していて騒がしさに気づかないためもあって、このような状況になっている次第。また、「達成感」も低い評価だが、何らかの将来に役立つ知識や技術を身につけてもらうことを目的としていない教養科目なので、致し方ないところがある。「敬語」を取りあげている点を評価してくれた学生もいたおかげで、かろうじて3.7の総合評価だったのではないかな。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「私語が多くて説明が聞き取れなかった」、「何が重要なのかまったく分からなかった」、「講師の自己満足ではないか」というような厳しい声が多かった。一方で、「楽しかった」、「科学の偉人のことがいろいろ学べた」という声もあり、「敬語が学べたのが良かった」という意見も見られる。講義は楽しくなければいけないと考えているので、時々(いや頻繁に?)講師自身が笑ってしまい、それが学生の私語を煽ってしまうのが問題点のようである。「話すのが早すぎてついていけなかった」という苦情もあり、ペースを落とす必要があることに気づかされた。英語の読み上げをすると、つい日本語の方も早くしゃべってしまう癖が身につってしまったのだろうか。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

学生の自由記述の中に「テストを取り入れたらどうか」というものがあった。以前から出席シートを使って質問やちょっとした問題に答えてもらってはいるが、ある程度時間をかけて解答し、解説を聴いて自己採点する形式にするのは、私語対策にもなるグッドアイデアかもしれない。ただし、そのためのA4やB4のプリントがさらに加わるので、その印刷で教務の方の仕事を増やしてしまうことになるのが申し訳ない。このテストでは、「敬語の使い方」に関する実例演習や、近年つい解説が手薄になっていた「(相対性理論の)数学」についても盛り込めるだろう。テストを作るのは好きでも、テストを受けるのが嫌いな講師としては、正直、内心忸怩たるものがある。

◆集計データ結果について

「授業内容」、「授業方法」、「教員」、「学生の満足度」、「総合評価」に関する評価については、4～5の間の評価であったことから相応の効果があったといえよう。しかし、「学生の受講態度」の(質問)、「学生の学習態度」の評価は低かった。

すなわち、「理解できない点などに質問しなかった」学生が多かったこと、「予習」・「復習」の時間が少なかったということである。

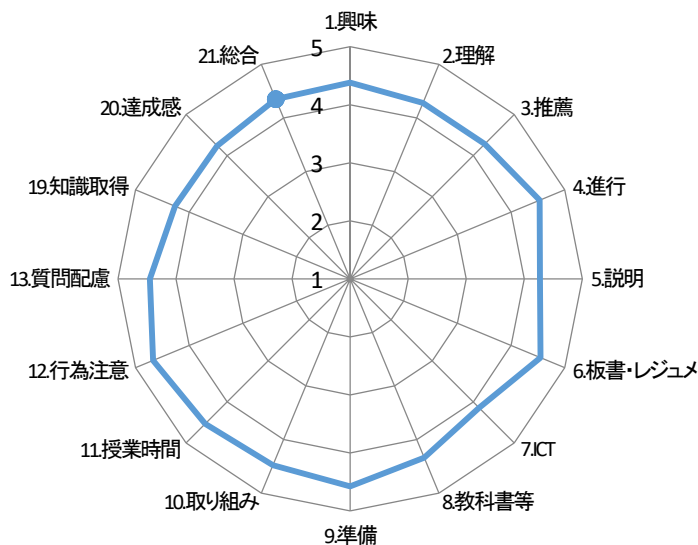
前項については、各授業時間においてとくに質問の時間を設けなかったこと、次項では、学生に対して自学自習を促進するための工夫が不十分であったことによるものと推察される。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の内容を全般的に見ると、昨年度と同様に「楽しかった」、「よく分かった」、「興味深い授業であった」との記載が多かった。この点については、「授業は楽しく学ぶ」との小生の基本理念が本年度も受け入れられたものと考えられ、学生に感謝したい。また、「この授業を通して今までよりもより良い人間関係を作っていけると思った」、「人間関係について興味を持つことができた」、「コミュニケーションの取り方が具体的に分かってためになった」等の記載から、本授業の到達目標を理解し、学修できたものと思われる。さらに、「今回学んだことを今後の人間関係に役立てて行きたい」、「これから社会に出ていく上で、人間関係論で学習したことは必要になるので、今のうちから実践していきたい」の記載からは、本授業内容の有用性を実感できたものと推察される。昨年度と同様に以上のような肯定的な意見が多く記載された一方で、「ときどき言っていることが分からない時があった」、「大事なところが分からなかった」等の指摘もあった。このことは、各授業時間において質問の時間をもう少し多く設定する必要があることを示唆するものといえ、今後、配慮していく意向である。

◆今後の改善に向けて

今後も、これまでの小生の授業理念である「楽しく学ぶ」を基本とし、学生から前述のような肯定的意見がより一層多く得られるように努力する。また、授業内容の理解を深めるために各授業時間において質問の時間をもう少し多く設定したり、自学自習を促進するために小テスト等の課題を課したりするなどして授業改善を図る方針である。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

科目名

10. レクリエーション

担当教員

加藤 真夕美

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

49名

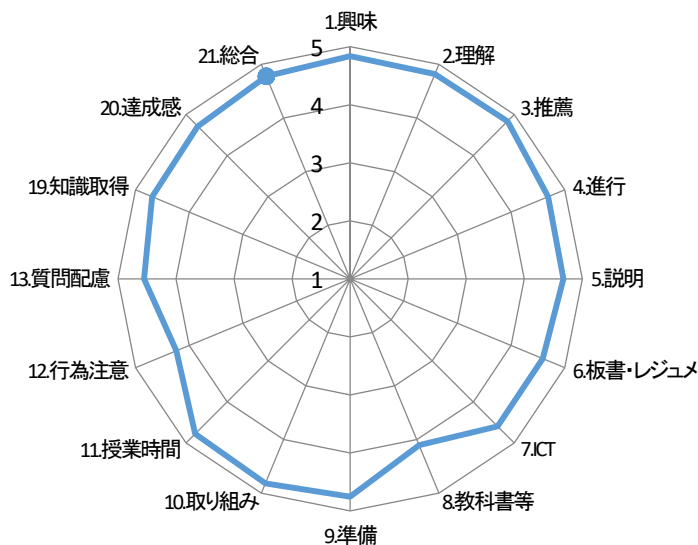
◆集計データ結果について

教員に対しては、レーダーチャートに示されているすべての項目で、平均が4.1～4.8の間にあり、バランスの良い評価であった。ほぼすべての学生が3点から5点と点数をつけているが、いくつかの質問では各1～3名の学生が2点をつけていた。グループワークを主体とし、学生自身が企画し実践し、まとめ、発表するという学生主体の授業であったため、授業に参加しているという意識を持ちやすく、高評価につながったと思われる。一方で学生の進行によっては授業時間が長くなり(11)、まとまりがなくなる場面があり(12)、そこを不快に思った学生が2点をつけたと推測される。学生自身の授業への取り組み(14・16)は概ね良く、自分たちで授業を創ろうとした姿勢が伺えた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見がほとんどであった。その内訳は、「ただ楽しむのではなく障害を有する方に対してどのように楽しんでもらえるかを考える難しさを学んだ」「高齢者に対するレクリエーションを真剣に考えられた」「自分たちで計画を立てて実行してみたら成功するのか、失敗を防ぐことができるのかに気づくことができた」「パワーポイントや発表に触れることができてよかった」という質的な成果が主であった。学生主体の授業であり、いずれ臨床で役立ててもらいたいという意図が十分に伝わったと感じている。

一方グループはくじ引きで決めたこと、授業を通して同じグループで継続したこと、受講者数制限を設けたことから、「グループ分けでは男子一人にならないようにすると良い」「2部制にするなどして受講者数を増やせたら良い」「グループを途中で変えた方が良い」との意見があり、今後の課題となった。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

実習科目ということで、アクティブラーニング的な要素を極力取り入れ、計画-実践-発表の一連の流れをすべてグループに委ねた。発表の評価は学生間の相互評価を主体とし、ルーブリックを取り入れた。

前半と後半で希望のある学生にはグループ変更を申し出るよう伝えたが、本年度は変更を申し出た学生はいなかった。しかし上記の自由記載意見のとおり、グループ分けに対する不満を抱えている学生が数名いたようなので、前半と後半のグループ編成に関しては再度学生の様子を見ながら検討することとする。

また、室内レクの準備状況や当日の出来に関してもグループ間でかなり差があったので、臨機応変に教員がフォローに入るなどの体制を更に高めていく。

科目名

11. 健康運動とスポーツ

担当教員

鳥居 昭久

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

69名

◆集計データ結果について

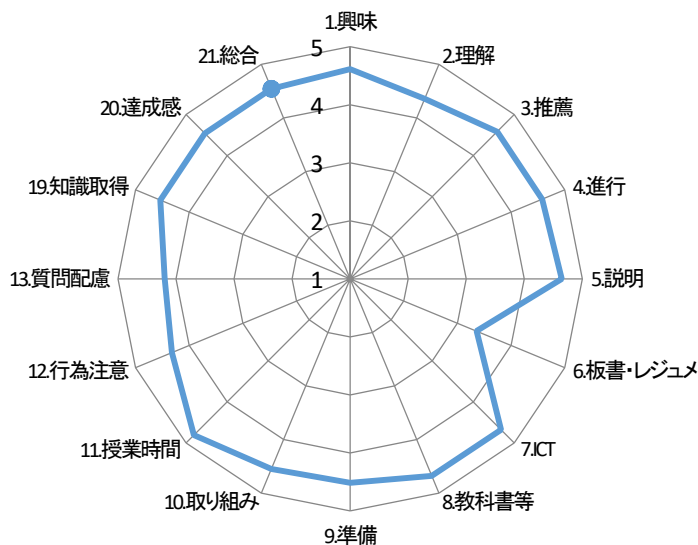
全体としては予想通りの結果と感じている。「板書・レジュメ」の項目の点数が低い、そもそもテキストをベースに講義を進め、基本的に実技実習と各学生グループによるアクティブラーニングを行っている為に、板書や資料配布は最低限にしている。その点を受講生自身の理解が低いことが影響していると推測される。この科目は、選択科目であるが内容としては理学療法、作業療法実技に直結する項目を掲げ、なおかつ、生理学、運動学の知識の復習、固定化を目指している。予習、復習時間は極めて少なく、加えて座して待っているだけの取り組みでは学習効果が上がるはずがない。この点で非常に残念に感じ、次年度の内容、進行方法などを検討しようと考えている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

生理学、運動学の知識を裏付けにして、受講生が高校までに経験してきたであろうストレッチングや体力づくり運動についての実習を中心に実施した。単なる経験だけに頼ってきているストレッチングや体力づくり運動では、理学療法士、作業療法士としての専門性は発揮できないため、以下に生理学、運動学の知識を実技に関連させて理解するかを求めた。この点で、この科目に対するモチベーションの高低が反映された結果がよくわかる。目的意識を持って、実習を行い、その結果として健康づくり運動の重要性や、スポーツに関連して実施されるストレッチングなどの運動の意味を感じているように思われる。一方で、座学的な取り組みの者は不満点があるように思われるが、そもそもの科目内容を理解し、自分自身で取り組んでみようという姿勢が感じられないことが残念である。このような者が臨床に出た時に、果たして十分な治療が出来るかと言えば、かなり不安になる。当該科目は選択科目で有り、その点での甘さも感じるころである。モチベーションの低い学生に対して、いかに高めていくかが課題であろう。

◆今後の改善に向けて

当該科目の前に実施される生理学、運動学総論の科目内容についての復習を求めるような事前課題を導入し、当該科目の内容の意味を認識させる方策を実施していく予定である。



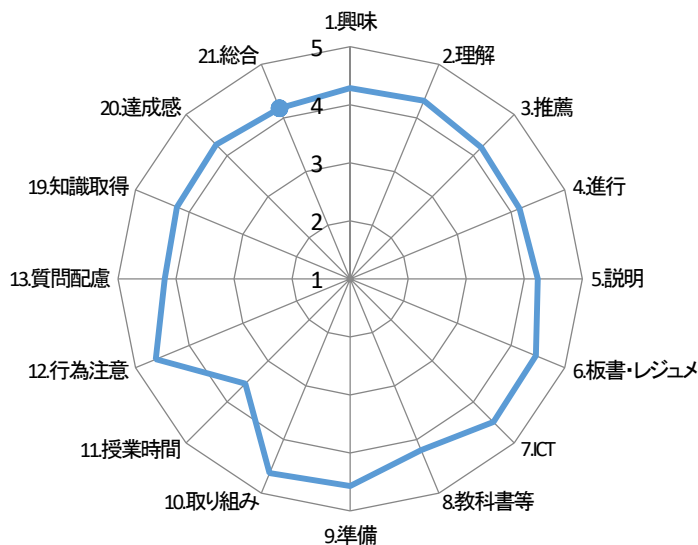
1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆集計データ結果について

アクティブ・ラーニングを取り入れ、概念形成に重きを置いた講義を行っている。本年度、学生の実態に合わせ、講義内容の精選とポートフォリオの記載の仕方の簡素化を行った。それ以外は昨年度と同様に講義を進めた。授業評価の結果、総合評価の平均が約4.2で、昨年度に比べ0.2ポイント低下していた。受講人数が大幅に増えたことによる影響もあると思われる。項目ごとに見ると「知識の理解」が0.1ポイント増加しているにもかかわらず、「知識の取得」は0.25ポイント、「達成感」は0.1ポイントほど昨年度に比べ低下していた。その他の項目については、「終了時間をきちんと守っていたか」の値以外は昨年度とほぼ同様な結果であった。「終了時間をきちんと守っていたか」については、なるべく丁寧な説明を心がけ、授業のスピードが落ち、講義が延長したことにもよる。終了時間はなるべく守らねばと思うが、そうできないときもあり、なかなか難しい問題である。今後、昨年度との単純な数値比較だけでなく、アンケート結果から浮き上がった問題点への対応策を検討し、次年度に向け、講義の改善につなげていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「生理学の知識がここに繋がっていることを授業で知り、生理学の必要性がわかった。」などの生理学や解剖学とも授業が関連してくることについての意見が30%くらい見られた。学問はばらばらで存在するものでなく、当然のことながら互いに関連しあっている。生物系の学問どうしなら尚更のことであるはずだが、今まで気付いていなかった知識や概念の関連に気付く意見がでてくることは、概念形成に重きを置いた講義の効果の現れと考えられ喜ばしい。また、アンケートの数値も高かったように、「説明が分かりやすかったので良かった」という意見も複数見られた。これについては、丁寧な説明を心がけ、授業スピードを落としたことにもよるとと思われる。「授業の進みが遅いなど思いました」という意見もあったが、概ね「進度がゆっくりで学びやすい環境でした」というような意見の方が多かった。しかし、授業のスピードを落としたことにより、延長することがあったので、来年度は気を付けたい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

講義の進め方については、学生の自由記載で「グループワークがあり他の人の意見もわかり、よかったです。」「パワーポイントがあつて理解がしやすかった。」「レジュメが丁寧で見やすくて良かったです。」などの意見が見られた。このことから、アクティブ・ラーニングを取り入れ、自作のプリント教材とパワーポイントを用いた、講義の基本的な進め方は変更しなくてよいと思われる。しかし、前述しているように、丁寧な説明で授業スピードが落ち、講義時間を延長することが複数回あった。そのため、講義時間を長びかせないように教材の検討をさらに進め、講義内容の精選を図る必要がある。また、蛇足ではあるが、講義時間が延長した理由としては、講義室のICT機器の不調もある。テレビに映像が映らず、講義をはじめるのが何回も遅れ、終了時間に影響することもあった。事前に機器の点検しておくことの重要性もひしひしと感じている。

科目名

13. 生命の科学

担当教員

石黒 茂

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

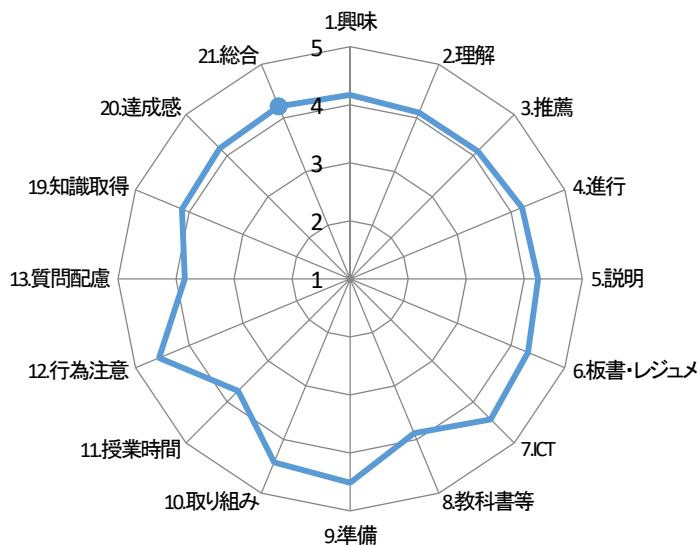
101名

◆集計データ結果について

学生の実態に合わせ、生命についての概念形成に主眼を置き、アクティブ・ラーニングを取り入れた講義を行っている。昨年度、評価方法も含めて講義内容の精選や指導方法の改善を行ったので、本年度は昨年度と同様に講義を進めた。ただし、教科書は使わず、自作のプリントと映像教材を使って講義を進め、受講人数が大幅に増えたので、ポートフォリオの記載の仕方は一部改めた。その結果、総合評価の平均が約4.2で、昨年度とほぼ同様な値であった。その他の項目についても、昨年度とほぼ同様な結果であったが、「興味」「理解」「知識の取得」「達成感」は昨年度に比べ0.1ポイントほど低下していた。受講人数が大幅に増えたことによる影響もあると考えられる。また、「教科書・参考図書等」については0.6ポイントほど平均値が低下したが、これは、本年度、教科書を用いなかったため「どちらともいえない」が大幅に増えたことによる。今後、アンケート結果から浮き上がった問題点への対応策を検討し、次年度に向け、講義の改善につなげていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の意見で一番多かったものは、「生理学や解剖学などとも関係づけて、学ぶことができた」といったような意見で約20%ほどを占めていた。次に、「生命について深く考え、理解することができた」「動画などの視聴覚教材が理解を助ける」「プリントが分かりやすくまとめられていた」「詳しい説明で分かりやすかった」などの意見がそれぞれ15%ほどあった。これらのことから、基本的には来年度の講義もアクティブ・ラーニングを継続し、自作のプリントと映像教材を使った現在の講義の進め方を続けたい。一方、昨年度は「ポートフォリオについて」の記載が一番多くみられたが、本年度は5名ほどであり、「復習がしっかりできてよかった」「理解を深めるいい機会になった」などの肯定的な声ばかりであった。これは、本年度、ポートフォリオの記載の字数を減らしたためと考えられ、「難しかった」「大変だった」という声はなくなったが、本年度の形式が学生にとってどれだけ効果的であったか、さらに検討する必要がある。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

学生の自由記載の内容を見ると、ほんの一部ではあるが「わかりにくかった」「眠かった」といったネガティブな意見がみられる。多様な履修者を、講義のレベルを落とさずに全員満足させることは容易でないが、シラバスの段階から学習内容や教材の検討をさらに進め、今後もより多くの学生が満足できる講義に向け改善に努めたい。また、自由記載の内容からも分かるように、本学の学生にとっては、生命科学の講義の内容を生理学や解剖学の内容と関係づけていくことも重要である。この点からも、効果的な講義内容の構成について検討していきたい。一方、学生の中には、高校までの暗記に頼るような学習方法から脱却できていない者が少なくない。そのため、講義にアクティブ・ラーニングを取り入れ、ポートフォリオで自分の学びを振り返らせ、自分で考え、考えをまとめることをさせているが、最後までその意義が分からずに終わっている者もいる。学生が医療短大でリハビリテーション科学を学ぶための基礎を作るには、初年次の講義で、学習に対する意識を切り変えることが重要である。そのための方策の検討も引き続き行っていきたい。

科目名

14. エネルギーのしくみ

担当教員

後藤 理夫

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

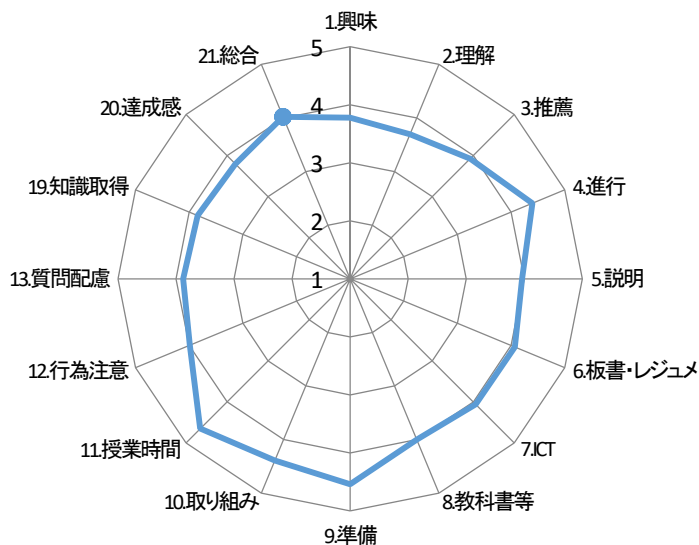
98名

◆集計データ結果について

学習内容を通常の半分の時間で課すという絶対的条件の中でいかにチョイスした授業にできたか、の観点から見ると、気になる点は予習の0時間は良いですが、復習の0時間が20%強居ることです。又、質問時間も難しい事です。業後に5~6人は質問に来てくれましたが、次の授業もあり、来ようにも来れなかった学生が居たと思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

物理の学習が初めての学生から、一通りは学習した学生までの約100名でしたが、より深く理解した学生から「日常生活におけるエネルギー」の視点で展開した事で、身近なものとしてとらえた学生まで色々の反応があり、私も楽しい授業でした。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

板書の字が「小さい」「へた」「読みにくい」の自覚は十分あります。「急ぐあまり、つい・・・」と言い訳してもダメですので、指摘を受けながら頑張ります。

演示実験に対する評価が高いようです。機会を多く作る事も、必要を考えるだけでなく、実作・実行したい。

科目名

15. 教養演習(PT)

担当教員

鳥居 昭久 加藤 真弓 宮津 真寿美 木村 菜穂子 松村 仁実
清島 大資 臼井 晴信 山田 南欧美 齊藤 誠

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

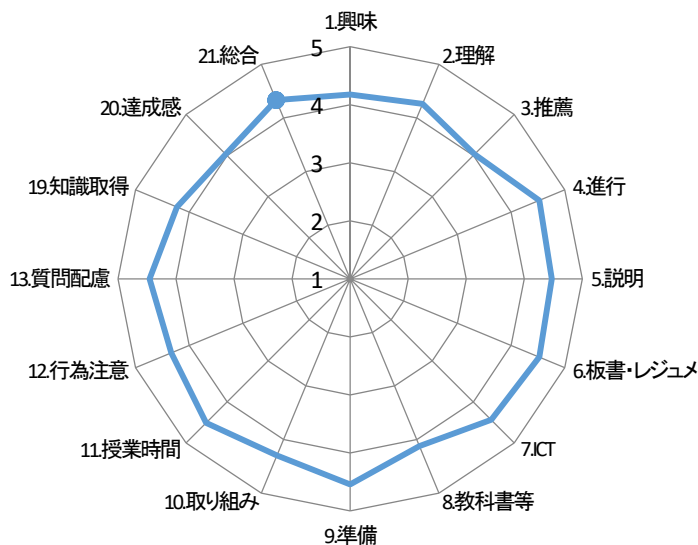
57名

◆集計データ結果について

総合評価が4.3点と概ね良好な結果であった。「達成感」、「興味」では4.0点と低い点数であった。本科目は、社会人、医療人に相応しい接遇・マナーの知識を得て、学生生活や臨床実習に活かすことや、3分間スピーチを通して、他者理解、自己開示、プレゼンテーションの練習を目的に実施した。また、社会人基礎力に関する学習、テーマに沿った調べ学習等を実施した。専門科目と比べると、既に頭ではわかっていることであるため、興味を持って取り組むまでには至らず、また試験を課していない、授業を聴いてすぐに実践する場もないため達成感も低かったのだと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見がほとんどであった。「基本的なマナーが学べてよかった」、「いろんな人と話すことができた」、「自己紹介でみんなのことを知ることができた」、「グループワークが多く、いろんな考えを知ることができてよかった」、「発表する機会があってよかった」などの意見があった。1年生前期すぐの授業であるため、一人の学生がなるべく多くの学生と関わる工夫や他者理解を促す工夫をしたことの効果であると考ええる。また、今後、求められる「表現力」、「聴く力」、「質問力」、「コミュニケーション力」、「問題解決力」などを身につける入口の授業として、様々なことに取組んだことが良かったと考える。肯定的な意見が多いながらも、評価点数としては大変高い結果ではないので、課題がいくつかあると考える。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

今年度は学生数が多く、発表を多く取り入れている本科目においては授業構成にやや苦しむことがあった。結果的に、タイトなスケジュールとなり、授業内でのグループ学習時間がやや少なくなった。そのため、受講者数に合わせた構成を今後は検討したい。学生には授業を通して、知的好奇心や他者に対する関心を持ってもらいたい、積極的に取り組める工夫をしていきたい。

科目名

16. 解剖学

担当教員

清島 大資

草川 裕也

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

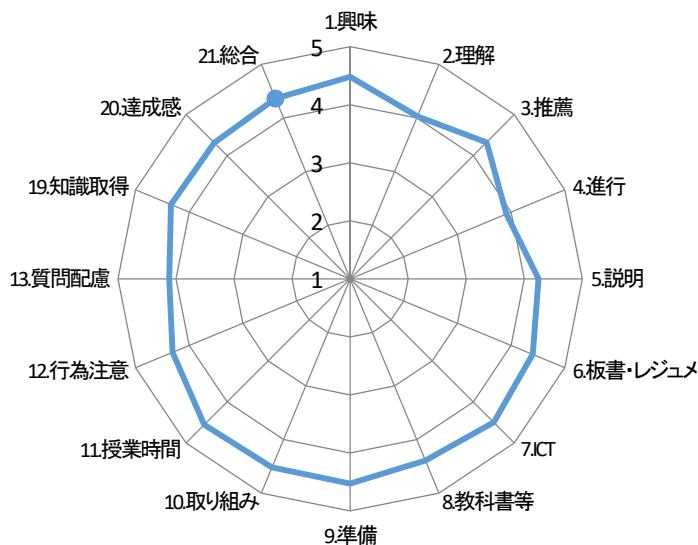
102名

◆集計データ結果について

総合評価において、すべての学生での評価が5段階評価の4.3以上となっており、おおむね評価は良好である。資料、「理解」、「進行」の項目においては、全体の評価に比べ低くなっている。自由記載に進むスピードが速くて追いつかなかった、勉強する量が多すぎてついていけなかったなどの指摘が見受けられたためだと考えられた。前半は慣れるまでペースを落として授業を進めていたが、後半はペースを上げたことも要因であると考えられた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この授業では前期で解剖学の全範囲を終えるため、予習・復習がしやすいように教科書に沿った授業を行った。また、その日の授業ポイントが予習や復習ができるように授業プリントも準備した。学習の習熟度を確認するために小テストも導入した。試験については、期末試験への学生の負担を減らすため、中間試験を実施した。さらに、授業後には必ず質問等の時間を設けるようにした。しかし、学生の意見として、「スピードが早すぎてついていだけで精一杯だった」等のコメントが見受けられた。かなりの学生が「授業スピードが速かった」と感じているようであった。毎回授業時、学生からの質問時間ではほとんど質問がでないため、学生自身で疑問に思うことややりたいことは発言してほしかったと思う。次年度は、もう少し授業プリントに書き込めるような工夫をしたい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

カリキュラムの都合上、前期で解剖学を終了させることを変更することができない。よって、教科書に沿った授業形態や現在の授業スピードを大きく変えることは困難である。次年度も①授業開始前にキーワードを配布し、予習・復習をしやすくする、②小テスト・中間試験を実施する、③様々な資料を学生に見せて、文字ではなくイラストや写真のイメージを残すようにするなどの改善を図っていきたい。

解剖学は暗記になりやすいが、理解する授業を行っていきたい。

科目名

17. 解剖学実習

担当教員

藤森 修

鳥居 昭久

木村 菜穂子

清島 大資

草川 裕也

山下 英美

加藤 真夕美

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

88名

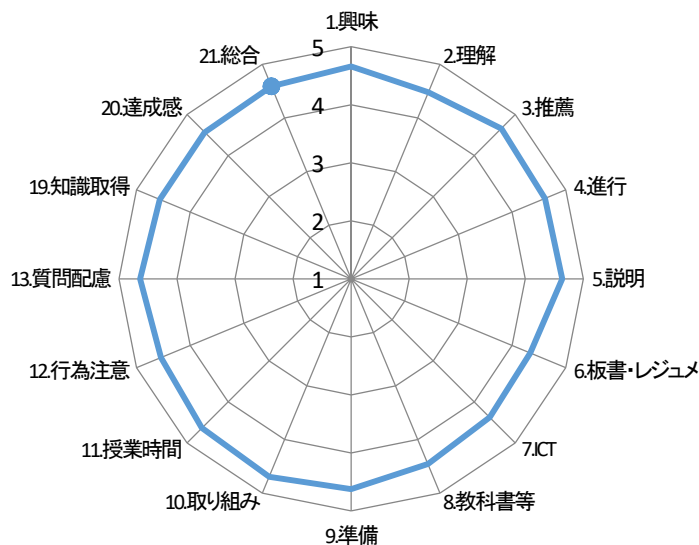
◆集計データ結果について

全体としてバランスが取れており、講義内容、実習内容はある程度前向きに取り組めたと思われる。予習、復習時間が少ない者が多いのが残念である。基本的に、暗記項目が多い上に、人体構造を立体的に理解するためには、十分な予習、復習をする必要がある。専門職になる者として、講義時間内で学習することには限界があり、予習、復習の重要性を感じて欲しいと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

骨学実習において、骨デッサンや、実物標本での学習が印象的になり、部位名称などを学習することには有効であったと感じる。また、名古屋大学にて実施された解剖標本見学などを通して、臓器、筋肉、骨格・関節などを立体的に感じる事が出来たことは、有意義な内容であったと思われる。

実物標本は、献体を通して実現できる実習で有り、貴重な体験であったことが感じられたようであるが、単に解剖学の学習にとどまらず、生命の尊厳や、篤志団体の活動の理念についての理解、感謝の念などをもっと考えて欲しいと思う。医療に携わる人間として、知識以前に大切な態度を身に付けることについての認識を持つことが重要であり、更にその部分のアプローチを検討改善すべきであると感じるところである。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

まずは、予習、復習についての取り組みを増やす方策を検討したい。医学教育の最も基本となる解剖学知識は、予習、復習を十分に行わなければ身に付かないと考えられることから、事前レポートなどを多くして、繰り返し学習させる機会を作ることを導入していく予定である。

また、解剖学実習を通して、生命の尊厳、慈しみの心の育てることが重要であると考え。単に知識に終わらない教育内容を検討していく。

科目名

18. 人体触察法実習(PT)

担当教員

松村 仁実

木村 菜穂子

清島 大資

山田 南欧美

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

58名

◆集計データ結果について

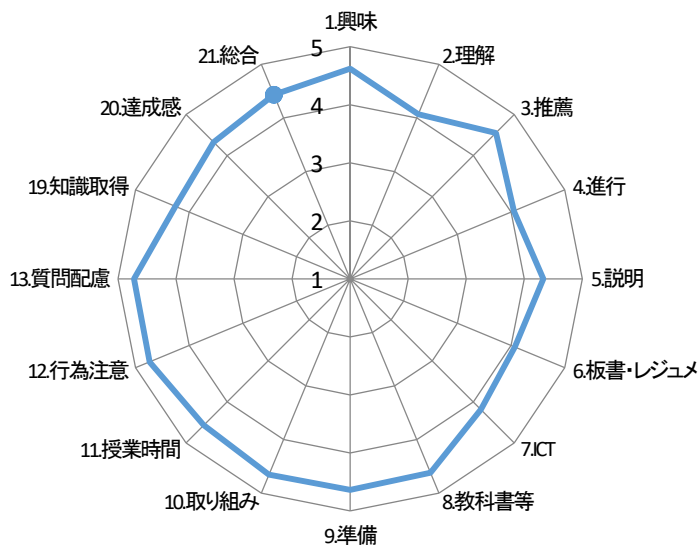
今年度は受講者が多く、例年2人ペアで実施していたところを3人1組での実習形式であった。教科書を参考にする際には、分かりづらい部分があった点もあったと思われる。集計結果をみるとおよそ4点以上の結果であった。「理解」、「進行」、「板書」などの項目で若干低い点数となった。授業内容としては、お互いの体表上に筋を描画するという事で、実際に筋を触った経験も少なく、それを正確に体表上に投影するという技術も求められるという点で理解が難しかったことが想像できる。授業ではデモンストレーションを通し技術や知識の伝達であるため板書などの使用はほとんどなかった。

学生の取り組み態度としては、ほとんどの学生が積極的に取り組みができており、予習や復習とも時間を確保できていたと言える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業内容の難しさの声も多かったが、同時に質問がしやすい環境だったことや説明の丁寧さも記載されていた。授業時間以外での対応もしていたことも含め、学生の不安に対する対応ができていると考えられるまた、授業を通して到達目標である触察することができるようになったことや解剖学の知識を使える知識につなげることができたとの評価が見られた。

小テスト実施に対する負担はあるものの、そのおかげ復習する習慣につながったと肯定的な捉え方が見られた。授業形態については、人数が多くデモンストレーションがしっかり確認できない場面があった点や学生の人数に対する担当教員数の不足を改善点として意見があげられた。授業時間の不足を挙げた声も見られた。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

初めて学ぶ内容であることから理解の難しさを変化させるよりは、説明や実技の時間を確保することで対応する必要があると考えられる。受講する学生数にもよるが、お互いの負担を考えるとできる限り2人1組になれることが望ましい。ただし、3人1組であっても質問を受けやすい環境と分かりやすい説明については継続していきたい。限られた授業時間の中で進行するので、触察する対象筋の選択を検討しあるいは触察部位を整理し、デモンストレーション技術の向上を目指し、実技にかける時間の確保を進めていきたい。

小テストの実施は、予習・復習の時間確保に貢献しているため、引き続き実施し知識の定着や技術の向上につなげていきたい。

科目名

19. 人体触察法実習(OT)

担当教員

鳥居 昭久

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

36名

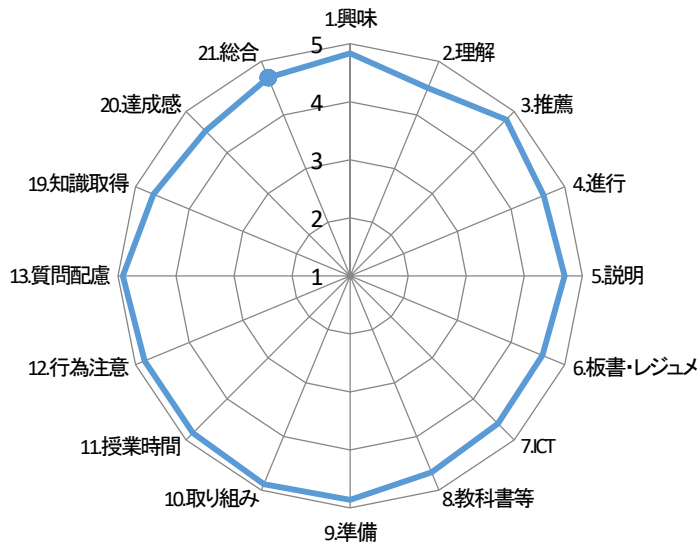
◆集計データ結果について

データを見る限り概ね学習効果は十分に上がっている印象を受ける。

全体として高得点であり、受講生の評価は高いと思われるが、一方で予習、復習の時間が少ない者が多く、小テストや実技の際に十分な点数に繋がっていない点に裏付けられている。予習を十分に行っていれば講義内容は極めて分かりやすい構成にしてあるので、事前の予習をいかに促すかが重要なポイントになると考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

前期に開講された解剖学をベースにこの講義は展開されるので、その復習になっているかがいささか疑問なところがある。講義は実技を中心に行っているため、実際に体験することによって理解が深まる内容であり、その点では自由記載の感想を見る限りでは学習効果が上がっていると推定されるが、ベースになる解剖学知識の不足、予習、復習による知識の確定が伴っていないと、実際の触診技術は有効に使えない。この点の認識を持って欲しいと感じる。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

予習・復習を促す方策を検討し、当該科目内で実施される実習を通して確実に技術を身に付けさせる内容で充実させたいと考えている。

科目名

20. 生理学

担当教員

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

101名

◆集計データ結果について

集計データから、総合点が3.9と、昨年の4.4より下回っている。評価が低かった項目が、授業時間である。評価の通り、確かに、今年度は、授業を延長することが多かった。

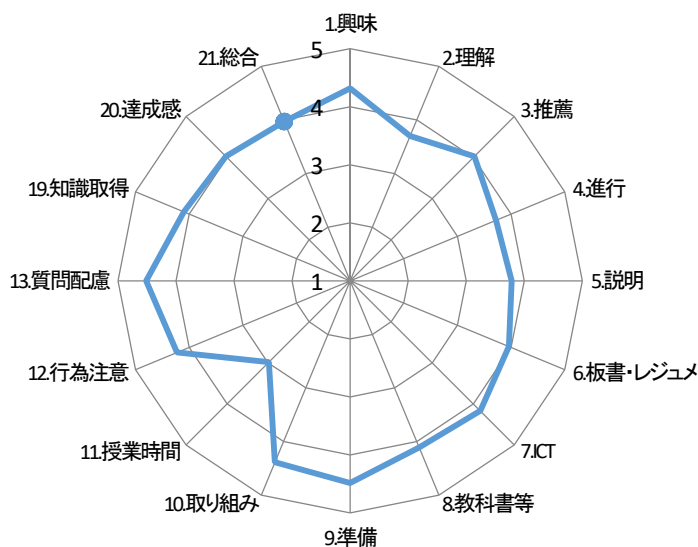
予習に3-4時間、復習に1-2時間かけている学生が多く、「14熱心さ」、「15質問」、「16目的等を意識」の項目では、「どちらかという取り組んだ」、「取り組んだ」、と答えた学生が多いので、能動的に学修するという目標はある程度達成した。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

業は、学生の能動的な学習と、教員からの解説講義を組合せ、知識の正確な理解を目指した。具体的には、①予習課題、②予習課題をもとにしたグループワーク、③学生からの質問とその説明、④最後にスライドを使った、授業のまとめと次授業の概説、⑤次回の授業前に、前授業の小テスト、という構成で行った。

自由記載では、良かった点として、予習課題、グループワーク、質問のしやすさ、スライドを使った解説、小テストなど、それぞれについて好評であった。特に、予習してあるので理解がしやすい、質問がしやすかった、説明が丁寧だったとの意見が多かった。

グループワークが良かったというコメントもあったが、グループワークの時間が足りない、という意見もある。今年度の学年の傾向として、課題をやって終わり、知識を深めるとか、疑問点を解消するつもりがなく、グループでお互い確認したり、教え合う行動がとれないグループがあった。また、大きな問題として、予習にしている教科書を読んで理解することができない学生がいる。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

学生の能動的な学修を基に、授業を進めた。昨年度は、グループワーク後の質問があまりなく、説明する時間が少なかったが、今年度は、学生の数が多いこともあり、毎回何らかの質問が上がり、解説した。そのため、授業時間を延長してしまった。毎年、クラスの受講態度が変わるので、様子を見て、臨機応変に進行していきたい。

グループワークを活性化したい。予習で理解ができない学生がいても、グループワークで補うことができる。学生の人数が多いと、一人当たりの、学生への働きかけが減る。グループワークの意義を説明しているが、折にふれて何度も説明する。また、今年度は、グループワーク後に学生を数名指名し、理解したことと疑問点を発表させていた。予習課題に対して、理解するポイントを提示しているので、来年度は、そのポイントを意識した上で、理解したことを学生に述べさせるようにし、グループワークの際にグループで確認させるようにする。

科目名

21. 生理学実習

担当教員

清島 大資

宮津 真寿美

齊藤 誠

清水 一輝

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

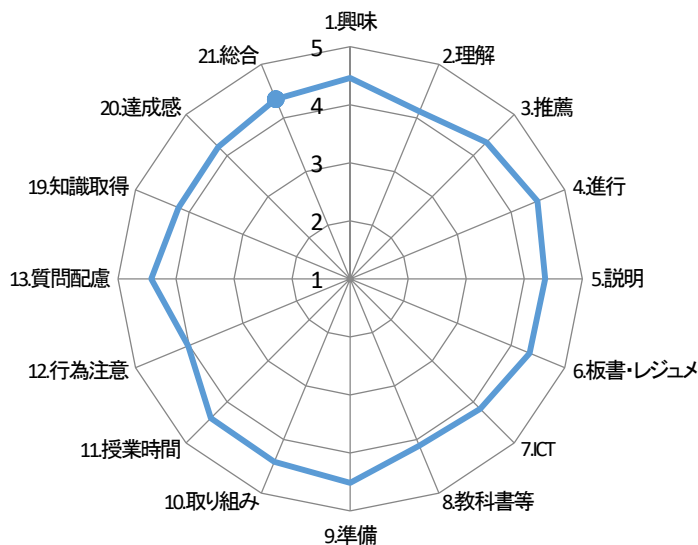
89名

◆集計データ結果について

すべての項目において、5段階評点の4.3段階以上となっており、概ね評価は良好である。「行為注意」の項目が他に比べ、やや低い評価となっていた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この授業では、前期の生理学で学習した内容を実際に体験するため、人だけでなく、実験動物を利用して複数の実験・実習を行い、その結果を解釈・考察することを目的に授業を行った。授業の最後には各項目の担当を決め、発表会を実施し、レポート記載が苦手な学生に対しても議論できるような場所を設けた。学生の意見からも、「実際に体験し、生理学の復習をすることができた」などのコメントがあった。その反面、グループで実験・実習を行うため、実験・実習に積極的に参加する学生とそうでない学生がおり、学生からも参加しない学生がいると負担が大きくなる等のコメントがあった。また、今年度は一つの班あたりの人数が多く、やりづらかったとのコメントもあった。しかし、担当教員の人数を考えると、グループの人数を大きく減らすことは難しい。実験・実習へ参加しない学生に対しては、教員からも注意しているが、学生自身で注意しあえるような環境も作ってほしい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

学生の実験・実習への参加意欲を高めるため、生理学で学んだどの知識を活用するかなどキーワードを実験・実習前に説明するなど工夫を図っていききたい。学生から提出されたレポートに関しても、できる限り丁寧にフィードバックを行い、正常な人体の構造と機能について理解し、説明できるように工夫を図っていききたい。次年度は担当教員を1名増員し、実習項目を増やす予定である。そのため、班の数も増やすことができるため、一つの班あたりの人数が今年度よりは減る予定である。今年度の反省を踏まえ、より良い実習にしていききたい。

科目名

22. 運動学総論

担当教員

齊藤 誠

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

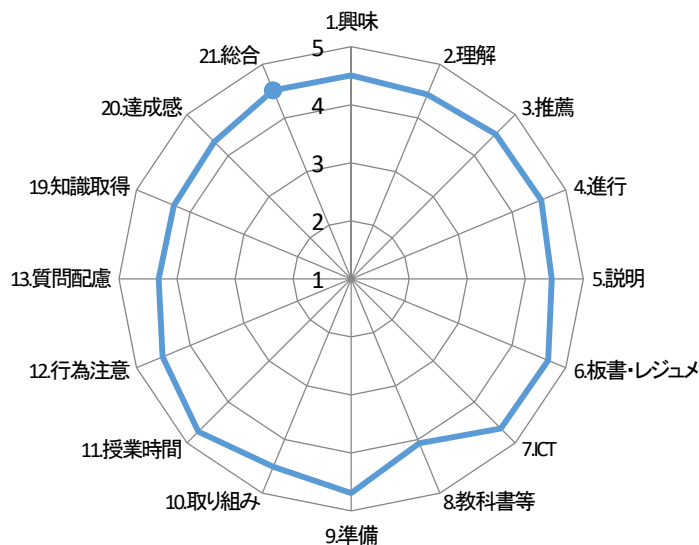
101名

◆集計データ結果について

各項目の結果については、おおむね4.3～4.5点程度であり、良好な結果であったと認識している。
 「指定された教科書や参考図書、参考文献などの使用は適切でしたか」に関しては、やや点数が低かった。運動学総論にて提示した教科書をほとんど用いなかったことが原因かと思われる。提示した教科書自体は、今後の講義や臨床にて使える本を選定しているので大きな問題はないかと感じている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

大多数は「わかりやすかった」との意見であった。励みとして今後も研鑽していきたい。
 要望や意見としては、「小テストの範囲を明確にしてほしい」、「講義プリントを、もう少し詳しく書いてほしい」、「私語を注意してほしい」などが挙げられた。
 小テストに関しては、ほとんどが前回講義の内容から出題しており、それほど難解であるとは認識していない。自己学習や意欲を喚起できるよう伝えていきたい。
 講義プリントは、私の意図として、学生が講義を聴き、書き込むことで完成するような資料作りを目指している。再度周知を徹底していき、きちんと講義を受けるよう指導していく。ただし、やむを得ず講義を欠席したものに対する配慮は一考の余地があるかと思われるので、来年度以降の課題とする。
 私語はある程度は注意をしたが、大人数であれば、すべてに対応できないのが現状である。各教員が再三注意をしているので、学生の意識向上に期待したい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
 19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

今年度から、3次元的に筋収縮や関節運動が理解できるように、動画を使用した講義を展開した。多くの者がアンケートにも書いてくれたように、評判は良かった様子なので、今後も継続していきたい。

改善を検討する項目としては、やむを得ず欠席した者への対応である。本講義は小テストを、ほぼ毎時間実施しているが、欠席者への特段の配慮はしていない。この点については、来年度の開講に向けて検討していきたい。

科目名 23. 運動学 I (頭頸部・上肢)

担当教員 草川 裕也

専攻・配当年次 PT OT 1年

回答者数

96名

◆集計データ結果について

すべての項目について5段階中4以上となり、良好な結果であった。しかし、「理解」、「板書・レジュメ」、「達成感」の項目においては、他の項目と比べるとやや低い評価となった。自由記載においても記載があったが、本授業で使用したスライドを資料として配布してほしかったとの意見が多く、資料がなかったことが評価に影響したと考える。また、本授業の内容には、多く解剖学の知識が含まれており、解剖学が苦手な学生にとっては理解しにくかったと思われる。そのような点が達成感や授業到達目標の達成に影響したかもしれない。さらに、本授業においては授業到達目標などへの意識が低かった。初回授業にてシラバスに沿って目標の説明を行ったが、意識できていなかったのは残念である。加えて、毎回、前回の授業理解度を確認する小テストを実施したが、予習や復習をしていない学生がいたことは残念である。

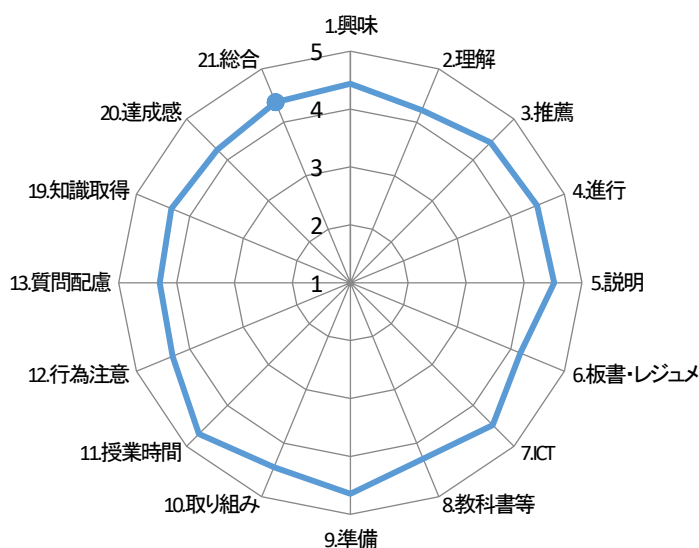
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業で使用したスライドについては良かったという記載が多く、理解の手助けになったことは良かったが、上述の通り、資料として配布してほしかったとの記載が多かった。授業の内容は教科書に則したものであったが、スライドで使用した画像は、教科書以外のものも多かったため、そのような意見があったと思われる。配布資料については今後検討したい。また、教科書を2冊使用したが、どちらを主に使用しているのかわかりづらかったとの記載があったため、教科書のページをスライドに記載するなどして示していきたい。

また、進行が早かったとの記載も多かったが、ゆっくり進めたつもりであり、本授業の最終回に全体の復習を行えるほど、時間には余裕があった。そのため、進行のペースについては来年度に向けて検討していきたい。

◆今後の改善に向けて

配布資料、教科書の使用、授業の進行速度については、上述の通り改善が必要と考えるが、授業の内容やスライドについては、良い評価を得たため、今後も継続していきたい。毎週前回の授業内容に関する小テストを実施したが、予習や復習を行っていない学生がいたため、予習や復習の必要性について授業内で十分に説明していきたい。小テストについては、毎回授業内でフィードバックを行ったが、それについては良い評価を得たため、今後も継続していきたい。授業は比較的ゆっくりと進めることができたため、前回の授業の振り返りを冒頭で行うようにした。それについては、良かったとの記載があったが、進行速度は早かったとの記載がいくつかあったため、進行ペースについては検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 21 総合 (軸単位: 5段階評価点)

科目名

24. 運動学Ⅱ(体幹・下肢)

担当教員

山田 南欧美

臼井 晴信

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

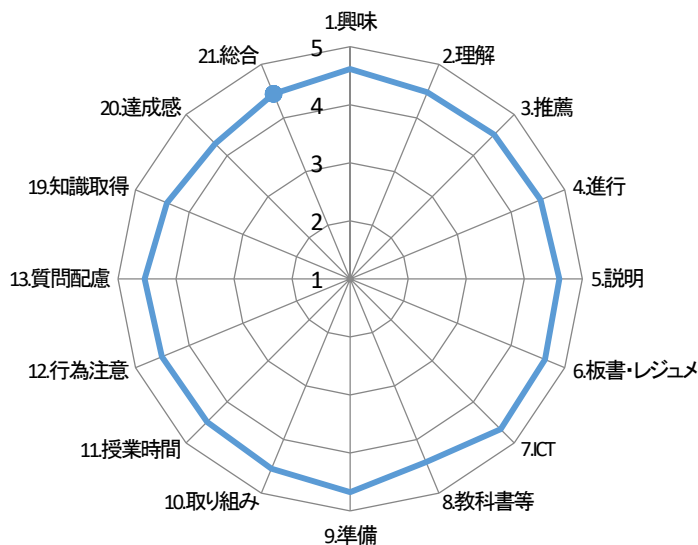
96名

◆集計データ結果について

全ての質問項目において、アンケート結果が4点以上であり、総合評価も4.4点であったことから、概ね高評価であったと考える。熱心に取り組んでいたかという質問に対しては、9割以上の学生が熱心に取り組んだと答えており、学生のモチベーションを高められるような授業を展開できていたと考える。ただ、達成感が4.2点とやや低く、熱心に取り組んだのに、あまり達成感が得られないという、やや残念な結果となっている。授業で得た知識のアウトプットの場として、最終講義においてグループワーク形式の発表機会を設けたが、スムーズに発表できるグループが少なかったことが、達成感の低さにつながったと考えられる。また、本授業では、予習・復習を促すため、予習・復習課題を提示し、それを提出させるという方法をとった。それにもかかわらず、予習時間・復習時間が全くない学生が数名おり、予習・復習課題が十分に活用されていなかった可能性が考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本授業では、骨模型を積極的に使用し、三次元的なイメージを持つことを意識させながら授業を行った。このことが、「骨模型を使ってよかった」という大多数の意見につながったと考える。また、ゴム等を使って実際の筋や靭帯の位置を作成させたり、ペットボトルと風船を用いて肺の模型を作ったり、といった実習も行った。このことが、より運動学的知識を深めることにつながり、学生からの「わかりやすかった」との評価につながったと考える。また、授業では、3人の教員がオムニバス形式で下肢・体幹・呼吸に関する運動学の授業を展開している。よって、教員によって授業資料内容等にやや差がある。このことが、「授業のやり方を統一してほしい」との意見につながったと考える。ただ、「それぞれの教員がそれぞれの分野を細かく教えてくれたので理解できた」との意見もあり、本形式に関しては、再考の余地がある。また、グループ発表における発表準備時間が少ないとの意見があったため、準備時間の拡大が必要と考える。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

本年度の評価が概ね高かったことから、授業形態・授業内容については、来年度以降も同様に継続していく予定である。本講義は、解剖学・生理学の知識と共に、今後学んでいく課程の基盤となる科目であり、十分に理解を深めておくことが必須である。今年度に取り組んだ予習・復習課題内容を今一度再考し、学生の達成感につながるような授業展開ができるよう工夫していく。また、グループ発表における発表準備時間については、昨年度に比べると拡大したが、それでも足りないとの意見が挙がったため、他の授業の進め方と合わせながら、準備時間の確保を図っていく。来年度も3名の教員で授業を行う予定であり、やり方を統一できる部分は統一しながら、それぞれの教員の良さも尊重して、授業を展開していきたい。

科目名

25. 運動学実習(PT)

担当教員

松村 仁実

臼井 晴信

山田 南欧美

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

52名

◆集計データ結果について

今回は受講人数が多かったため、8班編成とし1グループの人数は7人程度とした。実習課題を8課題設定した(ただし、学生が実施する実習は4課題とした)。実習授業であり、主にグループワークとして実習を進めた。各班でレポートを作成し、提出、前半のデータをまとめた発表を行った。集計結果はすべての項目で4点代前半であった。

「行為注意」、「授業時間」、「教科書」の項目は若干低い点数であった。実習によって実施する場所が異なる点や、学生人数が多いこともあり、適切な注意対応としては不十分な面があったと考えられる。

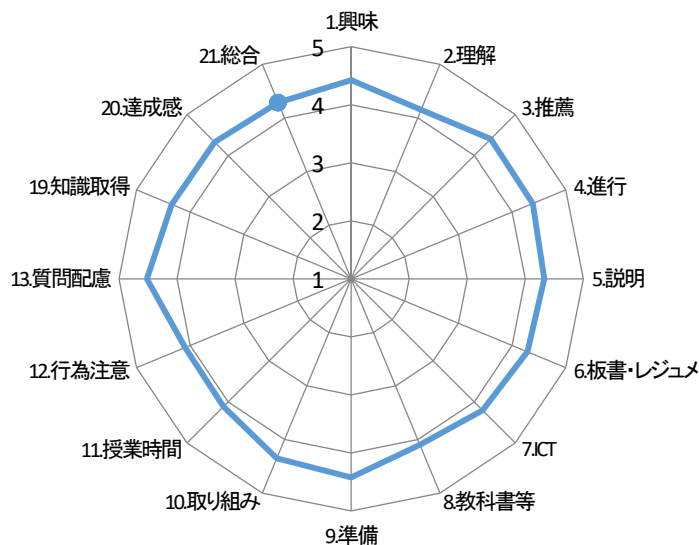
また、時間に関しては、実習後にレポート作成の時間を設けており、授業時間外での負担を軽減する配慮をしていたが、各班の進行状況によっては時間を過ぎても課題をする必要があったと思われる。

学生の取り組みとしては、多くの学生は熱心に取り組み、質問もできていた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くのテーマを実習したことで、機器操作を理解したり、興味が広がったとの記載が見られた。複数課題を実施体験することは今後も継続していきたい。レポートを通して、理解を深めることができたとの意見が見られた。フィードバックし、理解度を確かめながら必要な事項を伝えることは学生の理解につながるという。また、再提出することで、「教員に確認に行く」という態度面での教育効果もあったと考えられる。

グループ課題について、不平等を挙げた意見が見られた。グループ内での学生ごとに取り組みの差があったことに対してグループとして評価をすることへの不満を挙げていた。ただし、グループ課題であることを説明しているため、学生自身が解決してほしい点である。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

実習授業であるため、多くの実施体験を通し機器操作の理解、またレポート作成や発表を通し論理的な思考や意見を伝えることを修得することに繋げていきたい。そのため複数の実習課題を設定することは継続していく。また、レポートを通してのやり取りも効果的であるとされる。ただし、グループ内での取り組みの差が生じてしまうことは減らすように配慮する必要がある。

受講者全員が論理的な思考力を身につけることが望ましいので、1グループの人数を適切な配置し、課題の分担量をコントロールすることも検討する。ただし、十分なレポートへの対応をするためには、教員側の負担を踏まえた上での検討が必要である。また、課題量に差がある場合については学生の成績に反映するなどにより不平等感の解消についても検討していきたい。

科目名 26. 運動学実習(OT)

担当教員 草川 裕也

専攻・配当年次 OT 1年

回答者数 37名

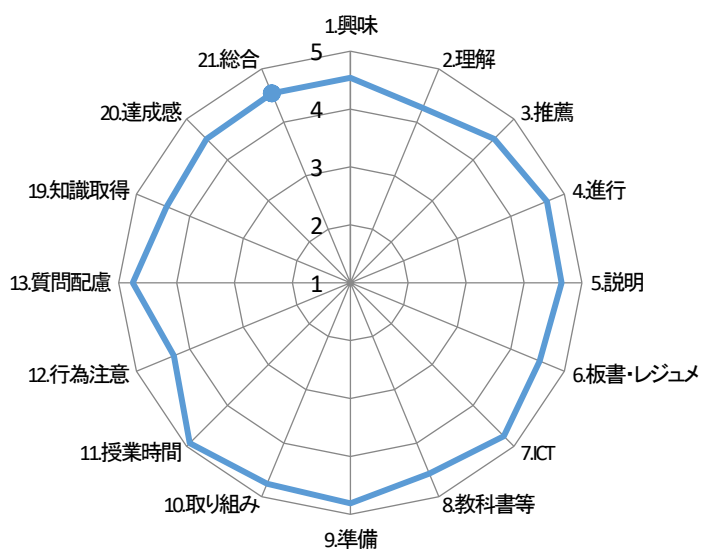
◆集計データ結果について

すべての項目について5段階中4以上となり、良好な結果であった。しかし、「理解」、「行為注意」、「知識修得」の項目においては、他の項目と比べるとやや低い評価となった。本授業は、動作・姿勢分析とレポート作成が主であり、レポートを通して理解度を確認した。開講期間中に全ての授業のレポートを完成できた学生はおらず、全員が授業終了後に完成となったため、本授業評価実施時においては、知識の修得が不十分であったと思われる。「理解しやすさ」の項目が低くなった点もその影響かもしれない。

また、本授業においては授業到達目標などへの意識が低かった。初回授業にてシラバスに沿って目標の説明を行い、毎回の実習において目標が設定されていたが、意識できていなかったのは残念である。さらに、授業終了時に毎回次回の実習内容の予習を行うよう促したり、シラバスに予習範囲を記載したりしたが、予習していない学生がいたことは残念である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本授業は、毎回課題としてレポートが課されるため、非常に大変であったと思うが、レポートに関しては「大変だがよかった」との評価であった。レポート作成を通して、疑問点を検討したり、教員に質問したりできたこと、学生個別に不十分な点をこちらから説明できたりしたことが効果的であったと考える。しかし、座学での学習が不十分である場合、実習の結果の理解や検討が非常に難しいため、簡素なものではあっても知識面に関する講義を組み込んだ方が良いと思われる。同様に、実習後に十分な解説を行う必要があると思われるが、レポートの進捗状況が学生一人一人によって異なるため、どのタイミングで解説を行うべきなのかは今後も検討が必要である。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

上述の通り、実習による体験とレポート作成という授業の内容については適切と考える。課題をこなすのは大変であると思われるが、個別に添削指導を受けられることで、学生からの評価は良い。そのため、この形式を継続していければと思う。また、グループで実施するという授業形態についても評価は良かったため継続したい。

しかし、授業到達目標などへの意識が低かったことは問題であり、初回授業での説明はもちろんなこと、毎回の実習においてもはっきりと口頭で説明する必要があると考える。毎回の実習の目標は、教科書に記載されているため、予習をしっかりと行っていた場合、目標にも目が通されているはずだが、それだけでは不十分かもしれないので、口頭でも確認すべきと考える。これを効果的に行えるようにするためにも、予習の必要性を説明し、予習を促す必要がある。

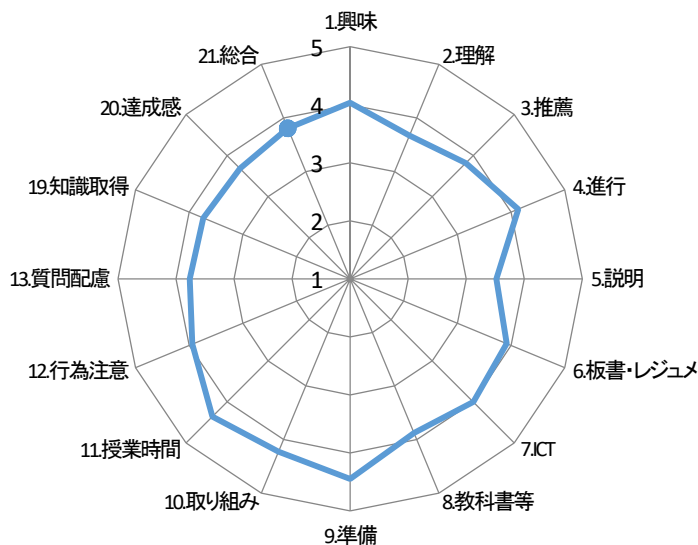
さらに、評価が低かった授業を妨げる行為に対する注意を徹底していきたい。

◆集計データ結果について

人間発達学の講義としては今年が初年度であり、医学生理学的発達と精神・心理学的発達を二本柱に骨組みを立てた。そして、各発達過程に関連した特有の疾患を提示し、発達と疾患がいかに深く関連しているか実感してもらうことを目指した。また、より立体的に「人の発達」が把握しやすいよう、各段階の基本となる成育ポイントを多くのイラストや写真、図、データなどを配置し、プリント作成を行った。学生のアンケート結果からは、思った以上に気に入られたようである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「プリント枚数が多すぎる」「どこがポイントか分かりづらい」などの少数意見は毎度のことであるが、各授業の開始時には前回講義の復習を行っており、必要なポイントは毎回しっかり明示してきた。講義が開始されれば私語を慎むなど、学生自身の授業態度が問われるケースも多いと感じる。逆に、「プリントは見やすい」「理解しやすい」との評価も結構あり、今年の方針は来年も継続していく予定である。ホワイトボードへはできるだけ平易に書き込むよう注意しているが、時間的制約もあり、授業に十分入り込んでいない場合などには少々読みづらいかも知れない。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

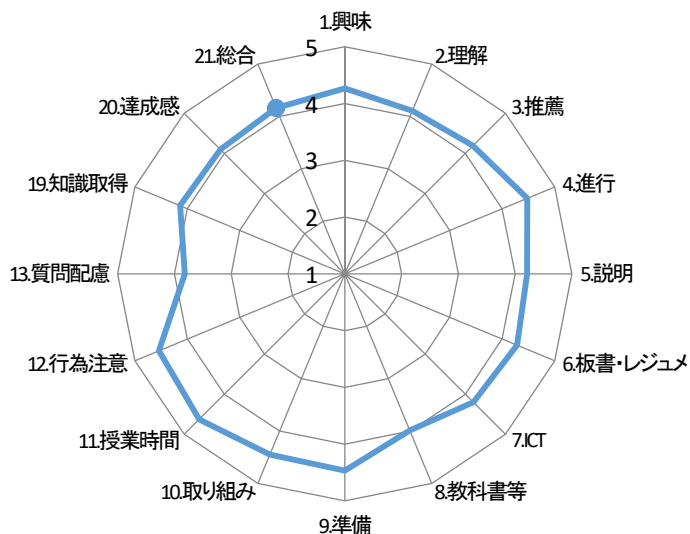
OT、PTの合同講義で今年度は特に受講生も多かった。しかし、教室は新校舎で行うことができ、設備も整っているなど、講義自体は思った以上にやり易かった。ただ、教室が広い分、後方学生の私語も多かったようで、他の学生から不満が聞かれた。授業中の注意叱責は教室全体の雰囲気大きく損ねてしまい、こんなことが問題になるとは恥ずかしい。まずは、学生自身への猛省を促し、意欲ある学生に対して熱意あふれる好授業を提供したい。

◆集計データ結果について

レダーチャートを見ると、満遍なく物足りないような結果であった。質問に関しては、毎回、講義終了時に質問・コメントを求めるのだが、一度として声は挙がらなかった。これで質問配慮がされていないと言えるのだろうか？講義内容が難解にすぎて、質問もできないような状況だったかもしれない。一般臨床医学から外れ、病理学や生理学を織り交ぜて講義を編成し、本学の学生が最も苦手とする部分の克服の材料になればという思いで、熱意をもって取り組んできた積りである。できるだけ大きな声で話し、できるだけ見やすいスライドを作り、復習に役立つようにエキスのみ抽出したプリントも毎回配布した。自分としてはこれ以上やれないというくらいに学生に便宜を図って講義に臨んでいるつもりである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

毎回、エキスをまとめたプリントを用意し、配布したことは好評だったようだ。また、講義の合間をぬって行ったDVDなどは極めて好感度が得られた。講義科目としては「一般臨床医学」の教科書の内容は、内科学の前哨戦みたいなもので、本当に必要かと考え、3年次の模擬試験結果を詳細に検討すると、病理学や病態生理学を教育すべきと判断し、一般臨床医学から離れた講義内容を組み立てた。したがって、難しい講義であったかもしれないし、覚えて欲しいことが多すぎて、スピードが速すぎたかもしれない。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 21 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

用いる教科書として、「病理学」をシラバスに掲載したが、次回は教科書は不要としよう。1回ごとの講義内容のボリュームを減らそうと考えており、そうすれば、ゆっくりと説明ができる。質問やコメントを講義終了時に求めることは続ける。とにかく、全体として、もう少し易しい講義にしたいと考えている。1枚のスライド内容を少なくし、大きな文字でスライドを作成する。やはり、覚えて欲しい要点のボリュームを少なくすることが最も必要とされるのかもしれない。

◆集計データ結果について

教員に対する評価では、レーダーチャートに示されている通り、16項目中14項目で4.0以上、2項目が3.63、3.99であった。最低の評価(3.63)は、自由記載の中でネガティブなコメントで記載されている通り、ほとんどが「教員の説明が聞き取りにくかった」であった。これはマイクの使い方の問題であったと思う。またその次に低い評価(3.99)は、「学生が質問、意見を述べられるような環境ではなかった」であった。当初、授業の最後に質問時間を設けていたが、質問が全く出なかったため質問時間をとることをやめたためであった。

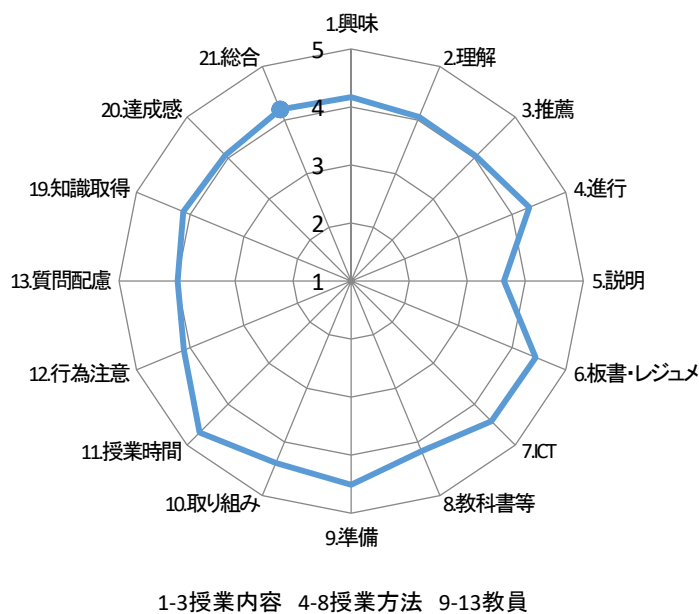
公衆衛生学は授業内容が学生にとってあまり関心の持てるものではないため、時に触れて関連する臨床での事例を紹介したことは良かったと思う。また講義の後半部分では、公衆衛生学に直接関係はないが、コミュニケーション・スキルを修得すべく、コーチングの講義を行った。コミュニケーション・スキルは学生にとって最も重要な資質であり、この講義は学生からも高い評価を受けた。さらに、最後の3回の授業では、定められたテーマに従って学生同士が自分の意見を言い合い、それをまとめて発表するというワークショップ形式の授業を行った。ワークショップは学生にとって将来必ず経験することになる教育方法であり、この講義も学生からの評価が高かった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

否定的なコメントは約19%(19/102)にみられたが、その9割以上は授業中の声が聴き取りにくかったことであった。これは前述した通りマイクの使い方の問題であったと思う(最初はピンマイクを用いて授業を行っていたが、途中で学生から声が聞こえないとのフィードバックを受けてからはハンドマイクに変更した)。100名の授業では、後部座席の学生まで声が聞こえるようにするためには、ハンドマイクで大きい声で話す必要があると反省している。そのほかの否定的なコメントは作成した資料の重要ポイントを示してほしいとの内容であった。この点については改善したい。肯定的なコメントとしては、①資料のプリントが分かりやすいこと、②授業後半のコミュニケーション力を高めることを目的にコーチングの講義を取り入れ、その講義が高く評価されたこと、③公衆衛生に関連した内容について関連した具体的な臨床の話を取り入れたこと、④最後の3回の授業はワークショップ形式で学生にグループ討議をさせたこと、⑤毎回、振り返りのレポート提出を要求したことなどがあげられる。

◆今後の改善に向けて

今回はじめて短大の学生に対して、公衆衛生学について半年間にわたって週1回全15回の講義を担当した。その印象は本一冊分の公衆衛生学の内容を、毎回数十ページ分の内容でスライドにまとめて講義をすることは結構大変な作業であった。公衆衛生学で学ぶ内容は、学生にとっては将来医療従事者として必須となる基本的な知識であり、また国家試験でも問われる内容であり、しっかり習得させる必要があった。しかし、公衆衛生学の内容は、学生にとっては決して興味をわく内容ではないので、それに関心を持って聴いてもらうために講義方法をいろいろ検討して行った。今回の学生からのフィードバックを大切にして、これからの授業では、学生が理解しやすく、かつ興味を持って聴けるような授業方法を取り入れていきたい。例えば、いろいろな臨床での事例やマスコミ等で取り上げられている話題を交えて話をするなどを積極的に行っていきたい。また、自由記載のコメントにある内容については、肯定的なコメントにあるような授業を積極的に行うことを心掛け、否定的なコメントに対しては、全員の学生に聞き取りやすい話し方で、学生がもっと質問しやすい雰囲気、時間を作るなど改善していきたい。

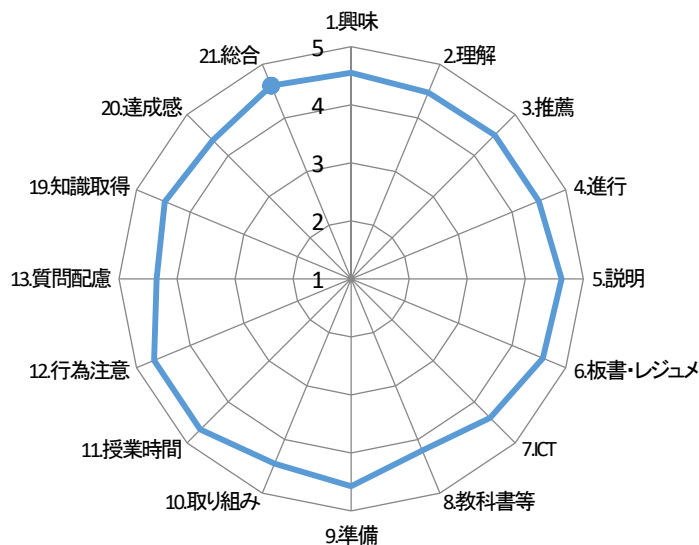


◆集計データ結果について

身近な例示を意識した解説、明確な整理された板書、使いやすいワークブック形式の教材作成など、基本的な授業方法の工夫が効果を上げている。レーダーチャートは、評価値がほぼ4.5前後の概ねバランスのとれた形となっている。「8. 指定された教科書や参考図書、参考文献などの使用は適切だったか(4.2)」と「15. 質問を述べられるような環境だったか(4.35)」がやや低くなっている。出席カードを兼ねたリアクションペーパーや小レポートに、質問があれば書いてもらい、次回の講義開始時に対応しているが、当該授業時間中の質問対応にも配慮したい。分からない点を減らすような授業内容を心掛けていることが「質問が出ない」ことに関連しているかもしれない。授業開始前の30分程度をオフィスアワーとしてなるべく待機するようにしているので、この時間を利用するようさらに指導していきたい。また、授業内容・方法についての評価結果は概ね問題ないが、「予習」「復習」がわずかしか行われていないことは前年度とあまり変化がない。授業外学修を促す働きかけは今後も継続する課題である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

回答席40名で、38コメントが得られた。例年のように、心理アセスメントについての体験的学修を評価する意見のほか、将来に役立つとする意見があった。また、「わかりやすかった」「面白かった」「興味が持てた」「プリントが役に立った」など授業内容、方法について多くの肯定的な意見が寄せられた。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

基本的には、現在の授業内容や授業方法が学生に支持され受け入れられている結果となったが、テキストの使用方法など検討していく。提示装置等を効果的に使い、テキスト、プリント、板書と合わせてより分かりやすい授業方法と内容の充実を図っていく。前述したように、質問への対応(授業中に議論を促す働きかけ)については依然として課題があるので、改善していきたい。また、予習・復習を促す指導はまだ不足しているので、授業の到達目標と履修上の注意を常に意識させるような働きかけを継続していく。

科目名

31. 内科学

担当教員

杉山 成司

専攻・配当年次

PT OT 2年

回答者数

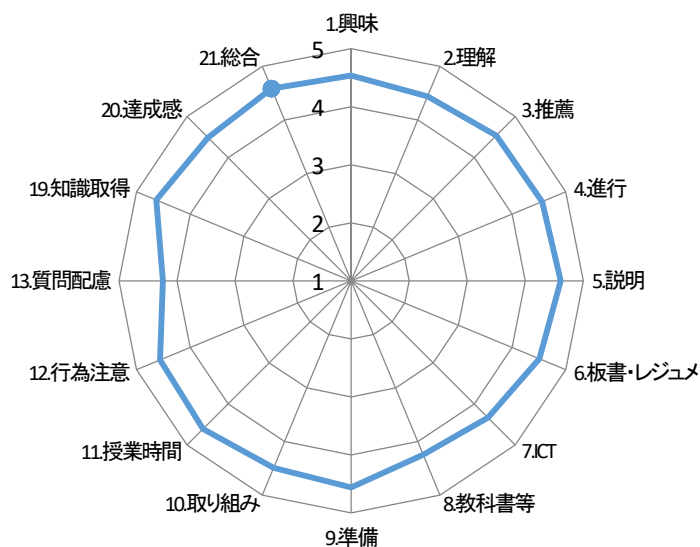
41名

◆集計データ結果について

内科学は守備範囲が広く、全体が概括的で散漫な内容にならないよう、生理学を基本にした症候学、循環器系、呼吸器系、消化器系・肝胆道系、代謝・内分泌系などに力点をおいて講義を行った。これらの疾患病態を取り上げることで、必然的に感染症や腎泌尿器疾患など他の領域とも深く関わってくることになり、意識して組み立てた。学生が複合的な視点で理解を得られるよう、図表を多用した最近の社会現象の話題なども随時提供し、学生のモチベーションを上げるべく苦心してきた。徐々にはあるがある程度の効果があったようで、集積データからもそのように窺える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

少数ながら、毎年「教科書」の活用を訴える要望があるが、実際には配布する授業プリントには教科書やその他の参考書から図・表・記載を多数引用している。実は、教科書による説明文には内容把握がかなり難しいことも多く、現場医療に沿った理解度を高めるよう、工夫している。今後ともより有効的な講義法を試行したい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

PT、OTの混合授業であり受講者数も多く、また教室は前後に長く、見やすさ、聴きやすさなどの観点からも講義には一定の制約がある。ただ、多くの学生は勉学への熱意、希望を持っており、彼らの意欲を最大限引き出せるよう、これからも真摯に対応していく。

科目名

32. 整形外科学

担当教員

山田 正人

専攻・配当年次

PT OT 2年

回答者数

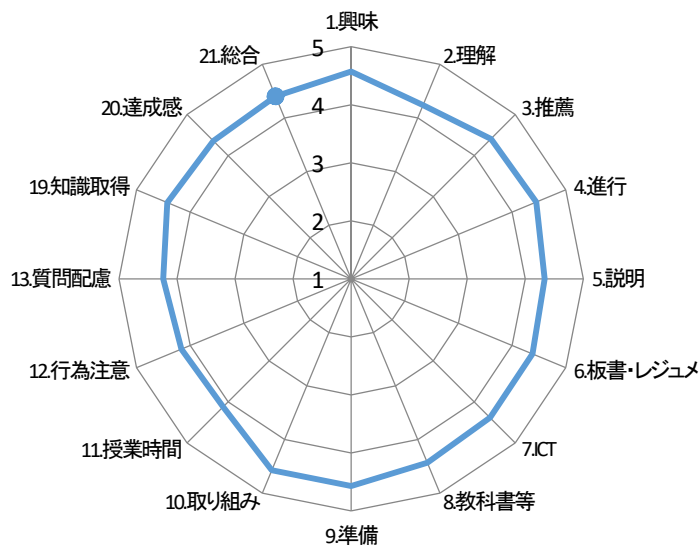
42名

◆集計データ結果について

1. 興味、9. 準備、10. 取り組みについては、ほぼ良かったかと思われませんが、11. の授業時間については終了時間がやや遅くなる傾向にあり、今後改善の努力を致すつもりです。12. の行為注意に当たりましては、余りに度が過ぎる場合には強く注意致しますが、それ以外は学生自身のモラルと自覚が最も重要であり、何度も同じ注意はしない事にしていきます。尚、もっと学生同志の間で注意し合う心掛けと勇気を持って欲しく思っています。13. の質問配慮に関しては極く一部の学生以外はどんなに質問を促しても、授業中及びその前後にも積極的な質問は出て来ず、人前を気にする為か？知識習得に対する貪欲性、積極性に欠ける面が大と感じています。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

僕自身のこれまでの臨床経験を含め人生経験の話が少しは役立っている様に思われ良かったと思います。今後の講義の進め方については、毎年度と同様に整形外科的及びその他専門外の医学的知識のみならず、少しでも、今後の人格形成の一端を担うことが出来ればと思っています。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

今年度は途中からでしたが、配布資料を一週間前に配布し、予習し易い様に試みてみましたが、ほとんど効果はみられませんでした。来年度は学生自身の自主性、積極性が必然的に引き出せる様な講義の型式を工夫し、少し変えてみようかと考えています。

科目名

33. 神経学

担当教員

伊藤 宗之

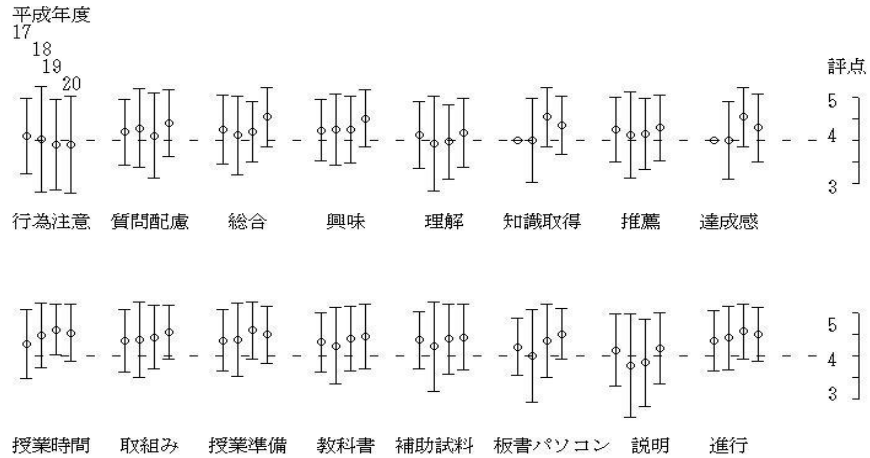
専攻・配当年次

PT OT 2年

回答者数

45 名

◆集計データ結果について



◆学生の自由記載の内容を検討した結果

短所：授業の終了時間が過ぎることがあった。

小テストが難しかったです。

急に紙に乗ってないのを話すこと。その時に教えて欲しい。

授業プリントの問題の答えは言っていただくと助かりますが、

小テストの答えを言ってしまっは、テストにならないと思いました。

長所：積極的に授業に参加できた。

分かりやすかった。

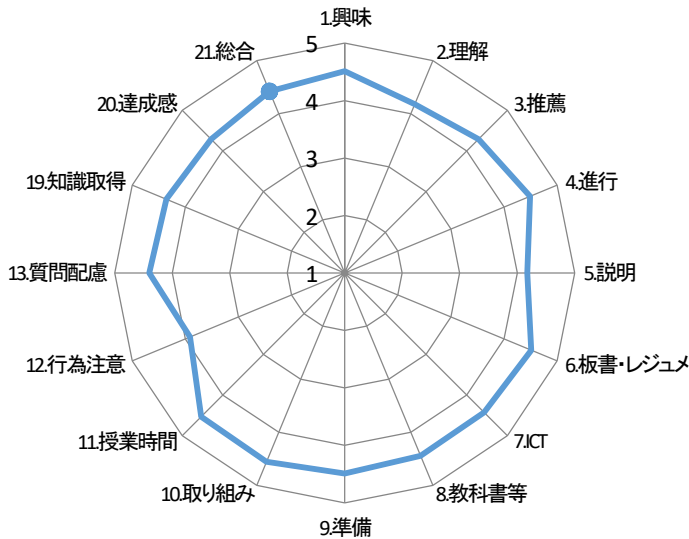
去年より、運で答える小テスト問題が少なくて助かりました。

わかりやすくて量もちょうどいい教科書でした。

◆今後の改善に向けて

「今後の改善に向けて」を書くに当たり、まず積年の評価の検証が大事かと思い、「集計データの結果について」では過去4年間の推移を評価項目別に平均評点(丸印)とバラツキの棒グラフで表している。

従前より「行為注意」と「声」では最低点を頂いてきた。自由記載欄にも「声が小さい」「何を言っているのか分からない」が頻出していたが、今回は見当たらない。肺活量が増えたかと嬉しかったが、よく見ると、質問項目が昨年の「教員の声は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか？」から、今年の「教員の説明は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか？」に変わっている。「声」と「説明」の一語の評価基準の違いはレーダーチャートにも反映し、この「説明」の平均評点は4点を僅かに超えた。さらに音量の鍛錬と声帯リハビリに励む所存である。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

科目名

34. 精神医学

担当教員

高田 知二

KANG MICHAEL

水野 峻太郎

百々 昌紀

早稲田 紘士

専攻・配当年次

PT OT 2年

回答者数

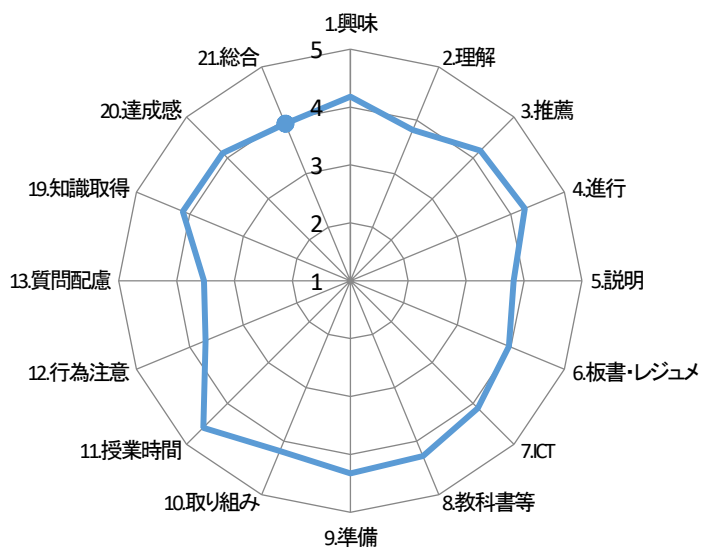
61名

◆集計データ結果について

レーザチャートの評価が4を切るものが、2「理解」、5「説明」、12「行為注意」、13「質問配慮」であった。精神医学は毎日の生活において必ずしも馴染みのあるものではなく、その診断学や治療論においては他の医療分野とも特徴を異にする。そのため、「理解」の評価が低かったのではないかと推察する。「行為注意」、「質問配慮」に関しては、今後、講師も気をつけることにするが、真摯に授業を受けてもらい、その中で質問を受けることは常に歓迎している。講義は講師と学生との共同作業であることを学生諸君にも再認識していただきたい。一方、質問16～20で示された学生側の取り組みを見ると、予習・復習時間の短さを指摘することができる。授業を受けたその日の内に教科書をもう一度読むなどして知識を確実なものにしてほしい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業には概ね興味を持たたという意見が多かった。しかし、5人の講師による授業であり、授業のやり方、声の大きさ等に差があったという意見も多々みられた。これについては、講師間で連絡を密にするなどして改善を検討したい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

講義では、精神医学特有の症候学、診断学、治療論について理解を促すことを心がけてきた。この点については、今後も努力をしていきたい。学生諸君には、その効果を上げるためにも是非とも協力をお願いしたい。予週、復習にも少し時間をとって、疑問点、理解のしづらいところを授業中、あるいは授業後に質問してほしい。そこでのディスカッションそれ自体が、精神医学の更なる理解に繋がるものと期待している。というのも、精神医学は人間同士のコミュニケーション、相互理解に基づくものであり、こういった双方向性の学習こそが重要だと考えるからである。また、試験に関しては、全体的に見て勉強不足であったことを指摘しておきたい。普段の予習、復習に加えて、試験前に全体を振り返り、個々の疾患や症候、治療の位置づけを確認しておかなければ得点は難しいことを肝に銘じて欲しい。

科目名

35. 小児科学

担当教員

杉山 成司

専攻・配当年次

PT OT 2年

回答者数

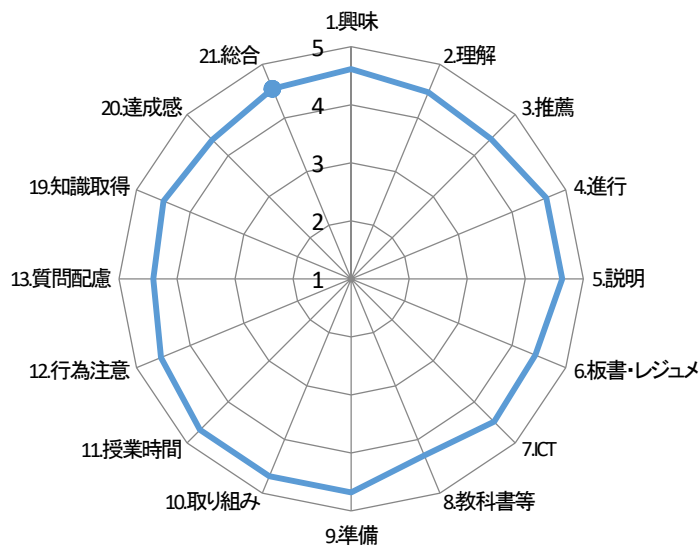
44名

◆集計データ結果について

小児科学についての国試の出題は、比較的少ないあるいはやや偏った傾向があり、必須にして適格な設問は限られている印象がある。しかし、PT、OTにとって障害のある子どもを含め、子どもに接する機会は多く、適切な接し方、ケアを学ぶ必要がある。そこで、出生前小児科学、新生児学、感染症、奇形症候群、先天性代謝疾患、小児神経学、小児内分泌学、小児栄養学・水・電解質などを通じて、小児医療における基本病態ともいべき医学知識の習得をはかっている。また、最近話題性の大きい子どもの虐待についても学生自身が思索できるよう、報道資料などを活用しながら授業を進めている。これらの資料はかなり有益であり、学生もそれに呼応するかのように興味を示している。集計データでもそれを感じる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

教科書の使用について2, 3要望があるが、授業用プリントでは教科書を基本とした、より理解が得られやすいよう多くの書籍や資料を活用している。「プリントはカラーで図も多く理解しやすい」との評価も得ている。一方で、教科書の重要性は縷々説いており、自分に見合った活用法に心掛けてほしい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

OT、PTの合同講義で人数も多く、現在の講義室は前後に長く、見やすさ、聴きやすさなどの点で一定の制約を受けざるを得ない。設備が整ったより広い新施設での講義は、やはり授業中の印象はよく、やり易い。しかし、場所の質に拘わらず、興味津津で受講する学生の姿も多く、こちらも自然と熱が入る。意欲ある学生が多くの満足感を得られるよう、これからも臨機応変に講義形態を変えるなどして、努力していきたい。

科目名

36. 医療安全学・救急医学

担当教員

石川 清

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

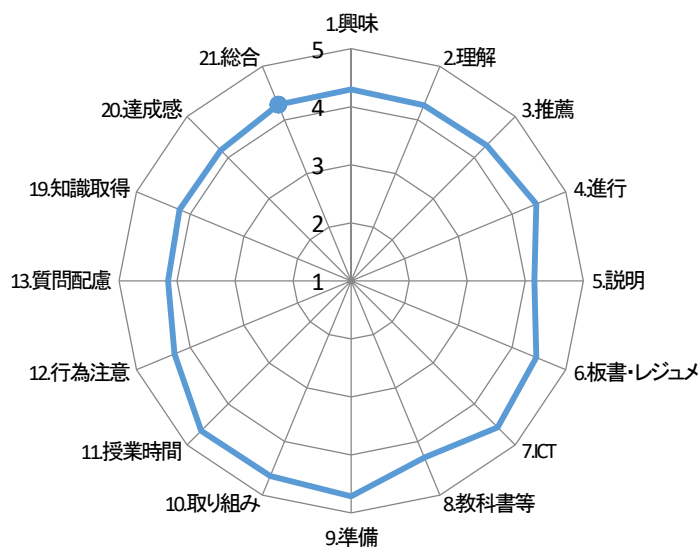
84名

◆集計データ結果について

授業方法、授業担当教員の評価については、一部を除いて満足できる評価であったと思われる。その一部とは質問配慮で学生が質問しやすい配慮には欠けていたかもしれない。また、授業に対する達成感や知識取得も評価が低いのは、内容が難しかったことも関係しているかもしれない。また、授業中の説明が聞き取りにくかったとのコメントがあり、説明の箇所は低く評価されていた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載については、9割以上の記載がポジティブなもので、ネガティブなものは少なかった。スライドが分かりやすい、映像が分かりやすい、資料が分かりやすい等教材に対する良い評価が多かった。また、医療現場の生の話が良かったとか、体験談が非常に理解しやすかった等のコメントが多かった。ネガティブなものとしては、話すスピードは速くついていけないことがあったとか、声が聞き取りにくいとのコメントも散見された。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

話すスピードを考慮して、理解できるように話す必要があると思った。また資料等は好評であったので継続して取り入れていきたい。また、医療現場の生の声を聴けたのが良かったというコメントに対して、今後も現場の話をもっと取り入れて授業を進めたい。

◆集計データ結果について

全体を見た感じでは大きなマイナスは無いように感じる。基本的にテキストを中心に進めたために、PCなどの利用は殆ど無い。しかし講義の特徴から、先ずは十分であったと思われる。

概念的な要素が多かったために、単に単語などを覚えるだけの学習に慣れている学生は非常に困難に感じたかもしれない。しかし、この業種に入って学ぶ以上、リハビリテーションの基本概念を理解し、実践できるようになることが大切である。単に機械的に作業をする仕事ではなく、対象者の生活全体を考える必要があるから、この後の学習にも期待したい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

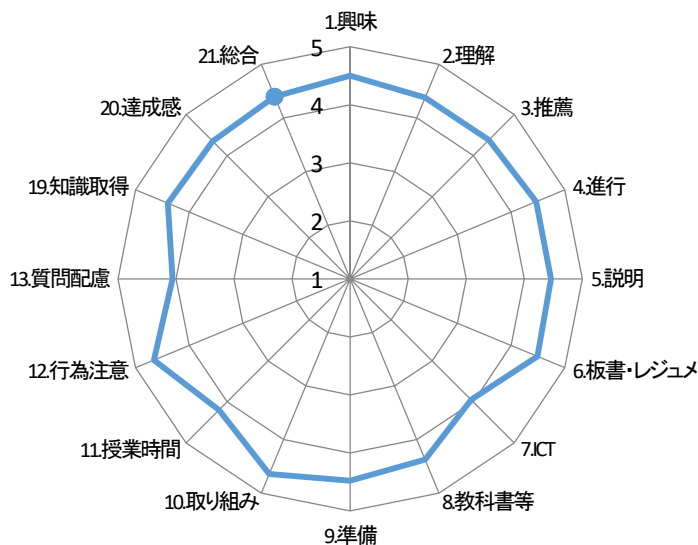
毎度のことながら、早口、滑舌の悪さなどについては、反省するところは大きいにある。講義時間に対して、触れるべき事項が多いのも仕方ない事であるが、気を付けていきたい部分である。

男子学生に対して厳しい対応についての批判があったが、実際に、ほとんどの女子学生は真面目に真剣に受講していたのに対して、複数の男子学生に受講態度の悪い学生がいたために、厳しくせざるを得なかった。それを男女差別と捉えられることに憤りを感じる。本学は、定員が少なく、もともとの分母が少ないから、受講態度の悪い学生が目立つし、それをきちんと注意することが教員の役割と感じている。自身の受講態度を改めるべきであると主張したい。しかし、パワハラ的に捉えられるとしたら、注意の方法は改善する必要も有ろうかと思う。この後の検討課題とする。

一方で、多くの意見として、この講義内容や、進行方法についての肯定的な意見があったことについて嬉しく感じる。医療人としてどうあるべきかを含めて、それを少しでも感じてくれる学生に大いに期待したい。

◆今後の改善に向けて

この科目は、理学療法士、作業療法士になるためには、必ず押さえておくべき基本事項である。この点を踏まえて、より教育効果のある方法を検討していく。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

38. リハビリテーション倫理

担当教員

鳥居 昭久

専攻・配当年次

PT OT 3年

回答者数

61名

◆集計データ結果について

集計データからみるとバランスもよく高得点であることから、特に問題が無いように感じる。
3年生の時期的な事から考えて、予習や復習を積極的に行うことは期待できないと考えていたので、アンケート結果からは、意外に実践している学生が居ると感じた。

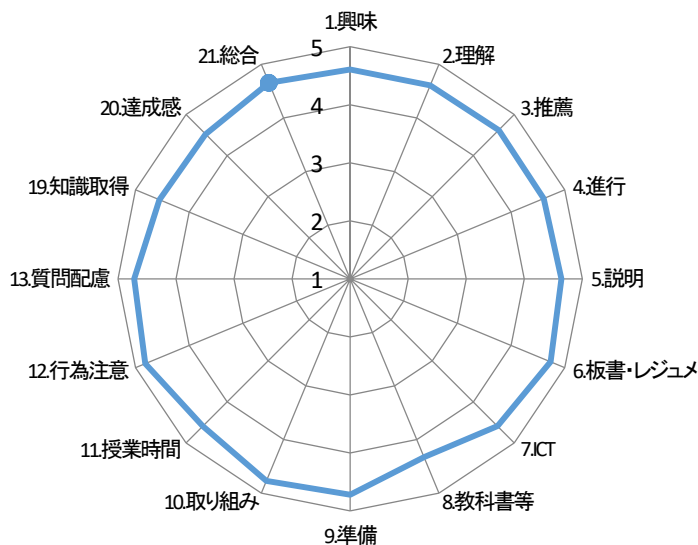
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この科目は、結論を出しにくいテーマでのディスカッションが多く、各自で調べて意見を述べ合い、その是非を検討するアクティブラーニングでの実施が中心に行われた。また、テーマそのものも医療人として自覚すべき事項であり、臨床実習を終えて帰ってきた学生にとっては考え方の整理が出来て良かったと考えている。

本講義で考えたこと、調べたことに限らず、自身の職務の質的向上を図るために、今後も様々なテーマについて真剣に考えて欲しいと思った。一方で、最終的に提出されたレポート内容がお粗末な学生が少なからずいたことが残念でならない。講義で考えたこと、DVDなどを観て感じたことを反映された学生と、最後までやっつけ仕事になっていた学生の差がこの先心配である。単に資格を取るだけが目標になっているとしたら、最も不幸になるのは、担当した患者様である。理学療法士や作業療法士は、比較的日常業務で外からの干渉や評価を受けにくい職種で有り、一人一人が自覚と信念を持ってその責務に当たる必要がある。講義中にも、再三再四話したことが少しでも残っていることを期待する。

◆今後の改善に向けて

特に大きな変更点はない。今まで以上に、積極的参加を促すような科目運営をしたいと考えている。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

今年度から「社会福祉学」科目を担当しています。集計されたデータの数値の「総合評価」は「4.13」でした。各質問への回答のうち、最も高いのが「9. 講義の準備を十分にしていたと思いますか」(4.54)で、最も低いのが「11. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか」(3.97)という結果でした。

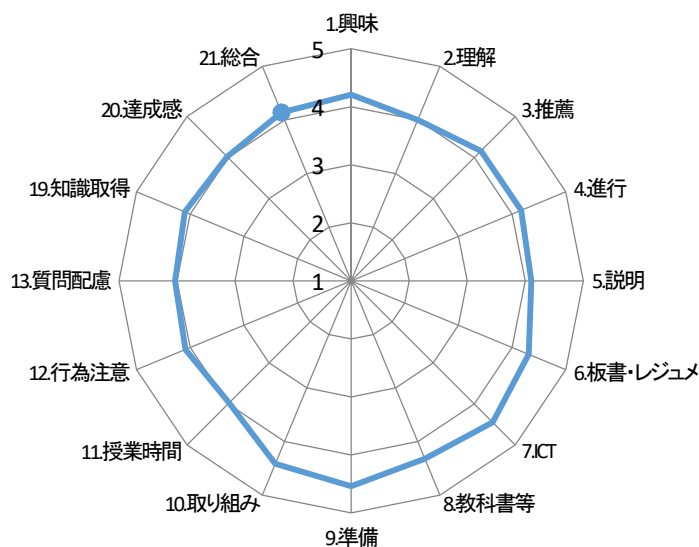
この科目は、3コマ連続の開講となったため臨機応変に休憩時間と終了時間を調整し、その都度学生に確認しつつ進めてきたつもりでしたが合意形成が不足していたことを今後の課題とします。

また授業への予習、復習に関する項目への回答結果から、自ら調べるなどの課題と取り組む意欲を高める工夫の必要性を感じています。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

3コマ連続への負担感が多数記述されていました。連続コマにメリハリをつけるため、また科目の特性上映像資料の活用が効果的と考えられたため適宜用いています。その結果、多くの方が映像資料による理解促進を記述され、その効果についても確認することができました。

「説明が分かりやすかった」という記述の一方で、「教科書やプリントに行ったり来たりして、たまにどっちを説明しているかわからなくなる」という意見もあり、教授方法を客観的に振り返ることができました。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

今回の授業評価結果と自由記述から、授業時間(開始・終了)の合意と明確化は、基本的ではありますが受講生の気持ちに大きな影響を及ぼすことを念頭にしていきます。また、授業の進行と資料確認についてももう少し丁寧に行うようにします。

数多の福祉課題をより身近に感じてもらえるよう、また授業到達目標をより意識できるような工夫を加え、「ともに学ぶ」スタイルを確立していきたい。

科目名

40. 障害支援とアシスタンスドッグ

担当教員

有馬 もと

専攻・配当年次

PT OT 1年

回答者数

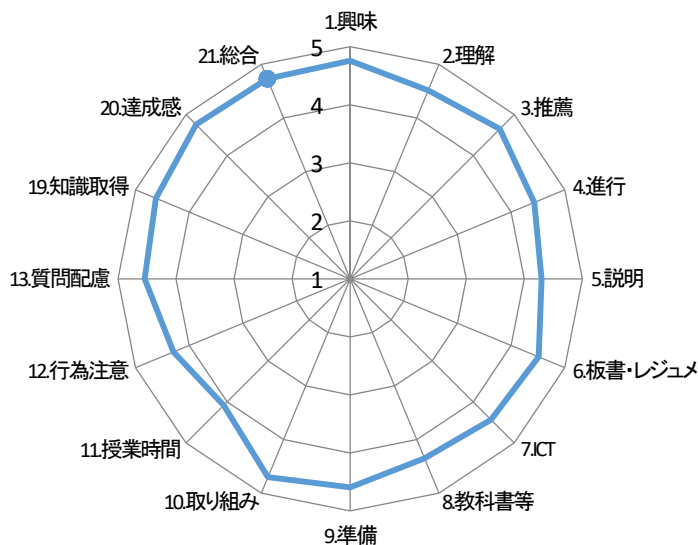
37名

◆集計データ結果について

学生からの「休憩時間に対する配慮がなかった」ことは反省点になりました。改善いたします。米国などでは、作業療法士が介助犬希望者のニーズと評価をするシステム(モンタナ州のThe Community Medical Center)もあります。ぜひ、学生のみなさまに補助犬への関心を高めていただきたいです。みなさま、もともと受講にはとても熱心で、2日間の授業を通じて、学生の専門分野との共通性、将来での関係性などへの理解が得られたのではないかと考えられます。全体的に非常に高い評価を得られました。授業への参加率も高く、レポートでもみなさん、良い成績をとってくださいました。訓練の実践やユーザーとしての体験など、共感を得られたのではないのでしょうか。長時間で集約された授業とレポート提出のため、その日にレポートのポイントとなる点を強調してご指導させていただきました。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

日本聴導犬協会の協会犬を導入した実践と体験が多い授業とした。そのため、全体的に関心や満足度、評価は良かったが、休憩への配慮が足りなく、反省しております。授業中にレポートのポイントを繰り返しご説明しましたが、さらにポイントを絞って説明したいと考えております。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

学生さんの集中力や疲労に配慮した授業構成を心掛けたいと考えております。休憩時間を適度にとります。今回は、レポートの成績も良かったのですが、さらにレポートのポイントを繰り返し解説する必要性を感じました。

科目名

41. 障がい者スポーツ演習

担当教員

鳥居 昭久

加藤 真弓

専攻・配当年次

PT OT 2年

回答者数

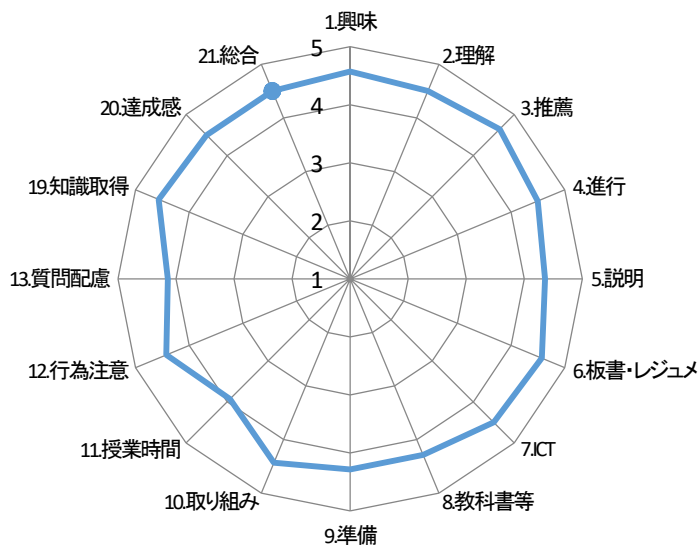
14名

◆集計データ結果について

概ね平均的な結果であると思う。時間数が少なく、実技体験が思うようにできなかったことが悔やまれる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

障がい者スポーツについての理解はある程度達成できたかと思われる。実際の体験、スポーツ現場でのボランティア含めて、意欲的に取り組んでくれた学生が多かったと感じる。一方で、これが、理学療法士、作業療法士としての活動にどれだけつながるかが大切な部分であり、今後の学習、将来の臨床に期待したい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

この科目を修了すると、初級指導員資格を申請できるので、実技系を増やして、実際に指導できるレベルまでの学習が出来ると理想的であろうと感じる。また、いろいろな競技の審判員資格に繋がるとより一層興味が湧くのではなかろうかと感じている。

科目名

42. 理学療法概論

担当教員

加藤 真弓

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

59名

◆集計データ結果について

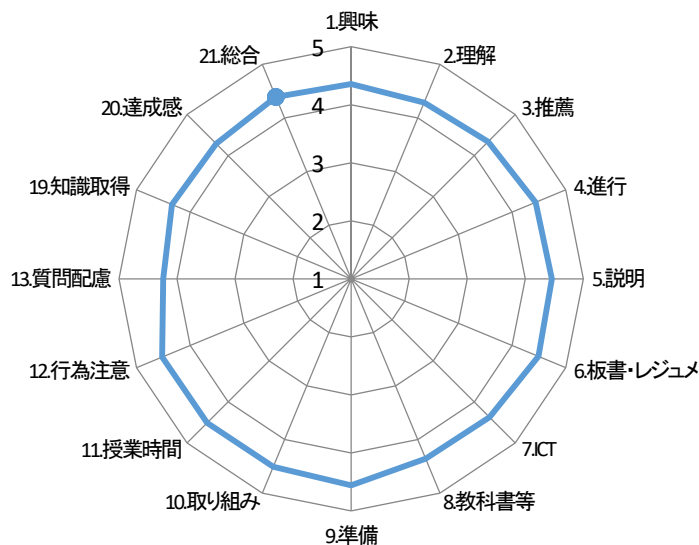
総合評価は4.3点で概ね良好な結果と考える。「理解」、「質問配慮」、「達成感」が4.2点であり各項目のうち一番低かった。本科目では、教科書を暗記ではなく、様々な定義や社会情勢等を踏まえて、自分の言葉で説明することを求めているため、答えを覚える学習方法が中心の学生の場合は、理解に至らず、試験等で結果も十分とは言えず達成感も得られにくかったと推察する。質問の確認は毎回とっていたが、時間的に短かかったかもしれない。小テストを毎回実施していたが、予習・復習を全くしないものが延べ20人いたのは非常に残念な結果であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループ学習や考える機会が多くあったことに対する肯定的な意見が多かった。これは、他人の意見を聴くことで、学生自身の考えの幅が広がり、自身には持ち合わせていないものを吸収できたり、自身の考えと共通していれば自身に繋がったりと良い効果があったのだと考える。理学療法について深く知ることができたという意見も多数あった。理学療法を学ぶ授業であることから、当然ではあるが、学生たちの理学療法の知識が非常に限定的であることが伺えた。授業では、ICFにて患者の障害理解を学んでいるが、他の科目での説明と不一致があったため混乱したとの意見もあった。この点は、科目教員間で共通の認識を持つようにしたい。

◆今後の改善に向けて

今後も知識をもとに学生には大いに考えてもらう授業を行っていきたいと考える。他科目との内容不一致については、事前に担当教員と共通認識をもっておきたい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

科目名	43. 理学療法研究法				
-----	-------------	--	--	--	--

担当教員	鳥居 昭久	加藤 真弓	宮津 真寿美	木村 菜穂子	松村 仁実
	清島 大資	臼井 晴信	山田 南欧美	齊藤 誠	
専攻・配当年次	PT	2年		回答者数	20名

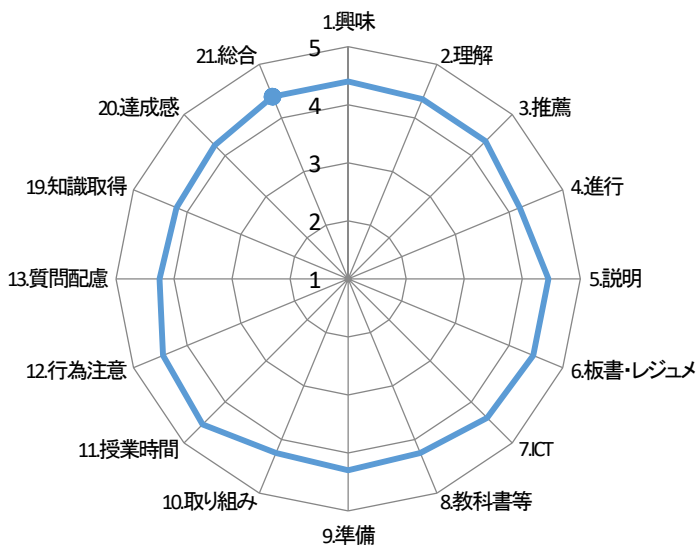
◆集計データ結果について

総合点が平均4.4点、また、各質問項目においても4点以上であり、学生の評価は良好である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目は、理学療法研究概論、基礎統計学、研究倫理を学修する講義と、指導教員の元で研究計画の立案までの過程を学修する演習がある。

講義の部分では、「統計が難しかった」というコメントがある反面、「練習があったので、理解しやすかった」というコメントがある。また、研究計画の立案までに関して、「自分で、研究計画をたて、発表することが経験出来て良かった」という趣旨の意見がある。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

本科目では、指導教員の指導の下、研究活動を経験しながら、主体的に学修することや、臨床問題解決能力の向上を目指している。学生による差異があるものの、良い機会になっていると考える。昨年度から、観点ごとに点数をつけ、成績評価を行った。今後も、継続する。

科目名

44. 臨床運動学(PT)

担当教員

木村 菜穂子

松村 仁実

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

27名

◆集計データ結果について

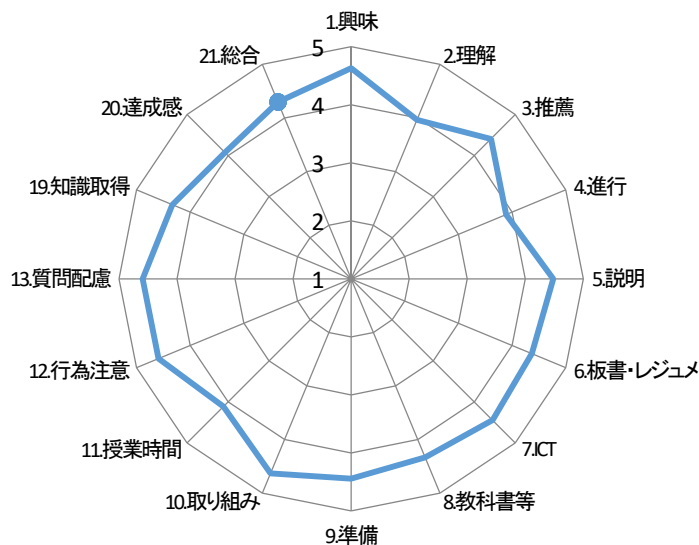
ほとんどの項目で4点台の結果であった。しかし、授業内容の部分である「理解」と「進行」の2項目は3点台後半の結果であった。画像などを通し動作を見て問題点を見つけ出す、という臨床に即した内容のため、知識の使い方を学ぶ点で理解することが難しかったと考えられる。また、授業形態はグループワーク中心のため、グループによる進行状況の違いや授業時間の配分が難しく面があり、ポイントが低い結果となった可能性がある。

学生の授業に対する取り組みは、90%以上が、熱心には取り組めたあるいはどちらかといえば取り組んだ結果であった。しかし、質問をするという点では4割ほどの学生が質問していないという結果であった。グループワーク中に質問があれば対応できたが、発表の段階では解説が中心になることも多く質問が出せないこととチャンスが少なかったことも考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

障害のある動作を動画を用いながら授業を進めたことで、学生の印象に残るとともに実習に対する意識付けにも影響したことがうかがえた。自身の課題や不足部分を認識できているとの声もあったことは評価できる。また、グループワークにより、考えたり意見交換できたことも評価されていた。実習に向けた流れの基礎を意識しながら授業構成をできていたと考えられる。

一方で、初めてやることに対する困惑、参考になる資料の提示や具体的な例を示すなどを求める意見も挙げられた。課題を実施するうえで、事前に方向性を示すように心がけていたが提示量については難しいと感じる。また、臨床的に同一である症例はないため、ポイントに着目することが十分伝わらなかったと考えられる。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

授業形態としてグループワークにて、動画を見ながら行うことで実習に向けての意識や課題を認識できていると考えられるため、方向性としては継続できると考えている。

結果から、「理解」を深めるための工夫としては、授業内での質問を出せる機会を設ける必要がある。また、進行していくうえで、一度に多くの視点を持たせるのではなく課題を細分化することで理解を深め、最終的に再度全体としてまとめるといった工夫も必要と考える。

「進行」の部分では、時間的な制約から急いでしまう部分もあるため、考えるポイントを明確にできるように、まずはわかりやすい動画を用いることを検討する。そのうえで、大きな気づきから細かな気づきへとつながるような展開を作ること、理解を深めることにもつなげていきたい。

正解を探すだけの学びではなく、自身で問題点を探し解決する力を修得していくことは、常に伝えていきたい。

科目名

45. 運動療法総論

担当教員

松村 仁実

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

55名

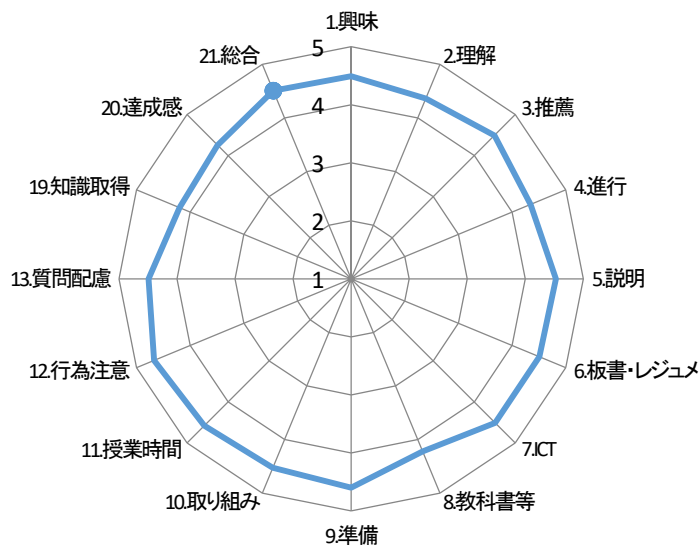
◆集計データ結果について

各項目で4点台であった。その中でも若干低めのポイントの項目は、「教科書等の使用」、「知識修得」、「達成感」であった。配布資料を中心に進めた点から、教科書の使い方の説明が不十分であったことが原因と考えられる。授業内容は総論であり、今後の知識の基盤としてすでに学んだことの整理に時間をかけた部分もある。そのため、新しく学んだという達成感を得にくかったのではないかと考える。

学生の多くは熱心に取り組んでいると回答している一方、質問をしたという学生の割合は低いように思える。また、目標などを意識できていると答えた学生も少なかった。予習、復習については、小テストを実施したことにより復習の時間は取れていたと思われる。ただし、予習については、半数弱が「全く実施なし」であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義の進め方としては、例えや実践を交え、考える時間を設けお互いに共有する事により学生自身が考えることができた点や説明のわかりやすさが挙げられていた。教材としては、配布資料やスライドを用いたが、それぞれ理解を助けたことの記載も見られた。ただし、表などの文字サイズは改善すべき点がある。資料を用いながら進めた点は今後も継続していきたい。ただし、時々スライドや説明が早くなり十分な理解を得ることができなかつたとの声もあつたため改善する必要がある。作成したスライドを中心に進めていたため教科書の流れが運動していない点で、復習のしにくさをあげた記載が見られた。教科書を使った復習のポイントを示していく必要がある。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

分かりやすかつたとの意見が多く見られたが、知識修得や達成感を得るための工夫が必要であると考え。授業内容の難易度や基礎知識から臨床的な視点などの幅をもたせることでより興味を惹くような進め方の工夫をしていきたい。また、予習や復習すべきポイント提示することで、能動的な取り組みを促すことが一つの方法であると考え。前回分の内容を授業開始時に小テストとして実施した。小テストの実施は授業内容を復習する時間を確保につながると考えられる。予習時間がまったくない学生が多かつた点を考えると予習テストを取り入れることで予習時間の確保につなげていきたい。その点でも教科書を用いた予習・復習ポイントの提示を行ってきたい。

科目名

46. 検査測定法

担当教員

木村 菜穂子

加藤 真弓

山田 南欧美

齊藤 誠

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

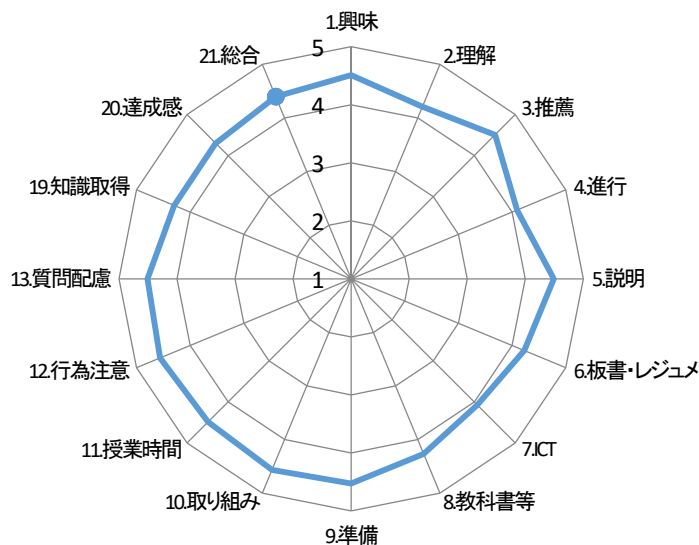
53名

◆集計データ結果について

すべて4以上の評価でしたので、全体的に大きな問題はなかったかと思われます。
 受講者も多くが「目標を持って、積極的に、熱心に取り組んだ」と自己評価しており、それが「予習・復習時間」にも表れています。しかし、試験結果と照らし合わせると、特に復習時間は若干不足している印象もありました。また小テストがあるにもかかわらず、「予習ゼロ」との回答も数名あり、そこは疑問です。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載も否定的な意見はあまりみられず、「すぐに質問できる環境であった」等の意見が多く見られました。「進度が早い」「体力的にきつい」「覚えるようが半端ない」等は、我々への改善を求める意見というよりは、「仕方ないとわかって入るが、大変！」という思いが強いかと予測します。この講義内容の重要性は十分に理解した上で、取り組んでいただけた結果かと思えます。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 21 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

この講義の大変さは、教員一同十分に理解しています。そのうえで、「やらなければならないこと」なのは、受講者も理解しているでしょう。技術の習得には、正しい理解と反復練習がとても重要です。試験に合格することだけを目標とせず、またこれらの評価方法を学ぶ中で、患者さんに対する接遇や気遣いを考えるきっかけになるような講義を心がけたいと思っています。

科目名

47. 検査測定法実習

担当教員

木村 菜穂子

加藤 真弓

山田 南欧美

齊藤 誠

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

56名

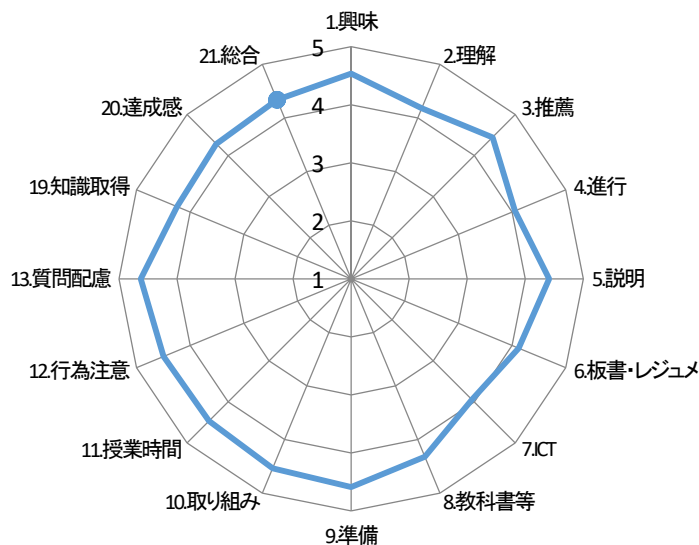
◆集計データ結果について

検査測定法と同様、データの的には大きな問題はなかったようです。ただ、学生の一部には予習・復習を「まったく行っていない」と自己評価している人もあり、小テストの実施や予習を前提とした講義の組み立てを行っていたため、その理由が不明です。予習・復習の重要性は、講義の開始時や、講義中にも何度も皆さんに伝えたつもりでしたが、理解していただけなかった方もいたようで、大変残念に思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業スタイルとして、「予習により疑問点を明確にする→講義中に疑問点を解消する→復習によって繰り返し練習する」というサイクルを重要視しています。それに対し、「質問しやすい環境で良かった」という記載が大変多くあり、みなさんが疑問を解決しようと努力した結果だと安心できました。

また、「授業の進度が早い」とのご意見もありましたが、これも講義時間だけで実技の習得が行えるわけではないため、自主的な実技練習を繰り返すことが重要であることは何度もお伝えしました。学習範囲が広いことは理解していますが、授業サイクルを理解した上で取り組んでいただけると、さらに良かったかと思えます。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

この講義スタイルは、積極的に参加する学生に対しては知識・技術習得の効果が高いと言えますが、学習内容を「与えられる」ことに慣れていない人には、取り組みづらいかもかもしれません。しかし、大学生として自分の目標を考えた時に、習得すべき学習内容を理解し、それを得るために積極的・意欲的に取り組む行動というのは必須です。「自ら学ぶ」ということを意識していただき、教員は、それを最大限援助できるよう、さらにより良い方策を考えていきたいと思えます。

科目名

48. 理学療法評価法

担当教員

臼井 晴信

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

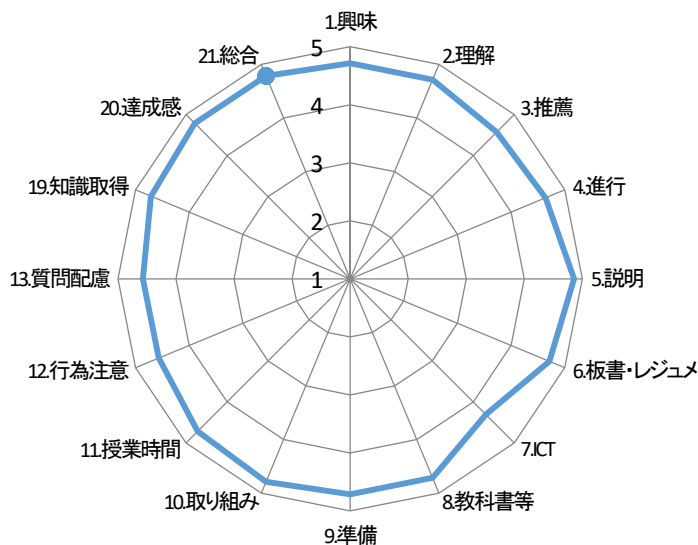
14名

◆集計データ結果について

授業に対する評価は良かった。「ICT」の項目が突出して低いが、グループワークと板書および教科書を中心とした授業構成であり、パワーポイントなどを使わなかったためと思われる。グループワークやレポートなどを授業内で行っていたためか、授業外での予習・復習時間が少ない。今後は授業外での学習を促すような工夫が必要かもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

理学療法の臨床を想定した内容の問題提起をし、グループで話し合ってもらう形式で授業を行った。実習で役立てたいまたは頑張りたいという意見もあり、狙い通りの学習効果を得た学生もいたと思われる。また、グループワークに対しては好意的な意見が多く、少人数だったので話しやすかったとの意見もあった。人数や内容などは概ね今後も継続しようと思う。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

理学療法の臨床推論に必要な基礎的事項を学べるような工夫をしたが、実際の臨床では複合的かつ応用的な知識が求められる。本科目の知識のみではなく、他の科目で学ぶことを生かせるような問題提起をしようと思う。基本的な授業形態は今後も変更せずに継続する。

科目名

49. 理学療法評価法実習

担当教員

白井 晴信

松村 仁実

齊藤 誠

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

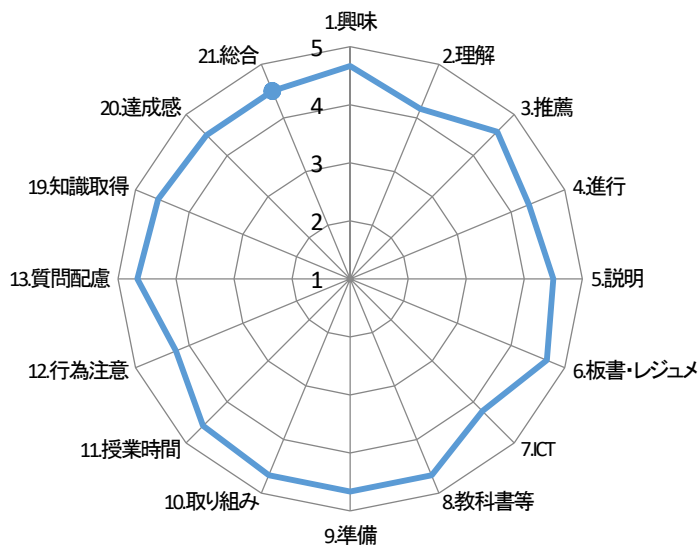
12名

◆集計データ結果について

大体の項目で良い点数であったが、授業内容の理解についての点数が低かった。本科目は臨床実習前の総復習と臨床実習への準備として位置付けられている。模擬症例による臨床推論の過程をグループワークによって学修したが、学生によっては難しく感じたり、理解するのに時間がかかったものと思われる。授業への取り組みの質問項目では多くの学生が「熱心に取り組んだ」または「質問をした」と回答していた。グループワークで差が出ることを予想していたが、グループの人数が少なかったこともあり、多くの学生が主体的に参加することができたのではないだろうか。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークや発表を通して学びがあったという意見が多かった。特に発表では主担当教員以外の教員にも参加してもらったり、学生からの質問を促すことで多くの意見を取り入れることができたと思われる。「問題点のつながりがわかっていくと楽しかった」という意見もあり、臨床の楽しさを少し感じてもらうこともできた。一方、実技試験に際し「医療面接の手本を見せてほしかった」という意見もあり、実技の練習に苦慮したものと思われる。医療面接の手本を見せることは簡単であるが、臨床の経験のない学生に対して画一的な情報提供になる可能性もある。学生の理解を促す工夫が必要だと感じた。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

臨床実習の形態が変わるにつれて本科目の授業方法も変えていく必要があると思う。実習担当の教員と連携して学習効果の高い方法を模索しようと思う。しかし、模擬症例の理解を通してグループワークによって臨床推論を行うという方法は今後も継承する。今年度はグループの人数がちょうど良かった印象があるので、学生数が増えなくてもグループ内の人数は4-5人程度が良いかもしれない。

◆集計データ結果について

おおむね4点という結果であった。「理解」と「板書・レジュメ」の項目は3.5点と若干低い得点であった。脳を理解し、病態を理解する必要があるので、解剖学の知識から病気に対する知識まで幅広く扱うため、それぞれに苦手意識があると理解することに抵抗感があると考えられる。レジュメについては、スライドを印刷したものを配布しているが、レジュメに授業中に学んだことを書き込むことを期待し、すべてを記載しているわけではない。そのため、レジュメの内容に対して期待する部分があるという結果ではないかと考える。

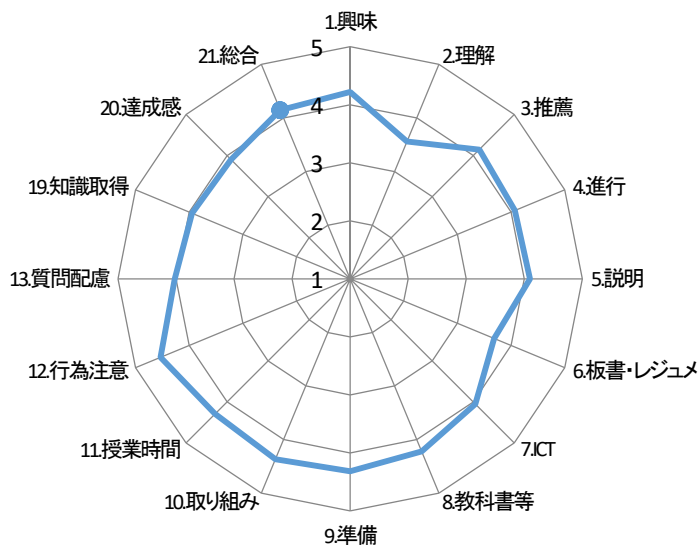
学生の取り組みとしては、約半数が目標等を意識して取り組むことができ、また質問をしていたとの結果であった。予習時間は、まったくしていない者が約30%いた。復習は全員が行っており、毎回小テストを実施した成果と考えられる。しかし、その多くが1時間未満であることから小テスト対策にとどまっていると考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業内容について難しかったとの意見が見られた。学ぶ内容も多く深めるため、学生が習得すべき内容が多いことが理由の一つであると考えられる。

提示したレジュメやスライドについては賛否が分かれていた。それぞれ有効利用できたというものもあれば、見やすくしてほしいとの記載もあった。提示したレジュメに関しては、自身のノートとしての役割を持たせるようにその使用の仕方も含め説明が不十分であり、レジュメの活用方法が理解されていなかったと考えられる。

小テストについての意見も多く見られた。多くは難しかったと回答しているが、小テストにより熱心に取り組めた学生や忘れていたことを思い出すことができた学生もいた点で評価できる。また小テストの解説は学生の理解につながっていたと考えられる。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

広い範囲の学習内容を限られた時間の中で習得していくためには、ポイントを絞りつつ不足した部分を自己学習で埋める必要があると考える。授業の中で伝えること、そして自己学習で埋めるべき点を明確にし、提示していく必要があると考える。情報量を絞りつつ、自己学習につながるようなレジュメ作成は今後の課題である。復習時間の確保ができれば、小テストのための復習より理解度が深められることが期待できる。また、レジュメの使用方法についても授業開始時に説明することで、授業中の集中を促す必要があると考える。

スライドやレジュメの説明をすることに加え、配布資料やスライドの工夫も継続して行っていく。画像や症例の動画は印象に残りやすいとの意見もあり、視覚からの情報提示も積極的に取り入れていきたい。

科目名

51. 中枢神経系障害理学療法治療学実習

担当教員

松村 仁実

加藤 真弓

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

18名

◆集計データ結果について

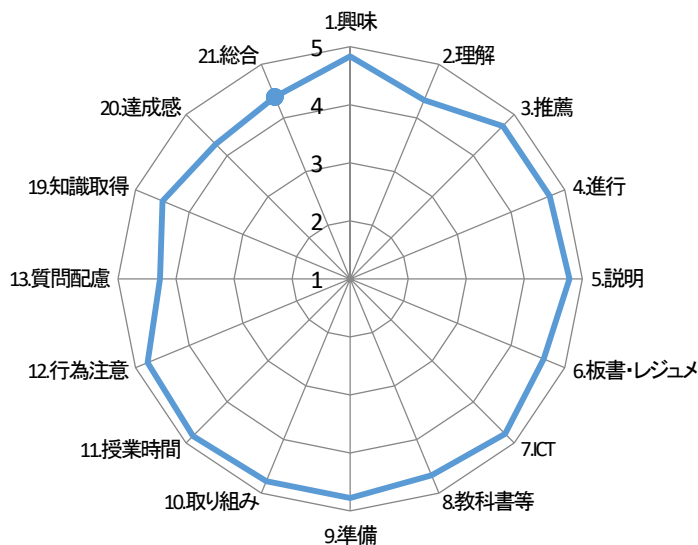
すべての項目で4点台であった。「理解」、「質問配慮」、「達成感」の項目で若干低い点であった。学生の取り組みをみても目標を意識し、熱心に取り組んだと回答はみられるが、質問の項目では、半数が取り組まなかったと回答している。そのため、質問しやすい配慮をすることが質問の取り組み改善につながる可能性がある。しかし、予習時間は4割の学生は全くしておらず事前にテーマを理解した上で授業に望むということができておらず、その点では積極性にかけていると考えられる。また、授業内容は病態の理解をもとに理学療法の評価や治療と多岐に渡るため、理解するために復習時間の確保が必要であるが、6割以上が1時間未満である点も理解に繋がりにくかった結果と考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業内容については、重要なポイントがわかりにくい部分があったと意見が見られた。授業内容が多岐に渡ることからポイントを絞りにくいことは事実である。一コマごとにテーマを設定するなどの工夫する余地があると思われる。

配布資料については、わかりやすくまとめられていた点と復習の際に十分理解できなかった部分があったと言った意見が挙げられた。図やイラストを多用し、視覚に訴える資料づくりも検討すべき項目である。

小テストについては、内容が難しかったことや実施時間が不足していたとの意見が見られた。授業内容の復習テストの意味合いで行ったため、復習時間を確保した上で取り組むことを期待していたが、復習時間が確保できていない学生には難しく感じたのではないかと思う。時間については様子を見ながら設定する必要がある。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

評価技術を身につける必要もあることから実技を取り入れながら実施した。実技については実際にやることの必要性を理解はしているが、身につけるところまで十分な時間を取ることは難しい。復習時間の確保が必要になるが結果を見ると不十分であると言わざるを得ない。小テストなどでも知識だけでなく、技術面での小テストを加えるなど検討し、復習時間の確保を促し、確実な技術の修得を目指していく。

毎回の授業では、テーマを提示し進めているが講義形式の部分ではどうしても情報伝達が一方的で受け身的である。アクティブラーニングによる問題解決方法を取り入れることにより、自らの疑問を解決することで重要なポイントに気づけるような授業形態も検討したい。

科目名

52. 整形外科系障害理学療法治療学

担当教員

齊藤 誠

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

20名

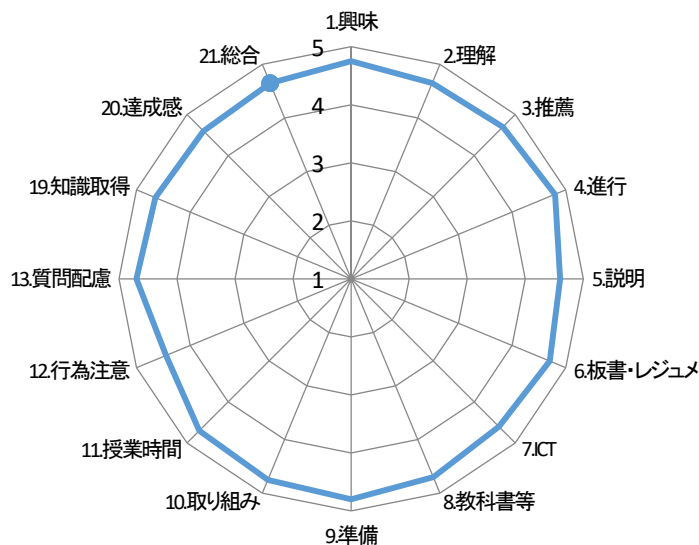
◆集計データ結果について

各項目とも、4.5～4.7点程度であり、良好な結果であったと思われる。
なるべく、わかりやすさを意識して講義を実施したことが良かったと考えている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

大部分は、動画や画像などを多く使用しており、わかりやすかったとのコメントであった。2年次から疾患学を履修し始めた学生であるため、なるべくイメージがしやすいように意識して講義展開をした結果であると考えている。今後の励みとして、来年度以降も、より分かりやすい講義内容を心がけたい。

意見としては、スライドを後から見返してもわからないとの意見があった。指定した教科書に沿って、講義を実施しているため、基本的には教科書で復習すべきである。スライド資料は、あくまで講義を理解しやすくするツールであり、そもそも講義を十分に聞いていない者が、後から見返してわかる内容ではない。以上より、特に問題であったとは認識していない。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

全体的に良好な結果であったため、来年度も同様の内容で講義を行っていきたい。

◆集計データ結果について

各項目で4点以上であるため、良好な結果であると解釈している。
本講義は、毎講義後に任意にてレポート提出を求めている。各テーマに対するレポートを提出した者に対しては、フィードバックを行った。比較することの是非はあるだろうが、今年度はレポートを提出した者が少なかった。担当教員としては積極的な参加を促さなかったことに関しては反省すべきかとは思いますが、受講者にも積極的な参加を求めたい。

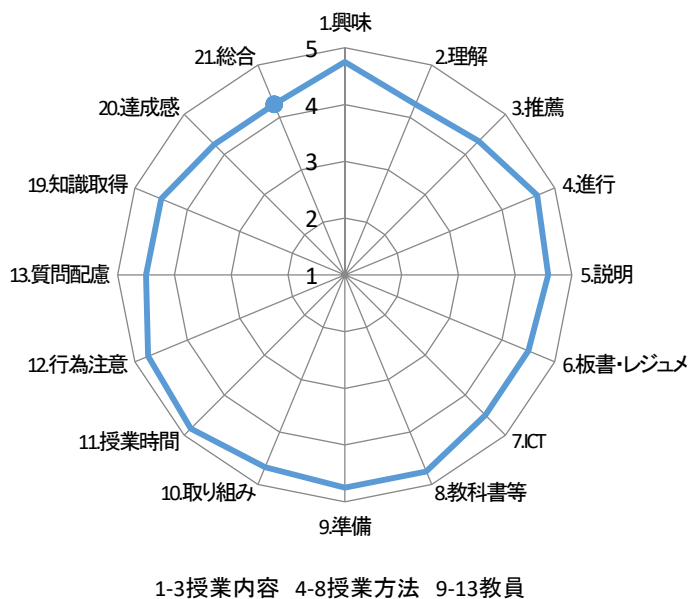
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

特記すべき意見として「正解が何かわからない」との意見があった。本講義は模擬症例を提示し、症例に対する評価結果から目標を設定し、治療プログラムを立案する過程をグループワーク、個人レポートを通して学習する形式である。

本来、臨床で目にする症例は主病名に加えて、併存疾患、既往歴、家屋状況や家族構成など様々な個人因子を有している。その患者に対する治療プログラムに確固たる正解は存在しない場合が多く、治療プログラムの立案に苦慮する場面も少なくない。本講義で扱った症例は、あくまで模擬症例であるため、典型的な症状を有するのみにとどめたが、やはり確固たる正解として治療プログラムを提示することは難しい。

以上の難しさを理解した上で、文献検討を重ね、科学的根拠に基づくベターな理学療法を考察することが本講義のねらいである。正解が何かかわからないと述べた学生も、症例に対して真摯に向き合い、その結果として最適な理学療法を提示することの難しさを感じてくれたのであれば大変意義があると思うが、教科書に書いてあることを写しただけでは有意義な学びは得られなかったと思う。

レポートの書き方に関しても、もっと説明が欲しかったとの記述があった。これに関しても、レポートはGoogle Classroomを通して、毎講義後に提出する機会を与え、提出した者に対してはフィードバックを行った。記載した者の取り組みはわからないが、頻回にレポートを提出した者が少なかった現状を考えれば、学ぶ機会は与えていると考えている。



◆今後の改善に向けて

本講義によって有意義な学びが得られるかは、基本的には学生の主体性に依るところが大きい。自ら調べたことに対して、担当教員としてフィードバックやディスカッションを行い、学びを深めていくという手法をとっている。

おおむね良好な評価が得られたこと、有効回答数が少ないことから、学生側の要望に応じた変化を加える必要はないと考えている。

個人的な反省点としては、自ら学ぶ意義や必要性を十分に伝えきれなかったと考えているため、目的や参加することの意義に関しては、きちんと伝えるように改善していきたい。

科目名

54. 内部疾患系障害理学療法治療学

担当教員

臼井 晴信

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

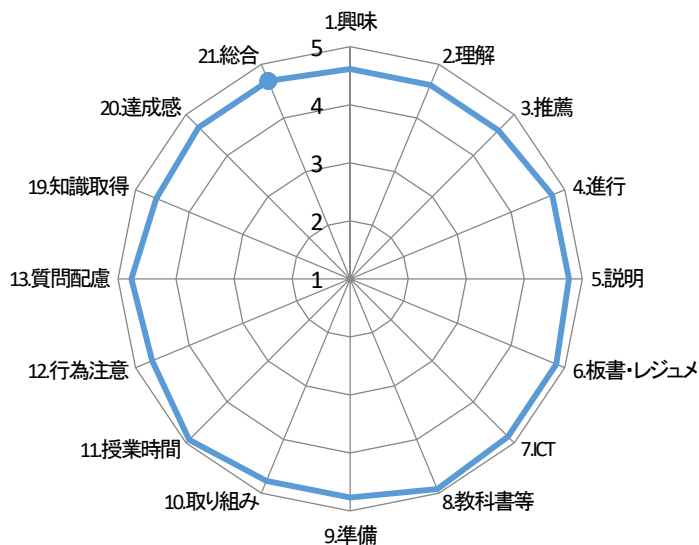
13名

◆集計データ結果について

概ね良い評価であったが、例年よりも「興味を持てた」の項目で点数がやや低かった点が気になる。できるだけ興味を持てるように授業を構成しているつもりであるが、内容も難しいためいかに興味を持てるような授業ができるかを再度考える必要がある。本科目で学習する内容は多岐にわたっているが、予習時間が短いことも気になった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

資料が良かったという意見が多かった。難しい内容を理解できるように今後も工夫したい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

予習を含めた自己学習が促せるような講義を行いたいと思う。資料が良かったという意見も多いが、理解につながっているかは不明である。意欲をもって主体的に学べる学習素材を工夫しようと思う。

科目名

55. 内部疾患系障害理学療法治療学実習

担当教員

臼井 晴信

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

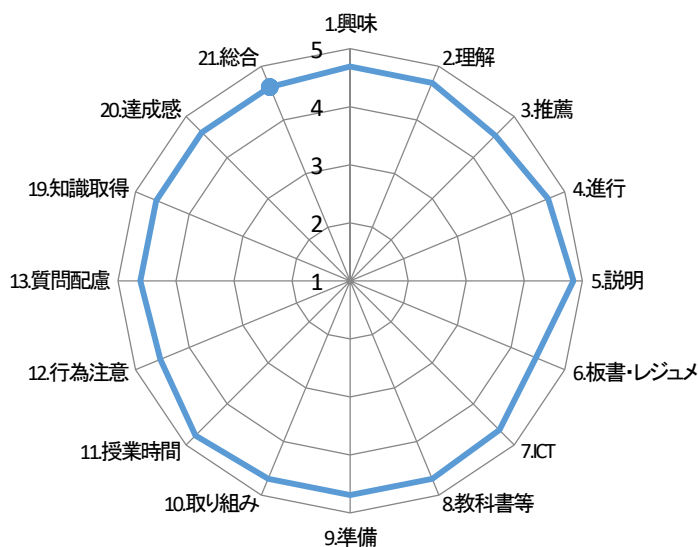
13名

◆集計データ結果について

授業に対する評価は全体的に良かった。内部疾患系理学療法学実習と同様に予習時間が短いことが気になった。また半数の学生が授業中や授業外で質問をしていないと回答していた。「質問への配慮」の項目では点数が低いため、質問をしづらかったのではなく、主体的に質問をしなかったと思われる。意欲的に学習できるような授業を行おうと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「体力プログラム」と称した運動処方の実習を行った。「研究の進め方がわかってよかった」「ポスター発表の経験ができてよかった」という意見があった。学生が主体的に考え、実践し発表する機会を作れたのはとても良かったと思う。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

予習、復習を積極的に行い、意欲的に学べるような講義ができるよう工夫したい。体力プログラムによる実践形式の授業は今後も継続して行う。さらに学生同士で積極的な討論ができるような実習・発表にしたいと考える。

◆集計データ結果について

全体を通して概ね4点以上となっており、偏りのない評価となっているが、項目によっては1, 2点をつけている学生もあり、理解度や満足度にばらつきがあったと考える。

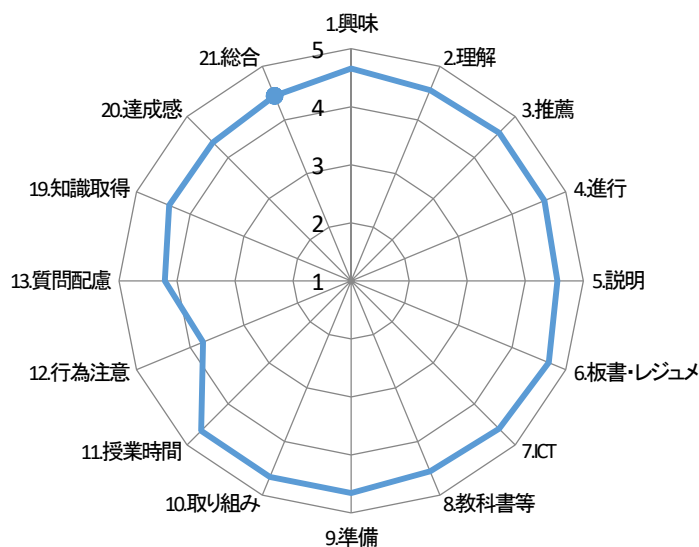
教科書に加え、実技や動画を取り入れたことで学生の理解や満足度の項目で評価を得られたと考える。

他の質問項目に比べ「行為注意」の項目で2, 3点を付けた学生が多くなっている点に関しては、講義開始時や実技講習中に私語や他ごとをしている学生への注意ができていなかった点が影響していると考えられる。

予習時間全くなし15名に対し、復習時間全くなしは3名となっており、小テストを行ったことで学生に対して復習時間の確保を促すことができたと考えられる。次回講義分の資料を事前配布する等の予習を促す対策も必要であったと感じた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

小児期の発達、理学療法は学生にとってはイメージのしにくい分野であったと思うが、「動画での説明があつてわかりやすかった」「動画が多くてイメージが付きやすかったです」「実際に赤ちゃんの姿勢を体験するだけでなく、実習につなげられる授業でよかった」との意見が多く、発達過程や実際の治療場面の動画の提示、実技を取り入れたことで、学生が子どもの発達をイメージし、理解を深めることができたと考えられる。一方で「小児は難しい」との意見もあり、小児分野に対する苦手意識をもっていたり、理解が進まなかった学生もあり、他の提示方法の検討が必要であると感じた。また「小テストが難しかった。」の意見に対しては講義内の重要なポイント、理解を深めてほしい部分を提示することも必要であったと考える。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

小児の発達や疾患については学生がイメージしにくい分野であると考え、動画や実技を取り入れながら講義を展開し、学生からの評価も得られたが、授業態度や試験結果を踏まえると学生の理解や興味関心を十分に得られなかった点もあったと考えられる。今後はレポート課題やグループワークなどの導入により、学生が主体となるような講義展開を検討し、学生が小児の患者像イメージし、具体的な理学療法介入を考えるための知識を身につけられるような講義内容としていきたい。また今回の集計結果では予習を全くしていない学生も多かったが、予備知識をもって講義を受けることにより、理解を深めやすいように予習課題の提示も行っていけるとよいと考える。今回評価の高かった動画の提示に関しては、よりイメージをしやすいような内容や説明を加えていきたい。

科目名

57. 小児疾患系障害理学療法治療学実習

担当教員

多田 智美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

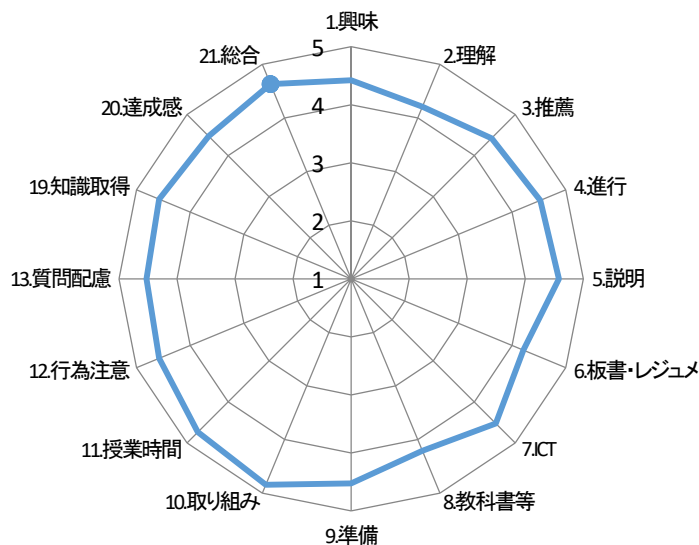
19名

◆集計データ結果について

復習や予習という時間につなげていない点については、今後検討が必要かと思われた。予習については、学生輪講の発表時には、それぞれ時間をかけてプレゼンテーションを作成しており、これについてはよい学びになっているのではないか。ただ、2年生という多くの専門分野の学習が増え興味関心の広がる時期に、小児領域というマイナーな分野に対して興味を持った学生がいたことについては非常によかったととらえている。できるだけ授業の中で疑問を解決し、学びを深めていく努力を今後もできたらと考えている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

提供した視覚的な教材や実技が非常に学生の印象に残っていることがよく分かった。また、アクティブラーニングの一環として、グループ発表の形式をとっているが、それももう少し印象に残るような工夫が必要かと思われた。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

学習の基本的な原則は、多感覚刺激による相互作用と情動が必要に大きな影響を与えるといわれている。小児分野は、興味関心を持っている学生は少なく、まずは興味を持ってもらうことを目標に、何らかの視覚的な印象を強く残すことによって、後日思い出しやすくなるように、教材をさらに深めていきたいと考える。アクティブラーニングとして学齢輪講の形で行なっている発表は、年々発表の内容がまとまるようになってきており、次年度も継続の予定である。実技も一昨年に比べるとまとまりよく実施でき、学生の理解度が増したように感じたので、次年度も本年度と同様な回数で行なう予定である。

科目名

58. 老年期障害理学療法学

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

38名

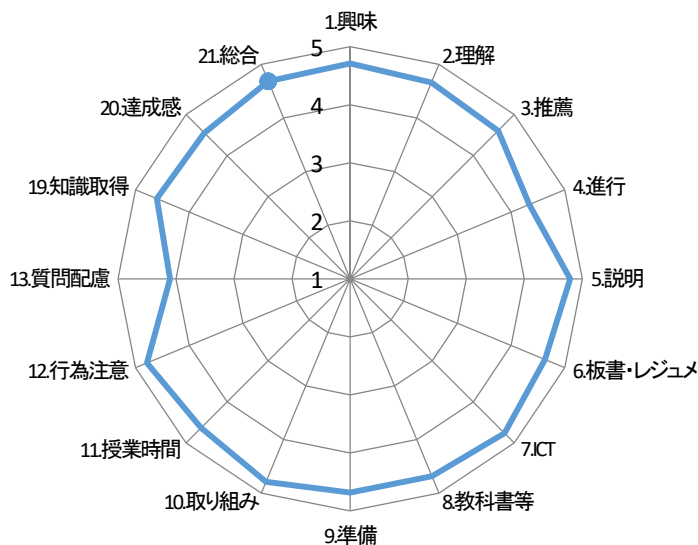
◆集計データ結果について

概ね4以上でしたが、「質問配慮」が若干低い評価となりました。わからないことはその場で挙手して質問するように、講義初回に伝えたのですが、どのような配慮を受講者が望んでいたのか、ご意見がいただきたかったです。

講義への参加度に関しては、質問等は積極的に行わなかったけれど、意識を持って熱心に参加したと感じている学生が多いという結果が示されていました。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

各回の講義の進め方や講義内容をまとめたプリントの配布などは概ね好評であったと思われます。特に、「実例を出しての説明により、イメージがしやすかった」「今後の理学療法の実習や臨床につながる」等の意見があり、とてもうれしく思います。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

昨年、講義進行・講義内容量に関するご意見をいただき、講義内容を見直し、「受講者の理解度の進展」と「スムーズな講義進行」が両立できるよう、努力しました。今後も、さらに工夫を重ねていきたいと思っています。

講義形式はどうしても受講者が「受け身」となりがちなため、自主的な学習につながるような課題や最新トピックを今後も提示していきたいと管がっています。

科目名

59. 日常生活活動学

担当教員

加藤 真弓

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

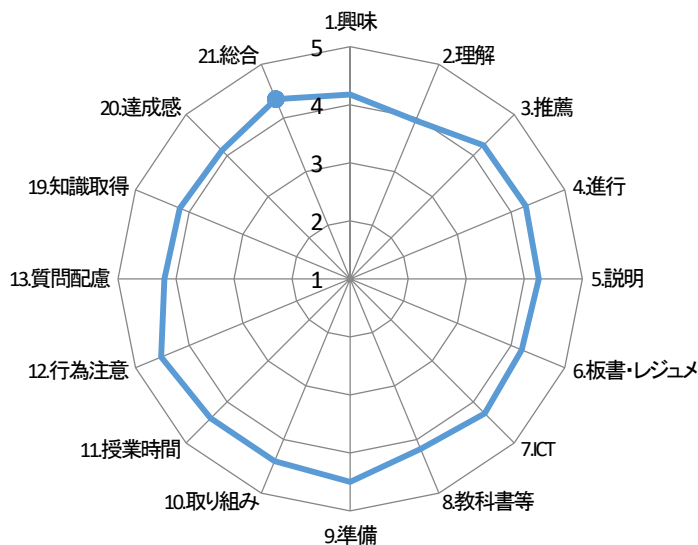
40名

◆集計データ結果について

質問項目の多くの平均点が4点前半であった。最も低かったのは「理解」で高かったのは「行為注意」であった。「理解」については、自由記述にもあるがADLの概念や定義には各人が提唱しており、国によっても異なるため、学生が何を覚えればいいのか混乱があったと考える。今回の授業で取り上げる定義を説明するも(テキストと一部異なる)、しっかりと聴いていないのか、テキストの文章を口頭で解説するだけでは不十分なのかわからないが、情報の整理が苦手であることが伺えた。「行為注意」に関しては、私語や居眠りに対して注意をしてきたためであると考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見が多かった。今年度の授業の特徴としては、①授業中に学んだことを、近くに着席している学生同士で振り返りや問題の出し合い等を授業の最後の5～10分を使い行った。また、その時間に質問も受け付けるようにした。②振り返りシートを作成した。内容は、授業内容を質問形式(～について説明せよ)で提示し、学生に記入し授業前までに提出してもらった。過不足を添削し、時間授業で返却する。そして、間違っていた事柄について全体に説明をした。③グループ学習や授業中に話し合い考える時間を設けた。このような点について、肯定的な意見が多かった。しかし、学生の主観的な理解に繋がらなかったようである。否定的意見としては、概念的なことがわからなかったという意見があった。この点については、テキストの文章と口頭説明であったため、初めから図示して視覚的に提示できるようにするとよいと感じた。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

概念的な事柄については、各研究者が様々な報告しているため学生は混乱しやすい。学生個人で整理をしてほしいという思いはあるが、時間的に余裕がないため、まずは臨床や国家試験で重要となる概念や分類を視覚的にも提示することで概念を整理し理解しやすくなると思う。その他については、概ね問題ないと思われるため、継続していきたい。

科目名

60. 日常生活活動学実習

担当教員

加藤 真弓

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

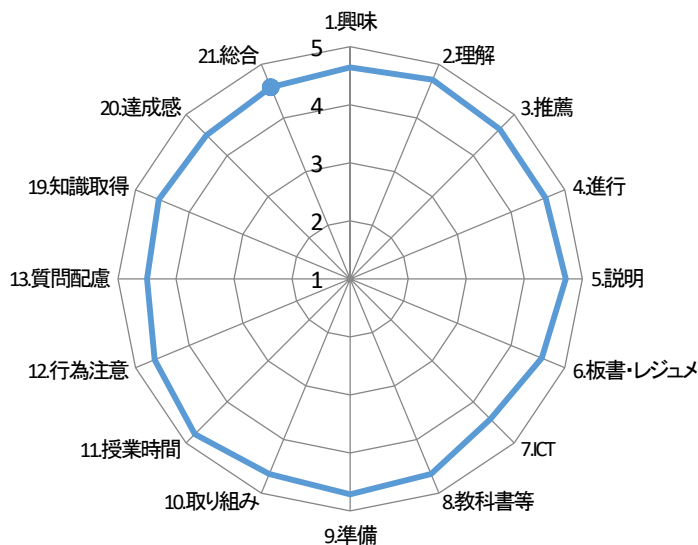
14名

◆集計データ結果について

総合評価が4.5点、その他の項目についても約4.5点という結果であり、比較的良好であった。しかし、回答者数が少ないため、肯定的な意見を持つ学生が回答したのかもしれない。熱心に取り組んだ学生が比較的多かったのは、試験で実技があることや、次年度に臨床実習を控えていることが考えられる。毎回、授業の冒頭で小テストを実施していたが、予習・復習を全くしない学生がいたことは残念なことである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実技の多さや、説明のわかりやすさ、資料のわかりやすさなどの肯定的な意見が多くあった。実技の多さについては、他の科目との関連で、実技試験の重みづけの変更に伴い、授業時間内の実技時間を多くしたことの影響である。学生は、疾患の障害像のイメージがついていないことが多いため、なるべくわかりやすく説明することを心がけた。動作の介助・誘導の方法は、臨床では患者の状態に合わせて行わなければならない。基本的な考え方はあるが、疾患ごとの定型パターンが必ず一つであるということがないため、学生には考えて実践してもらいたい。そのため、答えが一つではないので、学生たちは迷うこともあったかと思う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 21 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

単なる暗記ではなく、障害像をイメージした上で、起居・移乗・移動、ADLの介助・誘導、そして支援の方法を考えられるようになるための工夫を継続していきたい。単位修得に至らない学生がいるため、予習・復習の時間の確保の方法も検討していきたい。

科目名

61. 義肢装具学

担当教員

山田 南欧美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

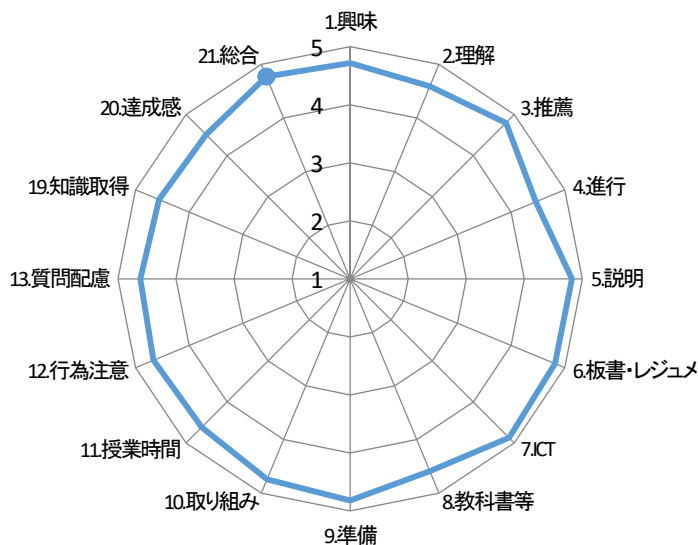
39名

◆集計データ結果について

質問項目の全てにおいて、アンケート結果が4点以上であり、学生から高い評価を受けた。「知識取得」と「達成感」で4.5点以上となり、多くの学生が能動的に授業に取り組めたのではないかと考える。ただ、予習・復習の時間については、1時間未満や全くなしという学生が大半を占めており、授業の準備や授業内容の自己確認を十分に行えていたとは考えにくい。わかりやすい授業となるように工夫し、授業内での知識の定着を狙った結果かもしれないが、テスト結果と照らし合わせると、必ずしも多くの学生が知識の定着ができていたとは言い切れず、授業および自宅学習の双方を活用できるような授業の進め方が必要かと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本授業では、講義プリントを使用して講義を進めた。また、昨年度は義足や装具を一覧にした資料を配布していたが、今年度からは一覧ではなく、各義肢・装具の写真やイラストを載せたスライドに、特徴や対象となる疾患を合わせて載せるようにし、また、各自でそのものの名前を書き込むような形式をとった。これにより、具体的イメージとその特徴を確認しながら名称を覚えることができ、学生から資料が好評であったと考える。また、義肢装具は実物を見ながらその動きをイメージする必要があるため、積極的に授業で実物を見せたり、触らせたりした。「実際に装具を見ることで理解が深まった」との意見も多く、この方法は有効であったと考える。一方、授業の配分を考えたほうが良いとの意見もあった。情報量が多い分、駆け足になった授業もあり、今後の課題である。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

概ね学生からの評価は良好であり、来年度も同じような形式で授業を進めていく予定である。ただ、自己学習を促す必要性もあり、小テストの活用や、課題の設定なども考えていきたい。授業の中で理解できたと感じていたのに、実際試験では点につながらない、という学生が多かったと感ぜられるため、積極的な授業参加に合わせて、知識定着度の向上も図っていきたい。授業の進むスピードも的確になるよう、今一度授業内容の配分を確認し、よりアップデートした内容にしていく。配布資料に関しても、より新しい情報を、よりイメージが膨らみやすい形で準備していく。「義肢装具学」にて広く知識を付けることで、「義肢装具学実習」につなげていけるよう、後押ししたい。

科目名

62. 義肢装具学実習

担当教員

山田 南欧美

西井 千博

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

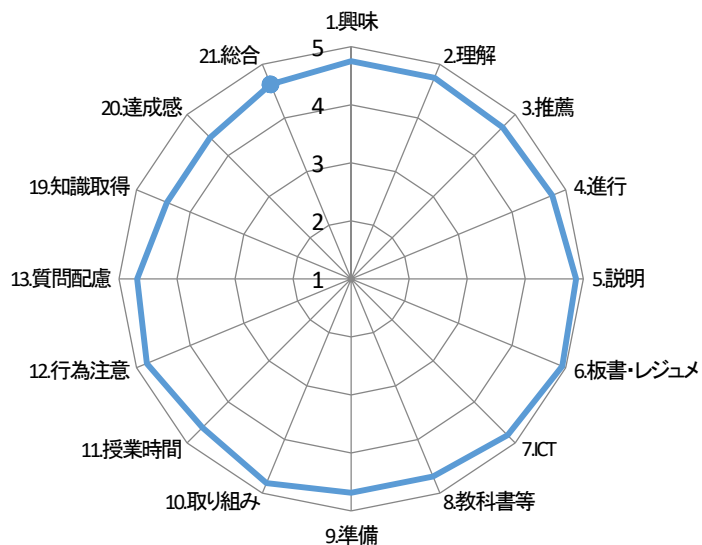
16名

◆集計データ結果について

授業内容や授業方法に関する項目や教員に関する項目について、全て4.5点以上と高い評価を受けることができた。特に、板書・レジュメに関する評価点が4.94点と高得点となっており、見やすい資料の提供ができたかと思う。当科目は、義肢装具に関する臨床的知識を身に付ける教科であり、実際の義肢装具のイメージをしっかりと身に付けることが重要になってくる。そのために、資料にカラー写真を載せるであったり、授業中に動画を見せる等、イメージがしやすい資料提供を意識した。その結果が、高評価につながったと考える。その一方で、知識の習得や達成感は4.4点にとどまった。義肢装具学実習は、得た知識を基に、患者さんにどのような義肢装具が必要かを理解し、不具合が生じる場合は、自身で調整するための原因究明や対応策の立案ができる能力が求められる。義肢装具の実際のイメージはできるものの、応用的に思考することに苦手意識が高くなった結果、やや低い点につながったと考える。また、予習・復習時間がない学生が多かった。応用的思考を身に付けるには、自身でじっくりと考える練習が必要である。そのような時間を確保できていなかったことも、問題であると考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業資料の内容が見やすかったとの意見が多く、前述したとおり、内容を工夫したことが高評価につながったと考える。また、本講義では義肢装具士(西井千博氏)を外部講師として招いており、その授業に対する評価も高かった。義肢装具士による講義では、複数の義肢装具の実物を持参しており、紙面上でしか確認していなかったものを実際に触れることで、より理解を深めることにつながることができたと考える。また、模擬義足の体験も実施しており、自ら義足歩行を体験することで、正常歩行や異常歩行についてより考察できるようになったと考える。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

本授業に対する評価は概ね高かったため、引き続き同様の内容で授業を進めていく予定である。また、予習・復習時間の確保に向け、ICTを活用しながら、事前に授業資料を配布したり、復習課題の提示を行っていく予定である。本授業は、前期に開講される義肢装具学の知識をより応用させるものであり、学生それぞれが応用的に思考する機会を、授業内に積極的に設けるようにしたい。本講義内容は、国家試験でも重要な分野であり、また、臨床に出た後も必要不可欠な分野であるため、授業内で十分に理解が深められるよう、フォローしていく。

科目名

63. 物理療法学

担当教員

臼井 晴信

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

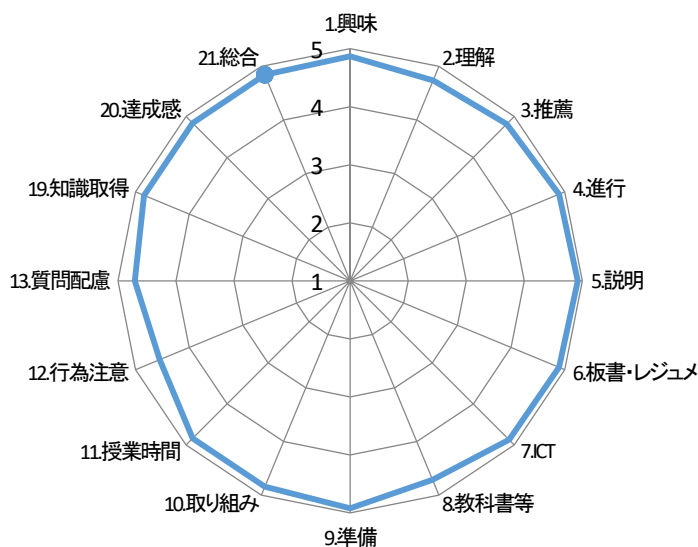
38名

◆集計データ結果について

概ね良い評価であった。平均値が4.5を下回った項目はなかった。学生の取り組みに関しては「熱心に取り組まなかった」や「目標を定めていない」と言う学生がいた。学生に意欲的な学習を促すような工夫が必要と思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

わかりやすかったという意見が多かった。特にパワーポイントの資料は好評だったが内容の理解に結び付いたかどうかは不明である。授業で工夫した点は、学生に物理療法の体験をしてもらい、感じたことや身体的な変化を生理学的に考察させうえて、講義を行った。その授業構成から学生に生理学的知識の治療への応用と論理的考察力を学修させようとした。学生の自由記載の中には、「体験してから講義をしたため良く分かった」「生理学の復習にもなった」という意見があり、ある程度は狙った効果があったものとする。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

現在の授業形態を継続しつつ、より学生が意欲的に学習できるような工夫を考えて取り入れようと思う。また日々の進歩の著しい分野なため、できる限り新しい知見を取り入れられるようにしたい。

科目名

64. 物理療法学実習

担当教員

臼井 晴信

清島 大資

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

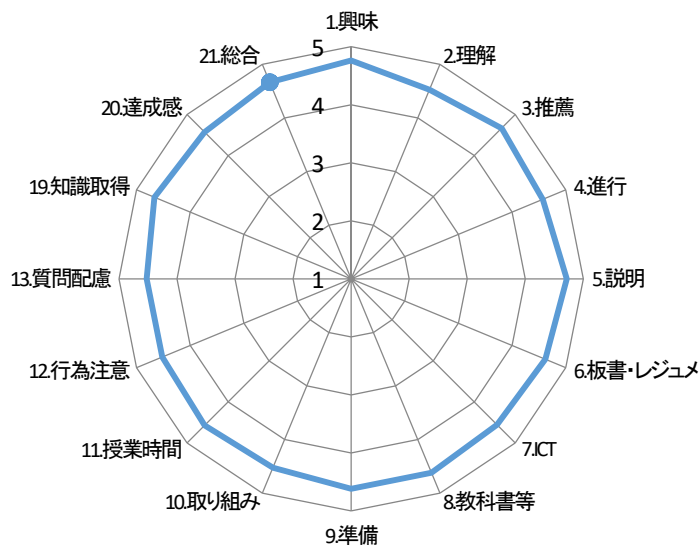
21名

◆集計データ結果について

全体的に良い点数であった。実習科目のため意見に幅があるかと思っただ、平均が4.5点を下回るものはなかった。実習科目であるにも関わらず、質問をしなかったと答えている学生がおり、グループワークでの取り組みの差が表れていると考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実験が楽しかった、考えるのが難しかったという意見が多かった。データ測定と考察の楽しさを実感できた学生もいたのではないと思われる。「実験をやって正しい結果にならなかったときに考えるのが難しかった」という意見がありとても気になった。出た実験結果について率直に考察するのではなく、仮説と同じ結果かどうかで「正しい」「正しくない」と判断していることになる。この意見は「正しいデータ」を得るための実験を行いかねない意見だと思う。データの取り扱いの大切さは教授していたつもりだが、再度伝える必要がある。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

物理療法学で学んだことを実際に実験してデータを測定し、考察する。その楽しさを体感し、論理的思考力をつけられる授業を行いたい。この授業を通して、丁寧なデータ測定の大切さや、データの取り扱いについても学習できるようにしたい。一部の学生からレポートの返却が遅いという意見があったのでできる限り早くフィードバックし、その後の学習に役立てられるようにしたい。

科目名

65. 理学療法特論 I (神経生理学的アプローチ)

担当教員

鳥居 昭久

加藤 真弓

高松 泰行

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

22名

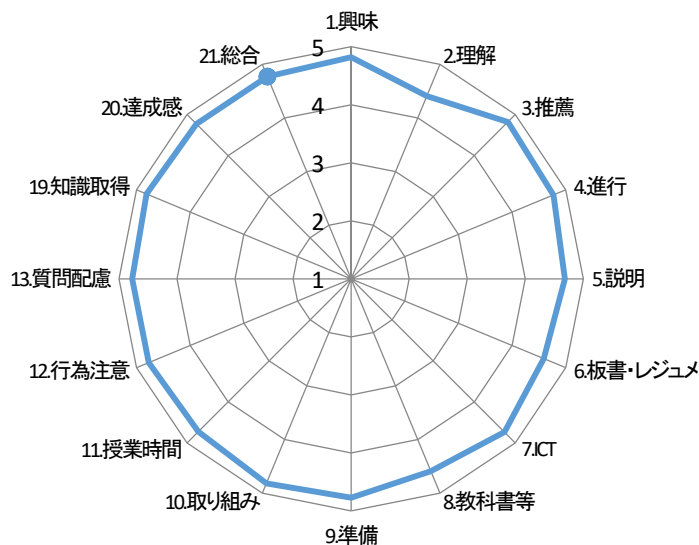
◆集計データ結果について

集計結果は全体としてバランスがよく、高得点であり、大きな問題はなかったと感じる。予習、復習については、比較的時間が短い中でも、復習をする学生がいたことが幸いである。国家試験も近くなり、国家試験に直接的に関連していない事項についての学習は身が入りにくいかと予測されるが、その中でも、この科目内容に興味を持ってくれた学生がいることは良かったと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

オムニバス形式での講義であり、3名の講師が分担して実施したため、直接的な連携はなく、基本的に別々の内容についての講義をじっした。このために、必ずしも全体に対する意見ではないものも有るので、一部意見として咀嚼する。

その中で、感じたのは、この講義が3年生の実習後の講義であり、臨床に向けてどのようにつながっているか？を考慮すべきであろうと感じる。現状として、座学が多いカリキュラムの中で、この理学療法特論は実技系を多く取り入れ、臨床現場に繋がる知識や技術を提供するべきであろうと考えている。学生たちも、実技の時間を多く望み、小難しい座学よりも、卒業後にすぐに使える知識と技術のレクチャーを少しでも多く取り入れるべきであろうと考えた。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

時間的な制約があるが、系統立てた内容で実施すべきであると考えている。

科目名

66. 理学療法特論Ⅱ（関節運動学的アプローチ）

担当教員

齊藤 誠

鈴木 惇也

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

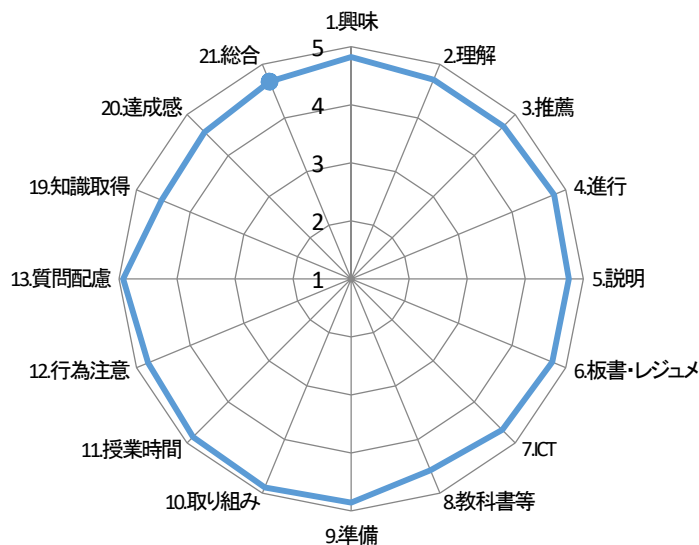
28名

◆集計データ結果について

全体的に良好な評価が得られたと考えている。
 実技の理解が不十分であったと考えている学生も数名いたが、講義時間が短いのですべてを理解することは難しいと思われる。臨床現場に出た後に、必要な知識や技術の習得に努めてほしい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

おおむね好意的な意見が多かった。
 講義場所は治療実習室などが確保できなかったため、やや不便を感じた学生もいた様子である。
 本来は治療が生体に与える影響を考察し、なぜその治療を行う必要があるのか、何の疾患に対して行うべきなのかを明確にすることを主な目的として講義を実施したかったが、時間の都合上、技術的な練習が多くなってしまった。学生の自由記述に関しては、一部の学生は目的や適応疾患を意識して講義を受講していた様子はうかがえるが、全体としてはやや不十分であったと認識している。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
 19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

講義場所に関しては他学年との兼ね合いもあり、なかなか難しい。今年度の方法でも、講義の実施に大きな不都合はなかったため、来年度以降も同様の方法になるかと思われる。

本来は実技の技術習得よりも、患者の病態に応じた治療手段の選択が重要であると伝えたかったが、理解して講義を受講した学生は少なかった様子である。講義時間数の関係もあり、色々と要求することは難しいと思われるが、なぜ本治療を行う必要があるかを論理的に説明できる理学療法士の育成に向けて、講義内容は検討していきたい。

科目名

67. 理学療法特論Ⅳ(スポーツ障害理学療法)

担当教員

鳥居 昭久

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

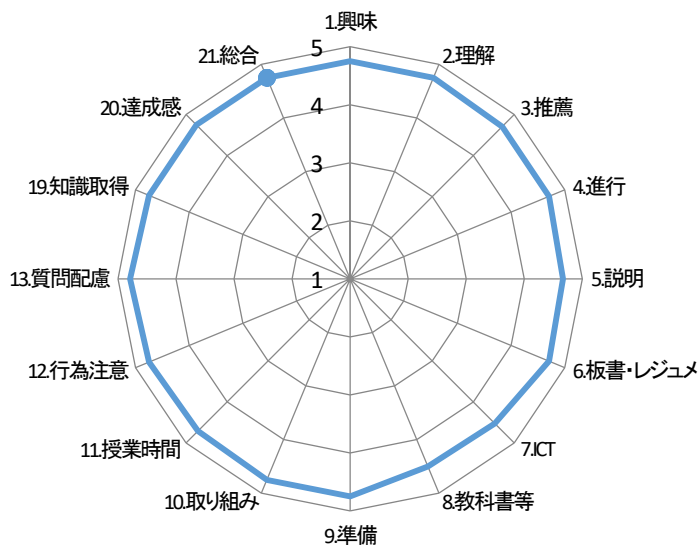
24名

◆集計データ結果について

集計結果から、高得点で、バランスも良く、大きな問題はないと感じられた。予習、復習の実施は少ないようである。講義中でも述べたが、国家試験に向けての基礎知識にもつながり、また、臨床現場での治療技術に直結している部分もあるので、積極的な予習や復習を望みたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

興味を持って取り組んでいた様子が分かります。講義時間内も、非常に積極的に取り組んでいた。ただし、時間的な制約があり、十分な技術供与をできたとは言えない。理学療法士国家試験科目ではない部分の内容も多かったが、将来的にこの分野での活動を望んでいる学生も多く、もっと時間的に長くすることを望んでいる様子が示されている。この点では、考えるべきことが多いと思う。単に国家試験対策に偏りがちな本学の教育の中で、臨床的、実際の技術修練をさせる場所、科目、期間を考えるべきであろう。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

根本的に科目内容については問題無いと感じる。指定規則改訂に伴うカリキュラム編成作業の中で、1, 2年生のうちに、ある程度時間をかけて技術トレーニングできる機会を検討すべきであろうと考える。

科目名

68. 理学療法特論Ⅴ(吸引・喀痰法)

担当教員

臼井 晴信

長井 多美子

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

30名

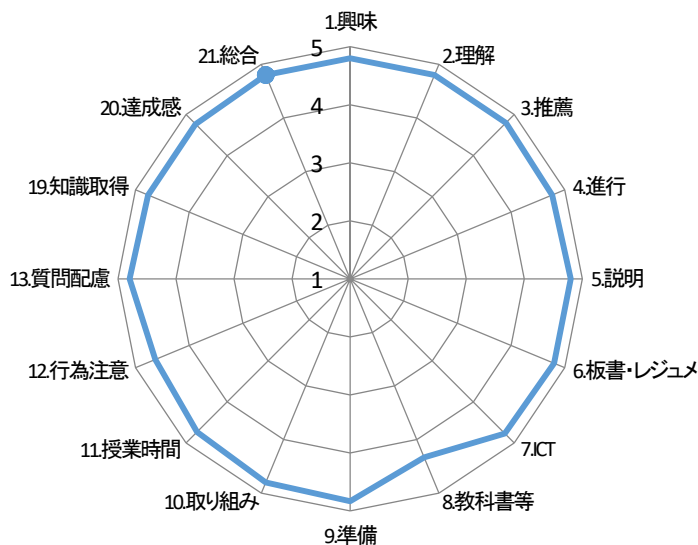
◆集計データ結果について

良い評価結果であった。実習後かつ国家試験前の講義であったため学習意欲も高く、主体的な学習ができたと考えられる。

「教科書の使用は適切か」の項目の点数が低かったが、この科目は教科書を指定しておらず自作の資料と板書および実技によって授業を構成した。復習や予習のための教科書があると良いのかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

意欲的に取り組めたとと思われる記載が多かった。特に「臨床的な考え方が学べた」という意見が複数の学生から挙がっており、教授したかったことが伝わっていた結果だと思う。また看護師による喀痰吸引の実技指導も行った。その喀痰吸引に関する「実技ができてよかった」という記載も多かった。学生同士で実演を行ったが、体験した学生にはとても有意義な講義であったようだ。ただ、受講生全員が体験する時間はなかったのは反省点である。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

臨床実習後に行うため、臨床的な視点をもって考えられることができる数少ない講義であると考え。今後も現在の講義形式を継続して行う。吸引の体験についてはできるだけ多くの学生が体験できるような時間配分を心掛けたいと思う。

科目名

69. 生活環境論

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

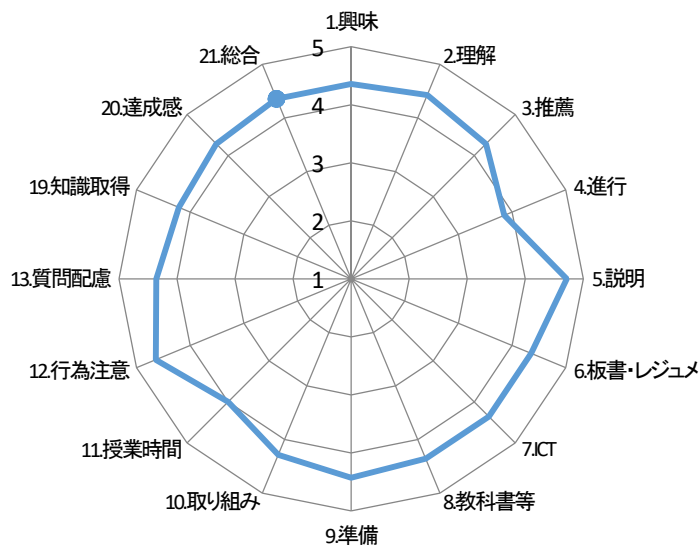
14名

◆集計データ結果について

評価は概ね4以上となりました。しかし、「進行」が他に比べて低い評価となりました。講義時間数と伝えたい内容が一致していない点は、自分自身でも理解しています。今後は、講義内容の見直しも考慮していきたいと考えます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

比較的、興味を持って取り組んでいただけたのだと思えるような記述が多かったように思います。しかし、やはり「講義時間」に関しては、「もう少しゆとりのある計画でやって欲しい」などの意見も散見され、反省すべき点だと考えます。スライドに関し、「わかりやすかった」「わかりにくかった」と真逆の意見もありました。今後、再度構成していきたいと思いますが、講義中にわかりにくかった点を確認するような行動をされるかたはいなかったと思います。その場でも、講義後でもよいので、理解を深める行動につなげていただきたかったという気持ちもあります。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

今回の評価結果から、講義時間と講義内容の一致が、もっとも重要な改善点であると理解できます。講義内容をさらに精査し、より重要と思われる部分をピックアップしながら、受講される皆さんが興味を持ち、臨床や患者さんの生活環境を評価、改修していく上での視点を持つことができるよう、再度構成していきたいと思えます。

科目名

70. 地域理学療法学

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

15名

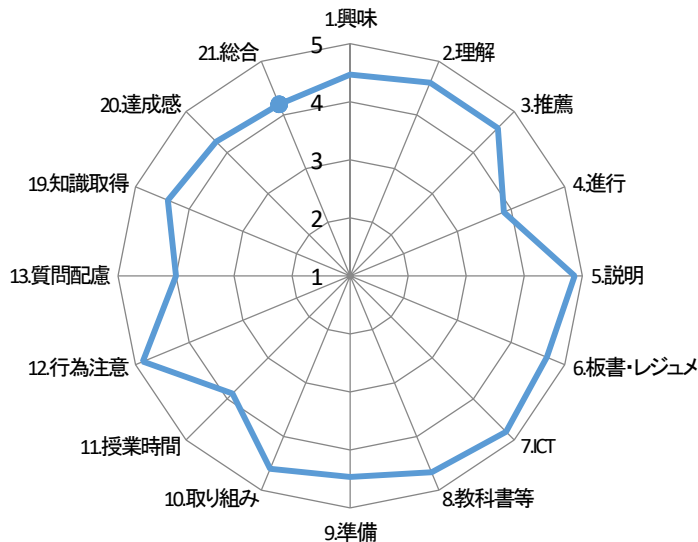
◆集計データ結果について

概ね4.5以上の評価となっていますが、「進行」と「授業時間」が3.8と低評価でした。これは、自由記載から「授業開始時間」に関するご意見と受け止めております。

学生の皆さん自身の評価は半数以上の方で「質問等は積極的にしていないけど、目標を持ち、熱心に取り組んだ」と読み取れます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

上記の通り、「授業開始時間を守る」という点を指摘いただきましたが、ここは反省点だと考えています。それ以外、講義内容等に関しては、肯定的な意見もあり、良かったと思います。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

授業の進め方に関しては、皆さんからの意見を元に振り返り、今後の行動に反映させたいと思います。その他は概ね及第点かと思っておりますので、現状を最低ラインとして維持しつつ、さらに受講者の理解が深まる、そして「自ら学ぶ」事のできる講義を展開できるよう、さらなる工夫を続けていきたいと思っています。

科目名

71. 地域理学療法実習

担当教員

加藤 真弓

鳥居 昭久

臼井 晴信

木村 菜穂子

齊藤 誠

田原 靖子

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

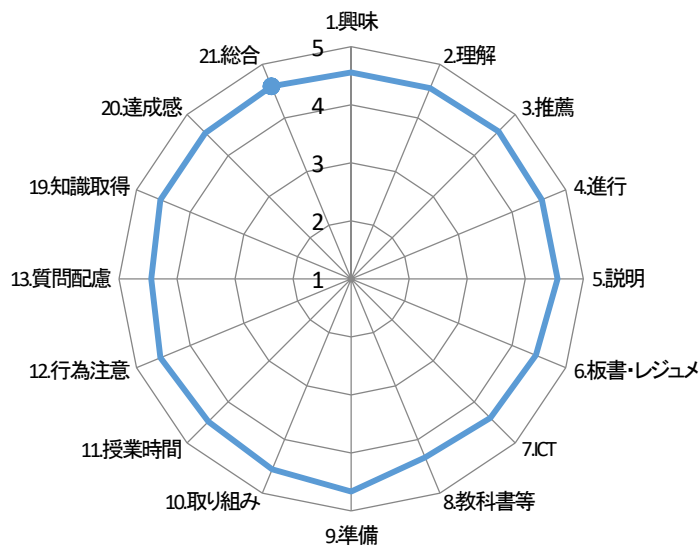
27名

◆集計データ結果について

総合評価が4.5であり、良好な結果であると考え。高齢者や園児と直接触れ合うことができる実践形式で行われ、具体的な行動目標が明確であり、取り組まれたことに対してその都度フィードバックや指導をしていたこともあり、目標を意識して取り組んだ学生が比較的多かったのではないかとと思われる。予習、復習に取り組んだ学生が非常に少ない結果となったのは、予習・復習課題(振り返りのための報告書作成、事前課題提出等)があったため、自主的な学習が少なくなったものと考え。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「自分で考える機会がたくさんあった」、「普段関わることの少ない高齢者や園児とコミュニケーションがとれて良かった」、「行動力があった」、「コミュニケーションの力が伸ばせた」、「高齢者や子どもから多くを学べた」などの肯定的記載がほとんどであった。将来、理学療法士となり、自ら対象者と関わっていくことが求められることを学生は理解しているため、実践から学べることが多くあり、学生自身目標に向かって取り組むことができた学生が比較的多いのではないかと考える。しかし、回答者数が実際の受講者数よりも少ないため、その他の意見もあるだろうと思う。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

体力測定の方法を説明するが、結果的に誤った方法で測定する学生がいる。事前の確認不足なのか、正しく理解することができないのか、多少間違っていたとしても問題ないと思っているのか、原因は様々であるが、リスク管理を含め正しく測定できるような工夫や確認がさらに必要である。高齢者の介護予防については、一昨年度と異なる形態になり、集団をまとめ指導するリーダー的な体験をする機会がないため、その点についての改善策を検討したい。

科目名

72. 臨床実習 I (基礎) (PT)

担当教員

鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・
清島 大資・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠

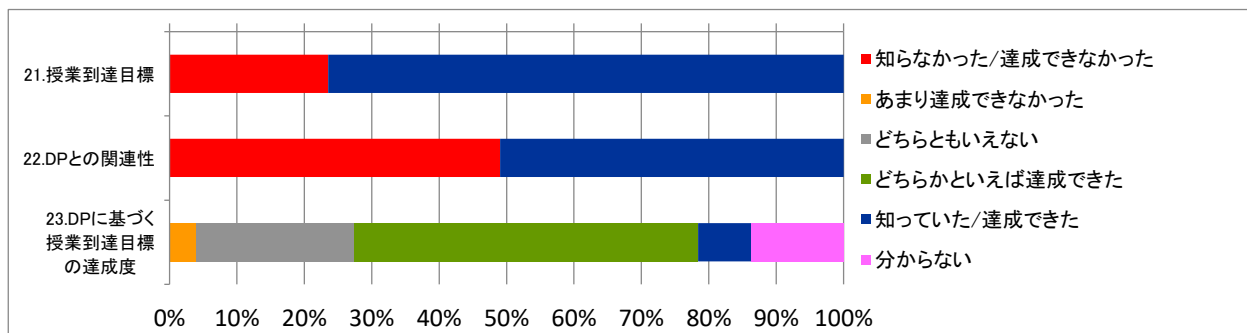
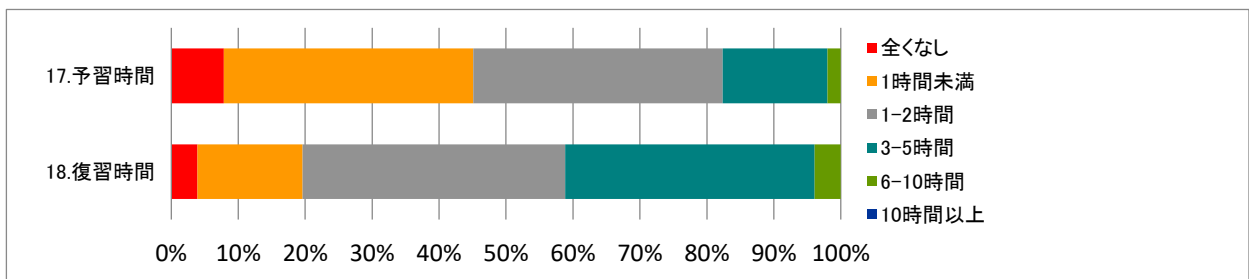
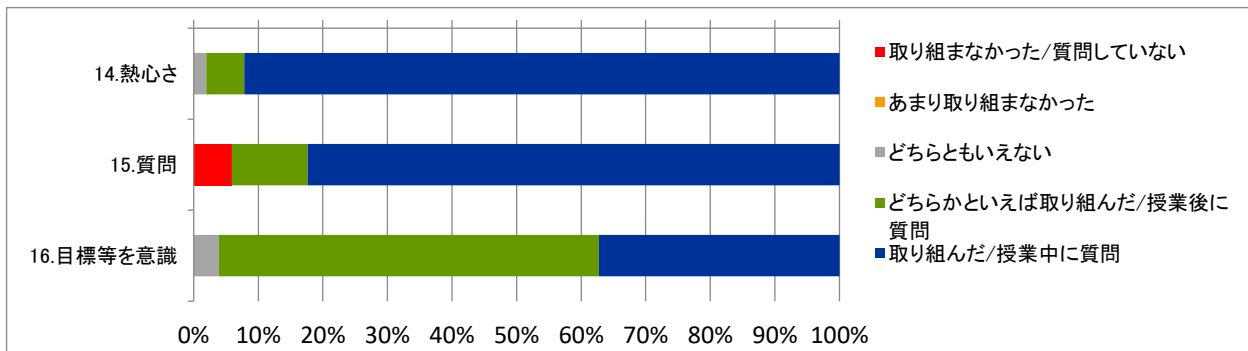
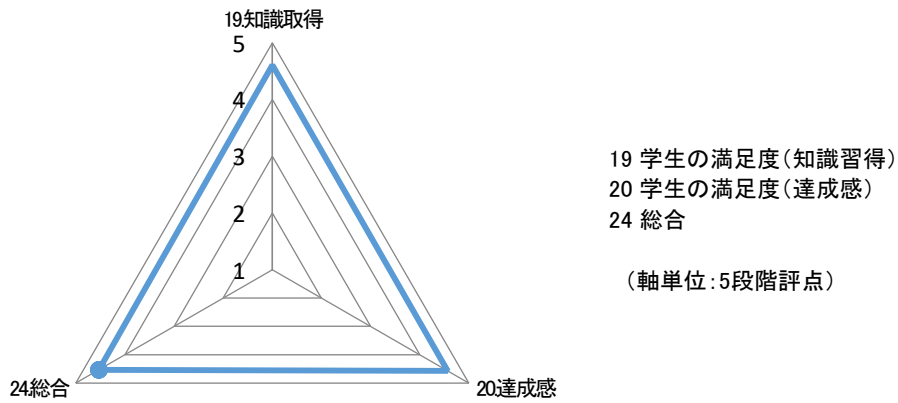
専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

51名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、一部の設問を除外して実施。



科目名

73. 臨床実習Ⅱ(評価)(PT)

担当教員

鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・
清島 大資・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠

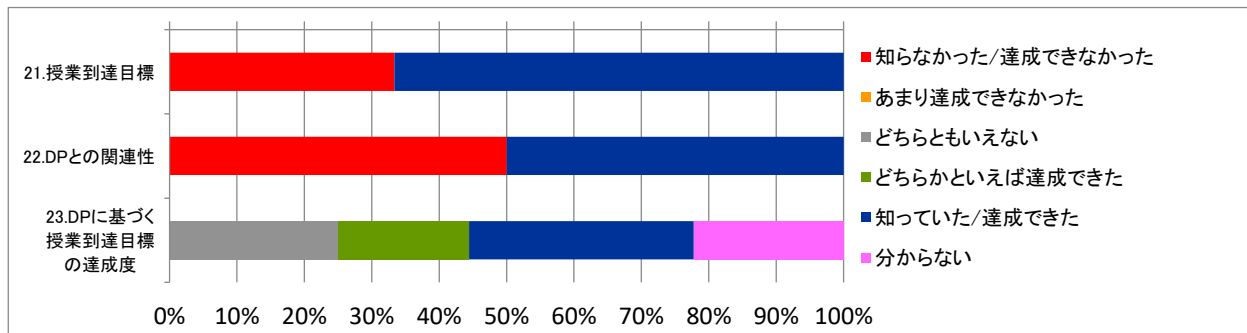
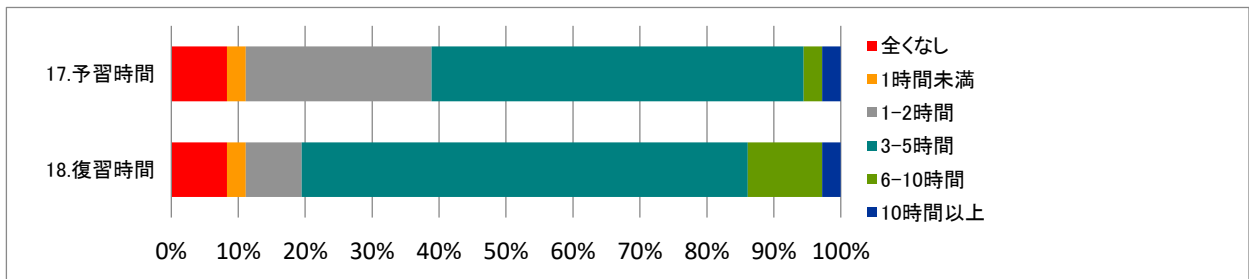
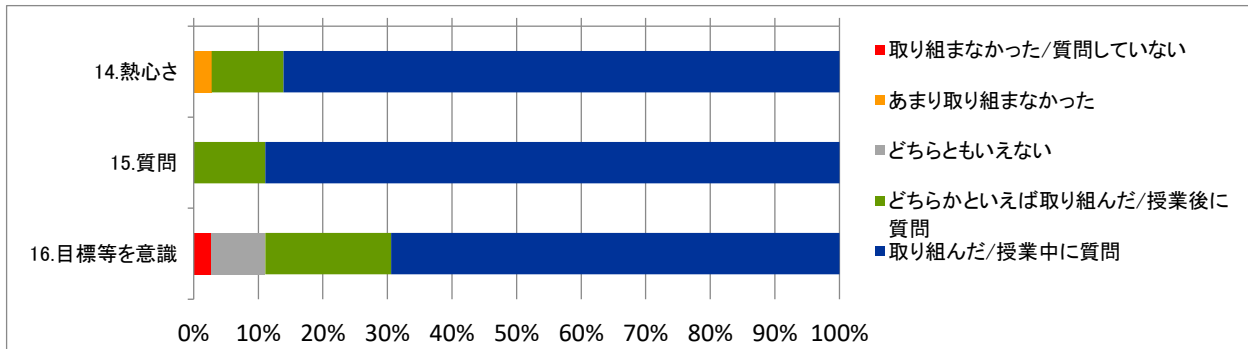
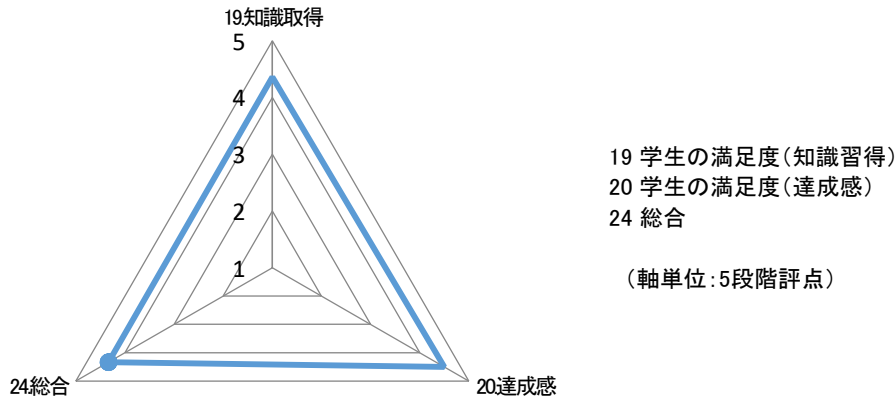
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

36名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、一部の設問を除外して実施。



科目名

74. 臨床実習Ⅲ(総合1)(PT)

担当教員

鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・
清島 大資・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠

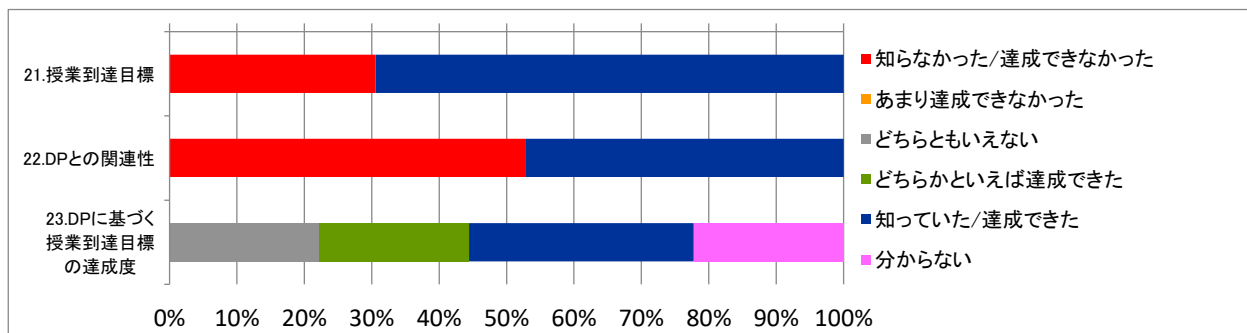
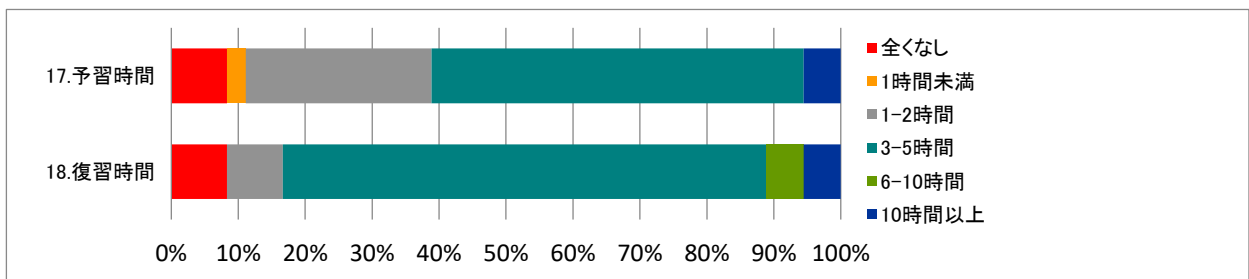
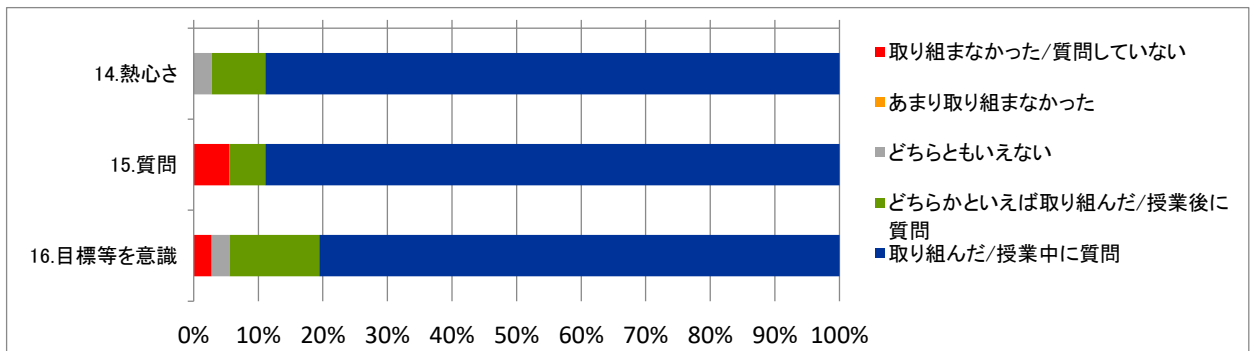
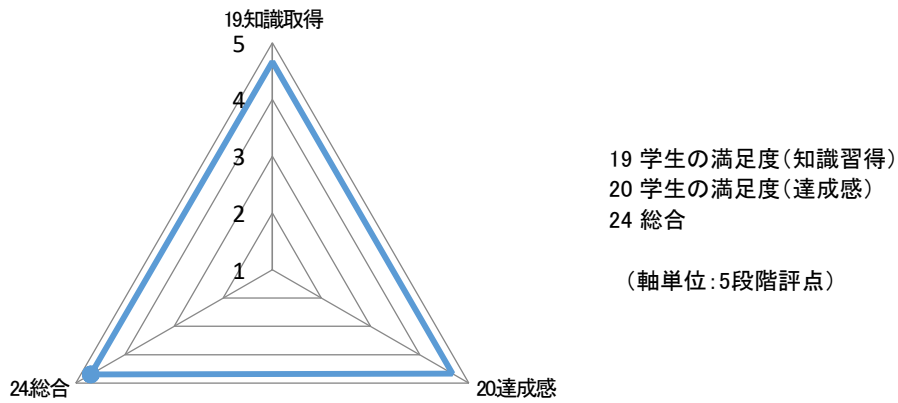
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

36名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、一部の設問を除外して実施。



科目名

75. 臨床実習Ⅳ(総合2)(PT)

担当教員

鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・
清島 大資・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠

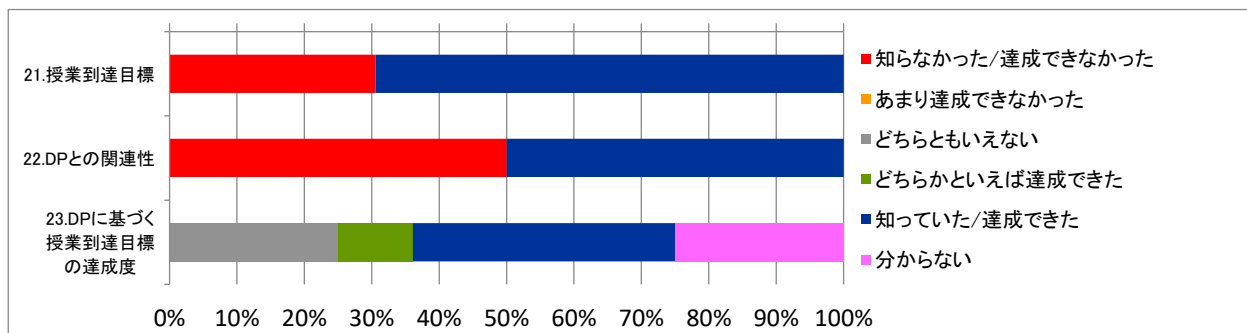
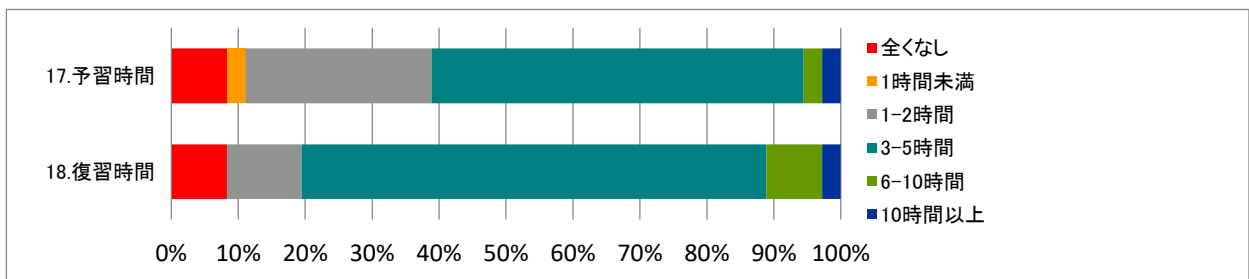
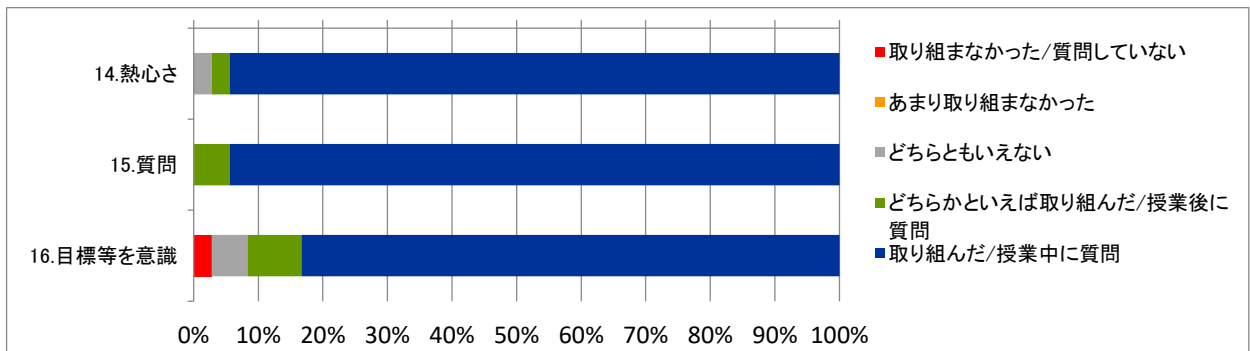
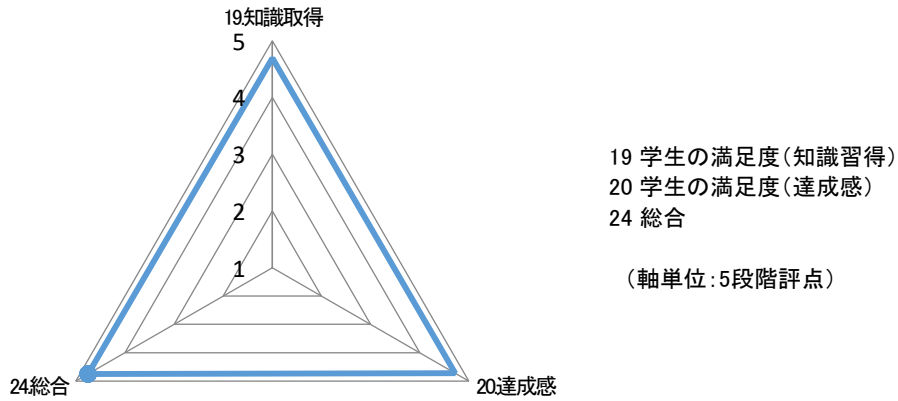
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

36名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、一部の設問を除外して実施。



科目名

76. 卒業研究(PT)

担当教員

鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・
清島 大資・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠

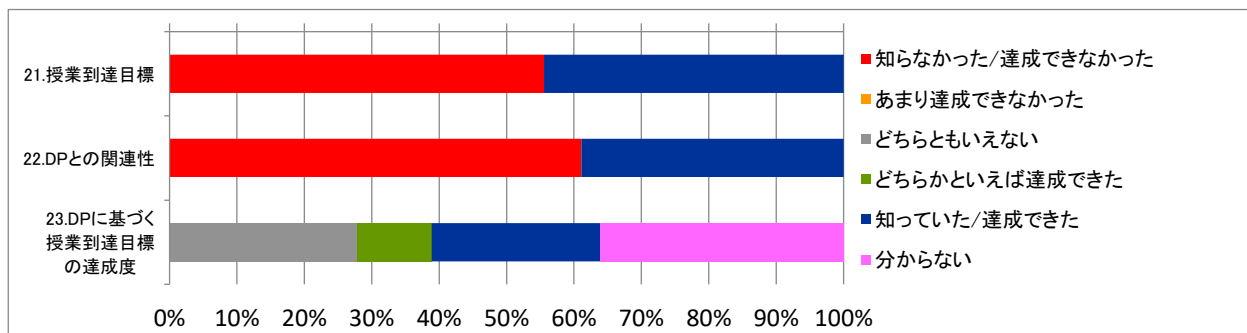
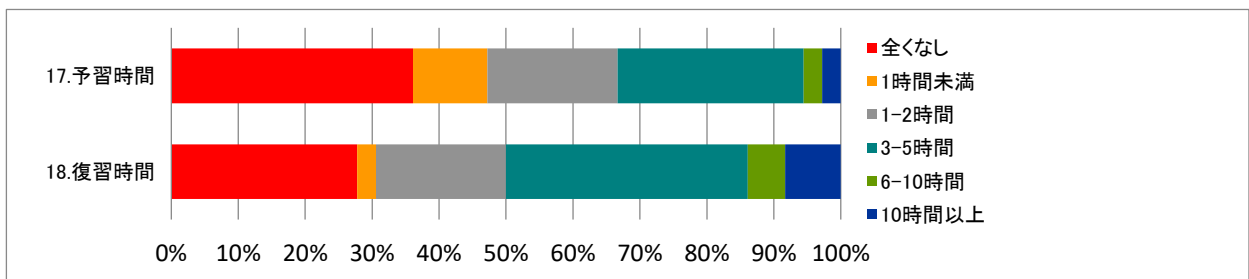
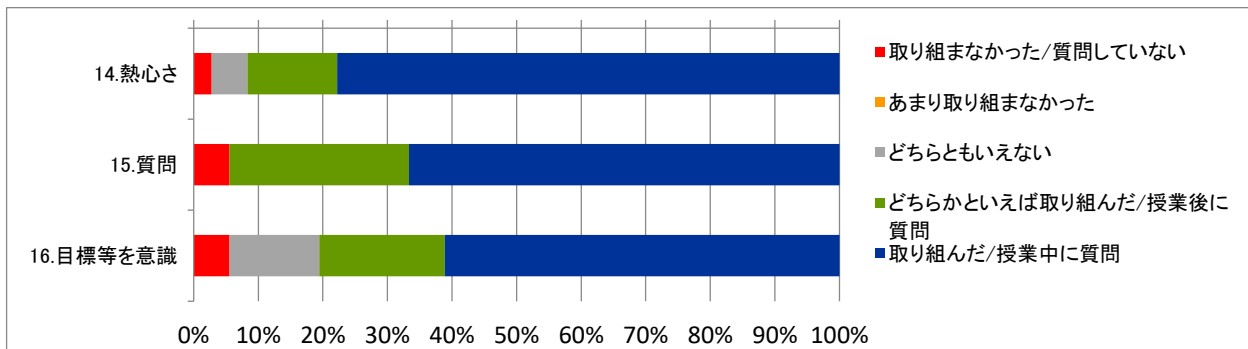
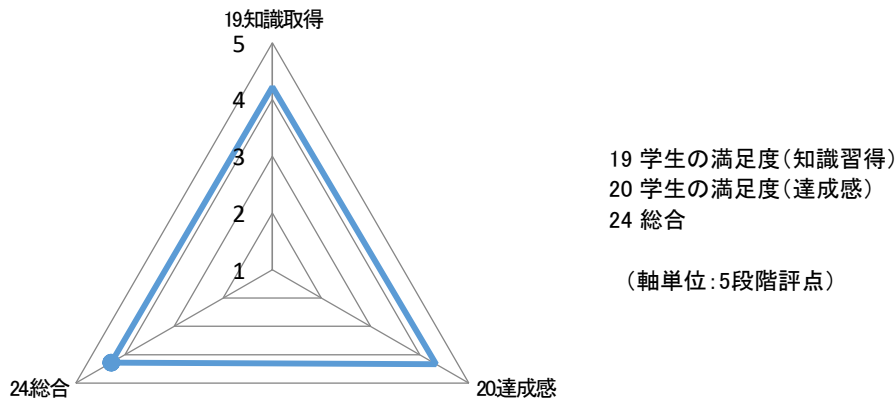
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

36名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、一部の設問を除外して実施。



科目名

77. 総合演習(PT)

担当教員

理学療法学専攻・作業療法学専攻全教員

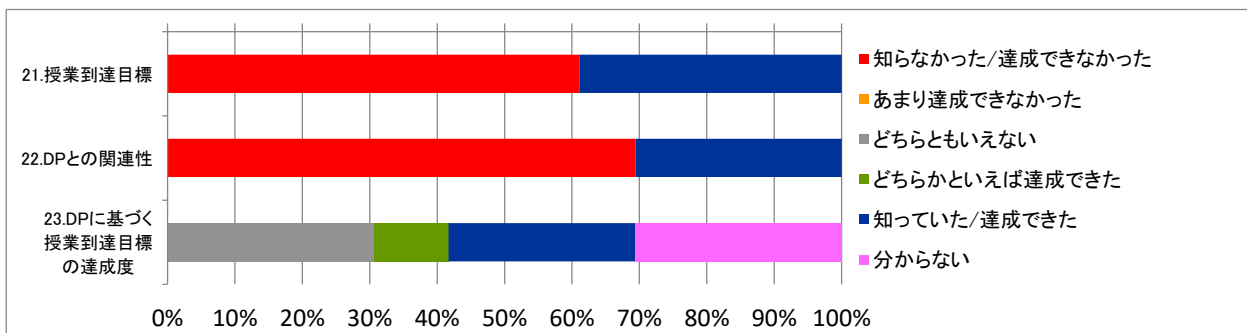
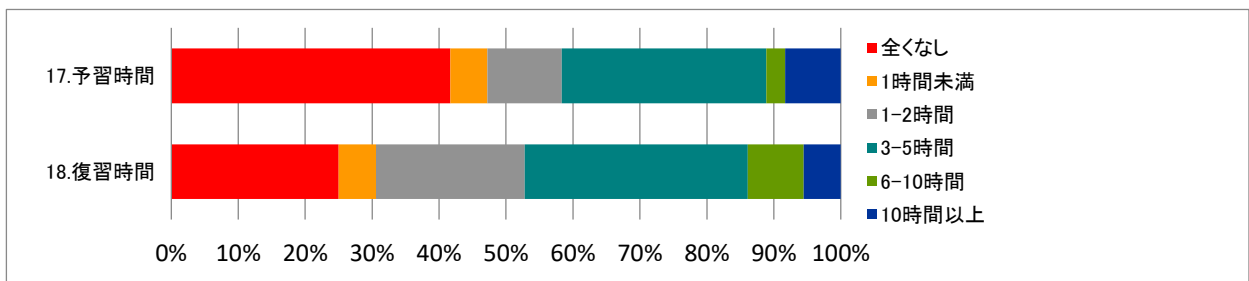
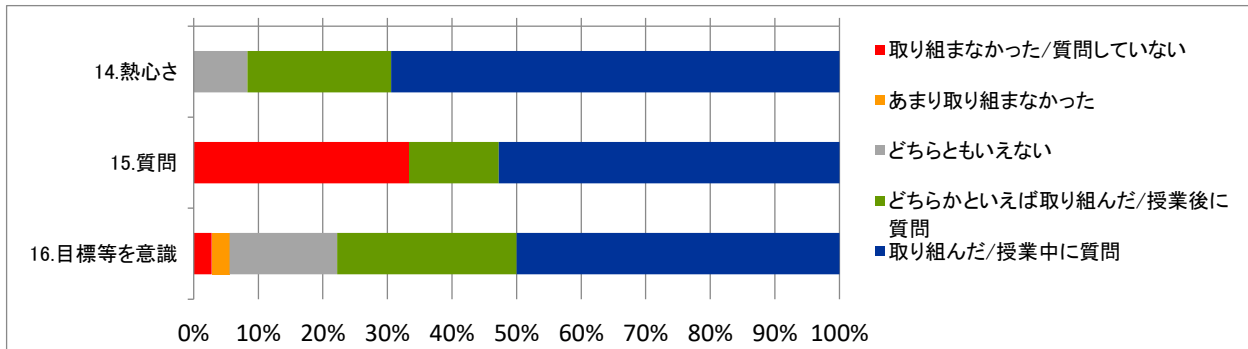
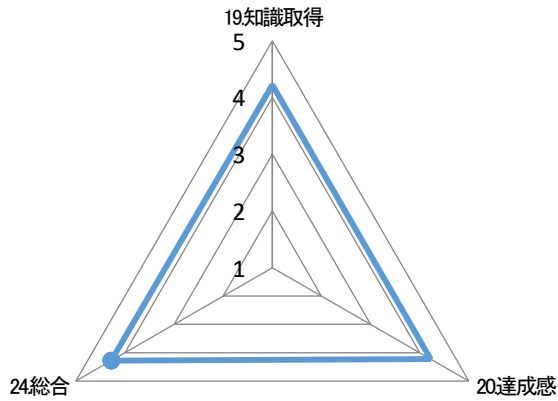
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

36名

◆集計データ結果について



◆集計データ結果について

概ね4.5前後という結果となったが、「進行」のみ3.8となった。これは、初回に「作業療法の仕事」のDVDを視聴してもらった際、機器の不具合があり予定より時間がかかってしまい、その後の進行が講義予定表とずれてしまったことによると思われる。

取り組みに関しては、45%の者が「熱心に取り組んだ」と答えており、1年生にとって専門的な学習の入り口であるため、興味を持って取り組んだことが伺われる。

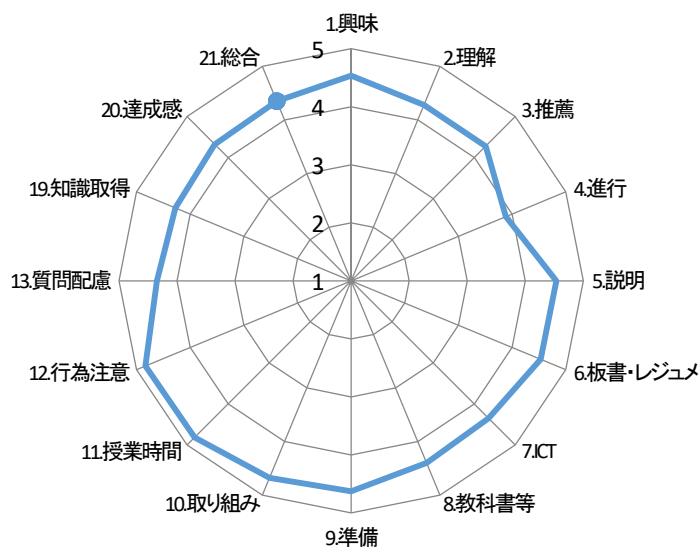
しかし、予習・復習に関しては、1時間以上行った者は10%強しかおらず、予習は3割強、復習は4割強の者が全く行っていなかった。これは、小テスト等の形成的評価を実施しなかったためであろうと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

声や話し方に関して「聞き取りやすかった」という記載が複数見られた。また、説明の仕方について「分かりやすく言い換えたり、想像しにくいところは絵や具体例で分かりやすく説明してくれた」「分かりやすく実際にやってくれた」「教科書にはない説明まで詳しくしてくれた」「症例がたくさん出てきて想像しやすかった」「臨床での話など具体的なイメージがしやすかった」といった記載がみられた。さらに、穴埋め式プリントを毎回配布したが「教科書どおり分かりやすくまとめてあり良かった」「復習がしやすかった」「何が大切なのか分かりやすかった」といった記載が複数みられた。これらは学生の理解を促すことに繋がったと考えられる。

加えて、「作業療法士がどんな事をしているか知れてよかった」「将来について知れる授業でためになった」「OTとしてのポイントなどを知れてよかった」「作業療法士のイメージを学ぶことが出来よかった」「OTの基本がわかった」というような記載がみられ、「楽しかった」「一生懸命頑張れた」といった記載もあり、OT概論としての授業の目的を果たせたと考える。

一方少数ではあったが「眠くなった」との記載もあり、今後の課題ではある。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

今回、自由記載も含め、概ね肯定的な評価を得ることが出来たと考える。

今後も、プリント教材を利用し、臨床の話など具体的な説明を取り入れ、1年生の最初の時期に、作業療法士のイメージが持てるよう、分かりやすい授業を展開していこうと考える。

科目名

79. 作業療法研究法

担当教員

高田 政夫

山下 英美

加藤 真夕美

横山 剛

草川 裕也

清水 一輝

求野 弥生

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

19名

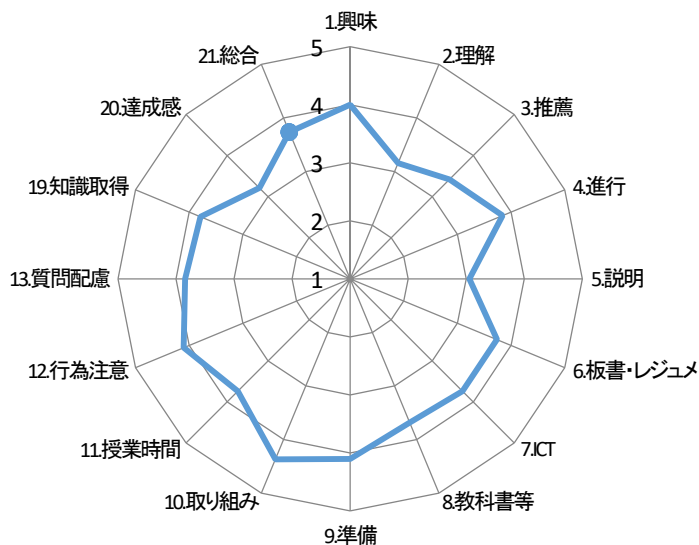
◆集計データ結果について

全体的に評点が3から4.1のレベルにとどまっている。特に学生に対する説明や板書の評価が低い。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

最終的に論文をWordにて提出するファイルを学生をおもんぱかってデータファイにて配信したが、印刷してほしいとの希望があった。

担当教員間での教育目標の異なりが指摘された。教員間の前もっての調整が必要である。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

授業目標については担当教員間での調整を十分に行い、意見の統一を図らなければならない。

科目名

80. 臨床運動学(OT)

担当教員

加藤 真夕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

25名

◆集計データ結果について

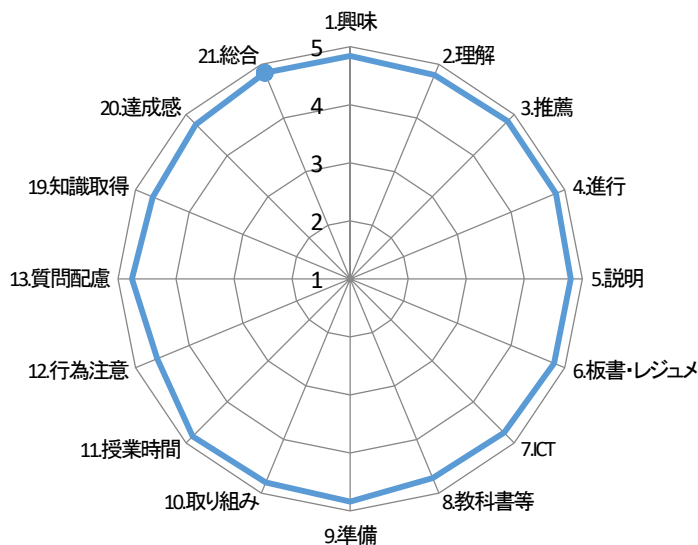
すべての項目で平均4.6点以上であり、バランスのとれた評価であった。本講義の工夫としては例年通り①教科書をしっかり読む習慣をつけるために、教科書のガイドとなるようなレジュメを作成すること ②体験学習を多く取り入れて「体で理解する」仕掛けを用意すること ③学生的心声を授業中に積極的に拾うこと の3点である。②について、本授業は講義という形式の授業であるが、疑似体験しながらそれに関する知識をその都度入れていくことにより、共感的に対象者を理解することを推進している。

学生自身の取り組み姿勢としては「熱心に取り組んだ」「どちらかといえば熱心に取り組んだ」(14)と答えた学生が100%であり、学生の意欲を引き出すような授業を展開できていたと考えている。また復習時間(18)は「まったくなし」が1名だけであり、昨年度よりは勉強した学生が多かったようである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

昨年度、「理解が難しかった」との意見が1名よりあったことも踏まえ、更に説明をかみ砕いたり講義室を巡回しながら気づいたときにすぐ助言するなどの工夫を行った。その結果、「疑似体験しながらだったので理解しやすかった」との意見が多数を占めた。障害疑似体験が、学生の理解の主観的評価に貢献したといえる。

一方「もう少し授業時間数がほしい」「杖や車椅子の数が少ないと感じた」という授業の枠組みや物理的環境に関する意見が1件ずつ挙げられた。また「腰が痛くなり満足に行えなかった」との意見が1件挙げられた。学生ごとの身体的特徴に関しては学生からの相談があれば、配慮すると伝えてはおり、該当学生には声掛けをするようにもしているが、随時相談するというところに躊躇した学生もいたようである。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

この授業の役割として、1年次の運動学(総論・上肢・下肢)がいかにか臨床活動に結びついているかを理解すること、臨床実習において求められる「動作分析」の基礎を押さえること、臨床実習の場で実践できるよう最低限の移動介助技術を身につけること、の3点を意識している。そのためには授業外での予習・復習時間をいかに確保するよう促せるか、が次年度も同様の課題である。毎週授業内で提示している課題のチェック方法を見直し、学生が「自分はよく勉強している」と達成感を抱くことができるような支援方法を検討していきたい。

また、学生の身体的特徴に関して、特徴に合わせた介助方法が適切に助言できるよう、学生が随時相談しやすい環境を作るよう更に努めたい。

◆集計データ結果について

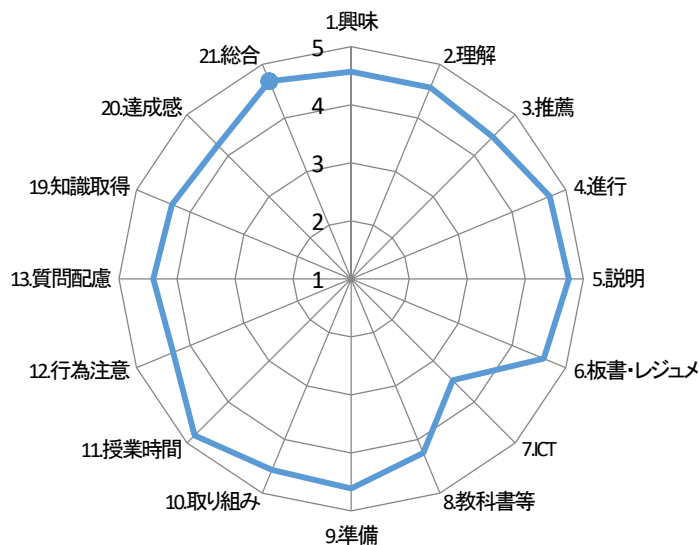
教員に対しては、レーダーチャートに示されているほぼすべての項目で、平均が4.2～4.8の間にあり、バランスの良い評価であった。ICT(7)のみ3.4であったが、本授業ではまったくICT機器を用いなかったことが要因である。本授業では「読む」「書く」「実践する」ことを通して実感としての作業を学んでもらうため、教科書、レジュメやレポートといった従来の紙媒体を用いた授業展開とした。また折り紙などの材料を用いた演習を行い理解を深めたことが、安定した評価に繋がったと考える。

一方学生自身の振り返りでは、予習時間(17)がまったくない学生(15%)が、昨年度(58%)よりも減少した。復習時間の割合は昨年度と変わらず、また特に予習課題を与えていないので、伸びた原因は不明であるので、今後学生の学習行動を見ていくこととする。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的なコメントが多かった。「折り紙などを使用したためどのようなハビリに繋がっているかを理解することができた」「周りの人と意見を出し合っって課題を進めることができたのでいろいろな考え方を持つことができた」「自分自身が障害による苦勞や制限を感じられたことがよかった」「先生の声が聞き取りやすく、皆も目立った私語や内職がなく、真剣に聞いていたと思う」など、方法論に関する意見まで、非常に具体的に記述されているコメントが多かった。グループでの演習を多用し、自分や身近な他者に知識を引きよせながら様々なことを考え、実践してもらったことが、学生の知的好奇心を喚起したと思われる。

一方「せわしない感じはなく良かったが、学習したという達成感を感じにくかった」「教科書を自分で読むがそれだけで理解できないのもっと解説の時間を作ってほしい」「教科書を読む時間は睡魔と戦うだけの時間になってしまった」との意見もあり、学生の参加意識によってとらえ方に差があったようである。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

自由記載にあった「学習したという達成感」に関しては、単元ごとに達成すべきことを述べ、シラバスにも記載しているが、今後はレジュメにもその回の達成目標を記載するなどしたい。

また、教科書の事例など、作業療法を学ぶ学生にとって有意義な記事を、短時間だが敢えて授業時間内に時間を作って黙読してもらっている。その後解説を行っているが、学生によっては不十分だったようである。教科書を予習として読んでおいてもらい、理解が不十分なところを授業内で質問してもらおうというような対策を考えている。

科目名

82. 基礎作業学実習

担当教員

横山 剛

森下 章生

後藤 潤子

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

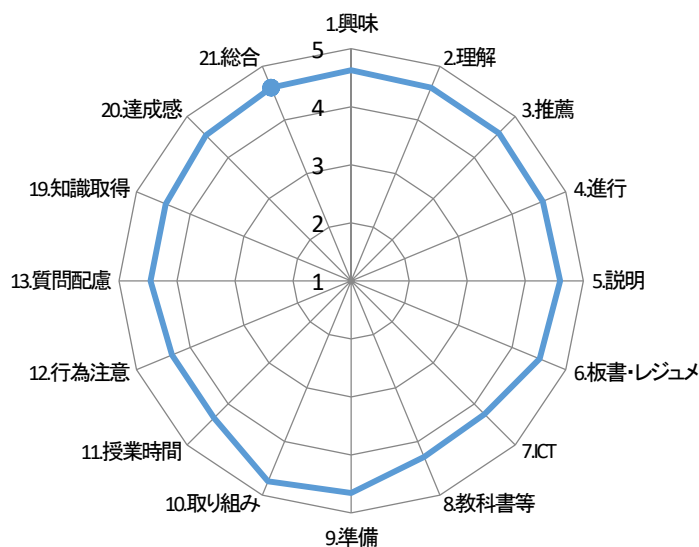
35名

◆集計データ結果について

概ね4点～5点でありバランスが取れた授業であったと考えられる。すべての項目で1点をつけている学生がおり、同一の学生なのかは分からないが、様々な学生がいる中で対応できる授業とするのが今後の課題である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの学生が楽しむ事ができたようであった。アクティビティを楽しめるということがどのようにセラピーとして成立するかについて、今後学習して言って欲しいと願っている。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

多くの学生が楽しめる機会となっているため、今後も継続していくが、集団の利用(短期課題集団など)などについても課題として取り組んでいけるように検討していくつもりである。

科目名

83. 作業療法評価法

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

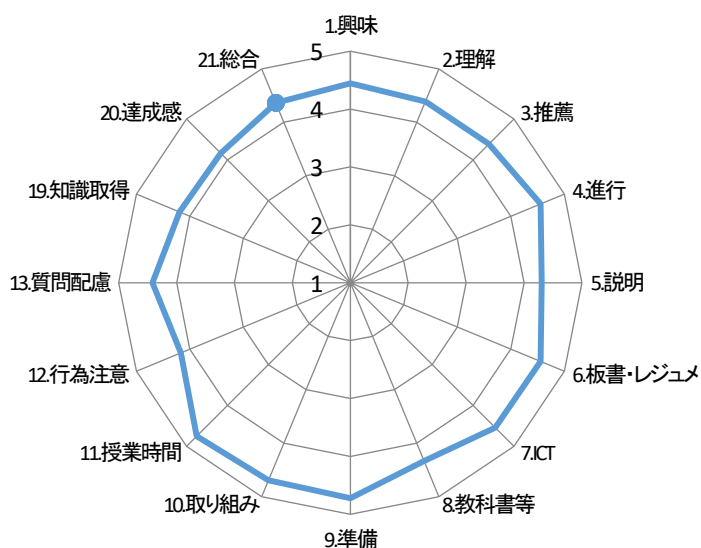
36名

◆集計データ結果について

ほとんどの項目で4.3以上の評価であったが、「行為注意」「知識習得」「達成感」の項目で4.3を下回っていた。行為注意に関しては、特に私語など他学生へ迷惑をかけるような行為はなかったと認識しているが、居眠りしている学生がいたことがこのような評価につながったと考えられる。「知識習得」「達成感」に関しては、作業療法評価に関する初めての講義であり、一つ一つの知識を着実に理解できるように授業を計画し実施した、それに加え基本的な考え方の定着を測ることを主眼においていた。そのため、多くの知識を得ることにつながらなかった可能性がある。その一方で、作業療法の思考についての講義を実施したことで、概念的な知識が多くなり、達成感の得にくさにつながった可能性がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

今回の講義では予習・復習を課題として提示し、それに関して振り返りをするようプリントを配布していた、「予習をしたことを講義で説明したことでわかりやすかった」という意見があり、一定の効果があったことがうかがえる。しかし、その一方で振り返りプリントの質問の意味がわからなかった、という否定的な意見もあったため、振り返りの内容を来年度に向けて検討していきたい。ポートフォリオという形で、講義での学習や予習・復習の内容をまとめてもらったが、講義の最後でフィードバックを行なった、レポートのフィードバックを毎回行ったほうが良かったという意見もあり、フィードバックの方法について再度検討していきたい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

予習、復習が1時間未満の学生がほとんどであったことは今後改善をしていきたい、上記のようにある程度の枠組みを提示し、そこから各自で学習を深めていくことを期待しており、それを学生にも伝えていたが、そこまでの取り組みに到達した学生は多くなかったと思われる。個別での関わりも極力行うようにし、学生が学びたいと思えるような気づきを与えられるようにしていきたい。それに加え、具体的な知識の提供の量が少なかったとも思うため、より理解しやすい知識の提供も行っていきたい。グループでの活動や発表などは、学生にとっても得るものが多かったと思われるため、今後も継続していきたい。

科目名

84. 作業療法評価法実習

担当教員

横山 剛

山下 英美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

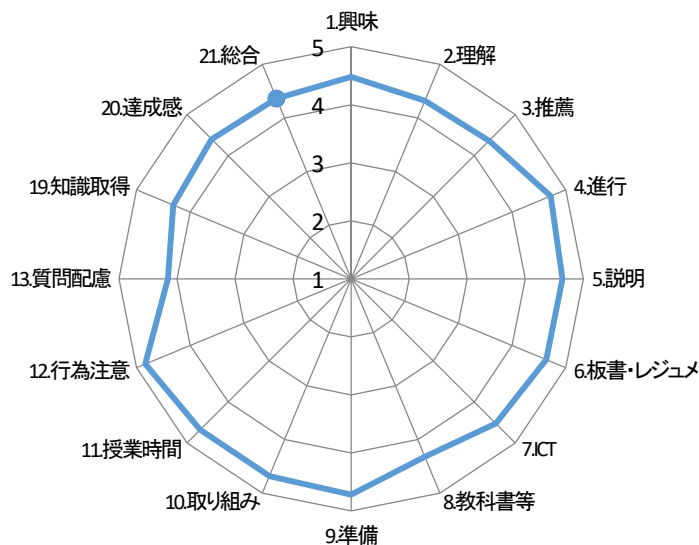
25名

◆集計データ結果について

概ね4～5点であり、バランスが取れた授業であったと考えられる。皆熱心に取り組んでいた事が伺われ、今後も取り組んでいく予定である。学生個人個人にフィードバックをする時間を作っているのが、予習、復習に待ったく取り組まなかったという事はないはずで誤解があるようである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自身や、クラスメイトについて知る事ができたとポジティブな意見があった反面、何を求められているか分かりにくい、といった意見も見られた。よく分からない、といった事が「分かった」のであるから、今後の学習に期待できるのだと考えている。フィードバックの方法については、担当教員間で打ち合わせを行っているため、問題はないと考えている。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

臨床のどのような場面で、実践として使える知識・技術なのかを実践例を示して教授する事を検討したいと考えている。

◆集計データ結果について

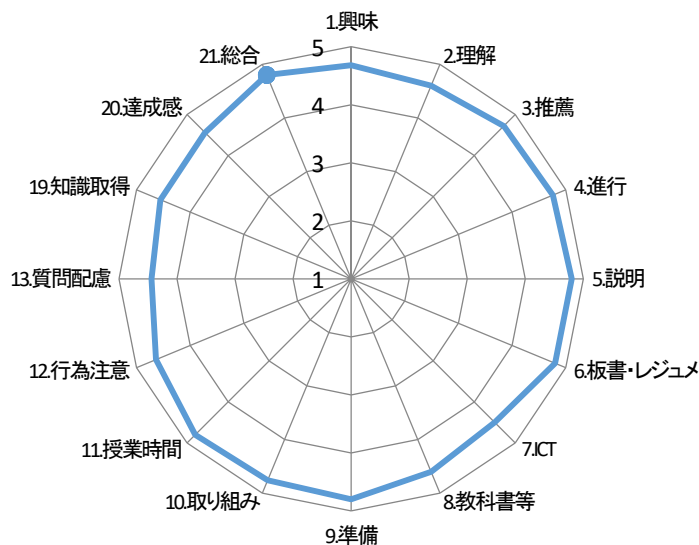
教員に対しては、レーダーチャートに示されているすべての項目で、平均が4.4～4.8の間にあり、バランスの良い評価であった。これから身体障害領域の作業療法を学ぶ中で欠かすことのできない基礎科目であるがゆえに、分かりやすく、簡潔に、しかも要点を落とさぬように細心の注意を払いながら授業を行っている。毎年マイナーチェンジしている資料は、学生の学習のガイドとなるよう、該当教科書のページを付記している。これらの努力が学生に伝わり、学生も興味を持ってくれたのだと思う。

一方、学生自身の振り返りでは復習(18)時間は、課題のボリュームに見合った数値であった。予習時間(17)がまったくない学生が2割いた。授業中は熱心に取り組めた(14)学生が多かったようである。毎回自宅学習課題を課し、課題に対するコメントを返し、授業の初めには小テストを行っていたため多くの学生が集中して取り組めたのだと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見ばかりであった。「レポートを通して何が重要なのかを理解することができた」「小テストで大切な部分があった」「他の講義の中でこの講義で習ったことが良くでてくるので臨床にとっても大事な講義だとわかった」など、教員の工夫が学生にはしっかり伝わっていたようである。

一方「錐体路など重要なところだったが難しく授業の中で完璧に理解することができなかった。高次脳を学習する上でも大切だと思うのでもう一度学習しなおしたい」という意見があった。これからの学習にとって大切だということが伝わり、かつ学生自身の学習意欲を表明してくれているので、心強い。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

膨大な量の内容を、限られた時間数の中で教授するのは限度があるため、どうしても駆け足になる。それを学生には伝えた上で、予習・復習課題を出し、翌週には小テストを行っている。課題と小テスト対策に臨む前に教科書の該当ページをしっかり読み込むようにと伝えているが、予習まで手が回らない学生が2割いたことになる。それらを含め、上記の「難しかった」と感想を述べた学生がこれから専門科目を学ぶ中で興味を失わないよう、レポートのやりとりを通して更に個別にそのような学生を早期発見し、個別対応を継続していきたいと考えている。

科目名

86. 精神障害作業評価学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

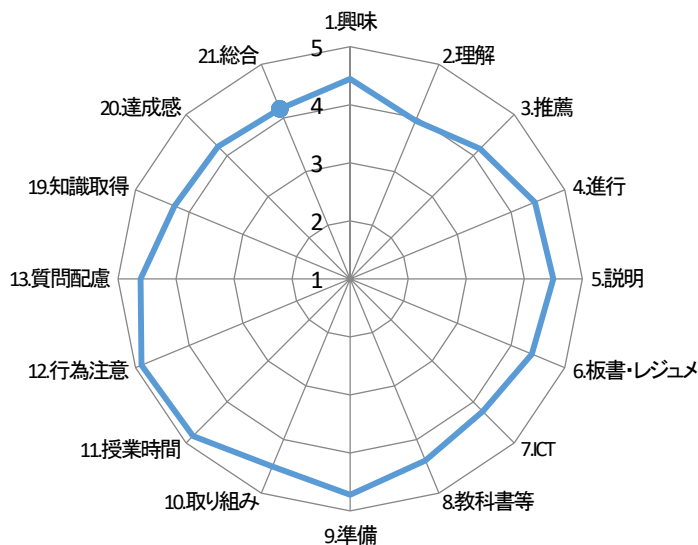
18名

◆集計データ結果について

概ね4～5点でありバランスが取れた授業であったと考えられる。毎回授業で質問表を記入してもらったが、質問が出来ない人がいたため、何が良く分かって、よく分からないかさえも分からない学生がいたのではないかと考えられる。それが質問したか、の設問に対して5名ほど「していない」と回答している。精神科領域という目にはなかなか見えにくい領域であるためでもあろうと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「集中して取り組めた」「よく理解できた」と記載がある反面、「理解するのは難しい」「質問が出来ない」などの記載が見られた。幅広い学生層に対処する必要がありそうである。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

映像を使用する機会を増やして理解が進むように工夫する。また日ごろから疑問を持つような取り組みを提案していきたいと考えている。

科目名

87. 発達障害作業評価学

担当教員

高田 政夫

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

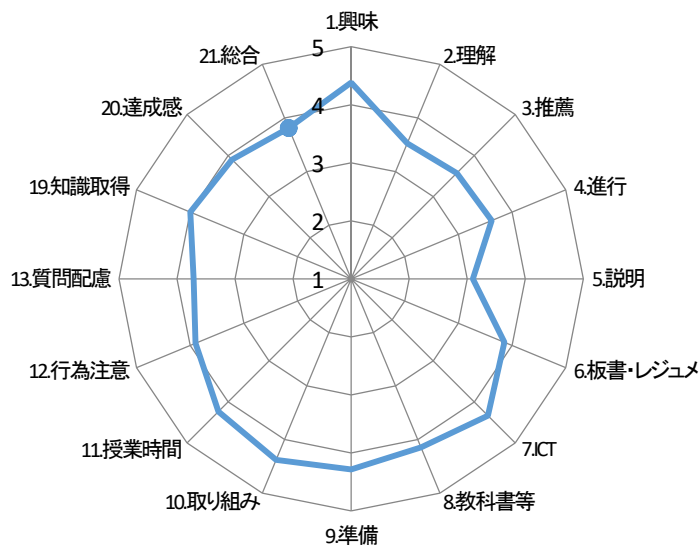
21名

◆集計データ結果について

授業に対する興味関心はあるが達成感がないのはなぜであろうか。板書、進行、説明の評価が低く学生は十分に理解するレベルに至っていない。これらの点を反省し学生の理解を深めたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

指示したことが十分に伝わっていない。声や説明内容について不明確な点は反省しなければならない。
乳幼児の運動発達、コミュニケーションなどの基盤となる愛着行動や二項関係などのVTRによる解説は効果的で理解しやすいものとなっている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 21 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

発達障害及びこれらの支援についての理解は作業療法の基礎となる。しかし、この分野の実習や就職の可能性は極端に低い。そこで中枢神経系の障害や精神疾患の理解にも発達障害の見方は役立つことを伝えたく、努力したつもりであるが、学生にとっては混乱を招いたようである。この点を十分に反省し、学生にとって明解で分かりやすい授業としたい。

科目名

88. 作業治療学理論

担当教員

山下 英美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

21名

◆集計データ結果について

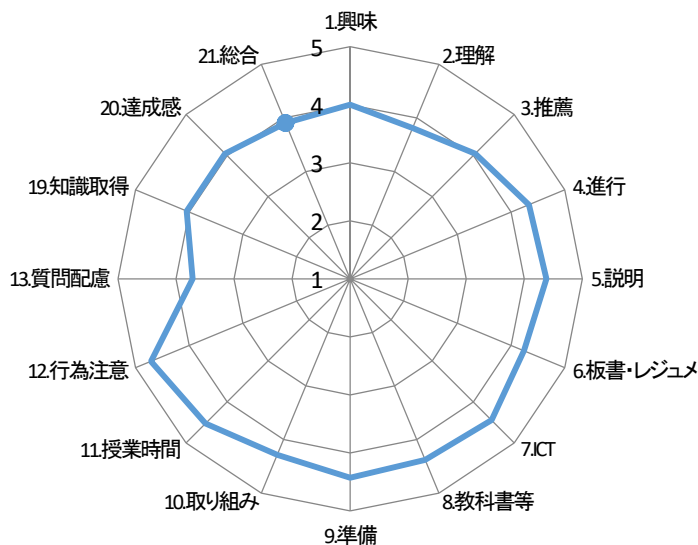
概ね4点台前半で、「理解」が3.8、「質問配慮」が3.7という結果となった。授業の内容が、作業療法における治療理論を学習するというものであり、対象とするものが具体的でなく抽象的であったため、理解を促すにはまだ工夫の余地があると思われる。

取り組みに関しては約半数が「どちらかといえば熱心に取り組んだ」と回答したものの、約半数の者が予習を全くしておらず、復習に至っては約6割の者が全くしていなかった。小テストなどの形成的評価を取り入れておらず、学生にとっては自宅学習の必要性が低い科目であったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「内容が難しく」といった記載が複数名に見られ、その先に「どこがポイントかわからなかった」との記載があった一方、「大事なところを抑揚をつけて読んでもらったので、どこが大事なのか分かりました」「説明してくれたことにより少し理解ができた」との記載もあり、学生個々により受け取り方は様々であったと思われる。

また、グループ発表を実施したが、「良かった」「自分でまとめると良く理解できた」との記載があった一方、「モデルの発表をもう少し工夫すべきだった」「最後の発表は授業を2回に分けても良かったと思います」といった記載もみられた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 21 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

やはり“治療理論”という抽象的な内容を、いかに理解してもらうかということに対して、引き続き検討をしていくことが必要であろうと考える。

自由記載にもあったとおり、自分自身でまとめることによって理解が進むと考えると、こちらからの講義だけではなく、アクティブな学習が重要であることは明らかである。

しかし、個々の治療理論の理解に至る前段階としての、理論の歴史の変遷については、どうしてもこちらから講義をする必要がある。そこで来年度は、授業全体のバランスを見直し、個々の理論について学生がアクティブに学習する時間・発表する時間を増やし、学生たちの理解をさらに促すよう工夫していきたい。

科目名

89. 作業療法治療学実習

担当教員

山下 英美

加藤 真夕美

草川 裕也

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

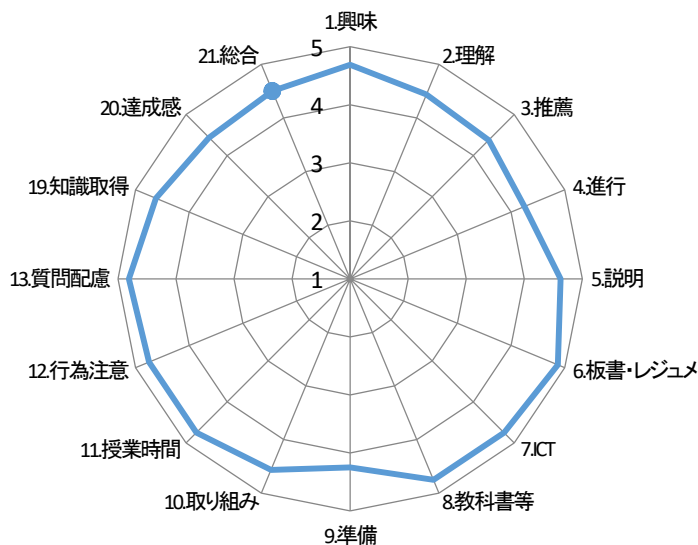
16名

◆集計データ結果について

概ね4点台後半という評価を得たが、「進行」「準備」の項目では4.25との結果であった。この理由は、今年度からOSCEを本格的に取り入れたため、準備がまだ不十分な点があったこと、学生の修得状況に応じてその都度内容を変更していたため、進行がスムーズではないと評価されたと思われる。受講態度に関しては、全員が「(どちらかというと)熱心に取り組んだ」「授業中で質問できた」と回答しており、実習を意識した授業内容であったため、意欲的に取り組めたことが伺われる。学習態度に関しては、予習は25%が1-2時間行っていたが、全くしなかったものが40%強見られた。復習は30%強が1-2時間行っていた一方、全くしなかった者が20%弱見られ、授業中の態度は意欲的であっても、授業外で再度練習するといった態度は様々であることが伺われた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「評価実習に向けて復習ができる」「実習に活かせるよい時間だった」「実践を想定した授業であった」「臨床の場を基準とし、そこに合わせて様々な評価を行う練習ができて、役に立った」というような、実習を意識した授業であったことを肯定的にとらえる記載が多くみられ、多くの学生が授業の目的を理解できたと思われる。さらに「実際に臨床実習で自分は検査の説明をするときにとても緊張してしまうことが予想されることがわかった。他にもBRSについてもう一度勉強し直さなければならないと思った」「自分に足りないところが分かった。評価実習までには必ず出来るようにしておこうと思った」というような記載もあり、自身の現状を把握し、準備に繋げるという目標を達成できた学生もいたと思われる。一方「1つの評価にかかる時間がもう少し欲しい」「レジュメの書き方も教えて欲しい」との記載もあり、今後検討すべき点も明らかとなった。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

今年度初めて本格的にOSCEを取り入れて授業を行ったが、概ね肯定的評価を得ることができ、授業の目的が理解され、次に繋がる自己評価を得ることの出来た学生もみられたことから、今後もこの概要で継続して行こうと考えている。しかし、準備・進行に関してはまだ改善の余地があり、今回の指摘を元に、検査項目を厳選する・事前課題を提示して自宅学習を促すなど、科目担当教員間で事前の打ち合わせを密にして、教育効果を上げるよう工夫していきたい。

科目名

90. 身体障害作業治療学 I

担当教員

草川 裕也

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

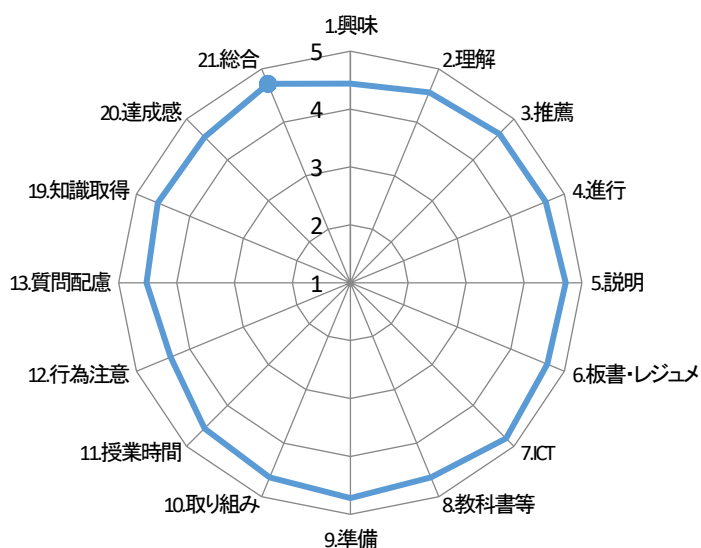
25名

◆集計データ結果について

「興味」、「行為注意」、「目標等への意識」を除き、平均4.5以上であり、総合的に良好な結果となった。自由記述に記載がないため、どのような点で興味を持てなかったのか明らかではないが、興味を持てるような工夫が必要であったと考える。また、「行為注意」についても自由記述には記載がないが、十分ではないという評価であるため、厳しく関わっていく必要があったと思われる。加えて、シラバスに記載されている目標等を意識できていない学生がいたことは残念である。昨年度と同様に、講義の初回時にシラバスの説明を行い、授業内で目標についての話をしたが、昨年度よりも意識して取り組んだ学生が少なかった。配布資料に目標を記載するなど、目につくようにする必要があると思われる。予習や復習については、毎回解剖学に関する小テストを実施していたことも影響し、全員が予習を行っていたが、復習にはあまり時間を取らず、行っていない学生がいた。予習範囲については、初回講義時に説明を行ったため、学生も取り組みやすかったと思われる。復習についても、初回講義時に定期試験に向けて復習が必要な内容について説明を行ったが、効果的ではなかったようである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な記述が多かった。昨年度と同様に、グループワークで行ったこと、提示された事例について考えていくこと、解剖学に関する小テストを実施したことが良かったという意見が多かった。グループでの意見交換や相談により、理解が深まったり、意見を出しやすくなったりしたとの記述があったが、そのような点からグループワークを導入したため、狙い通りであり、結果として良い試みであったと思われる。また、事例を用いて検討していくことで、疾患やアプローチをイメージしやすかったとの記述があり、事例を通して学習していくことが学生の理解の手助けになったようである。加えて、本年度も実施した小テストについても、「大変であったが覚える良い機会になった」や小テストを通して、筋や神経を覚えることの大切さを実感したとの記述があり、この時期に実施して良かったと感じた。ここで再学習した知識が、後期や臨床実習で活かせられればと思う。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

上記の通り、グループワーク、事例検討形式、解剖学に関する復習の小テストという3つの内容については、肯定的な意見が多く、継続すべきものと言える。しかし、さらに興味を持ってもらえるような授業の改善が必要である。また、目標への意識がなかなか促せなかったため、配布資料に記載するなど、目につく形で学生に伝える必要があると考える。復習については、初回講義時に定期試験に向けて復習が必要な内容について説明を行うのみでは、十分に促すことができなかったため、毎回の授業において、復習が必要な箇所についてははっきりと提示する必要があると考える。学習すべき範囲に比べ、講義時間は短いため、グループワークにより時間を割いたりすることが困難であるが、授業の目標や復習のポイントを明らかにし、臨床実習に繋がる授業となればと思う。

科目名

91. 身体障害作業治療学Ⅱ

担当教員

清水 一輝

水口 和代

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

20名

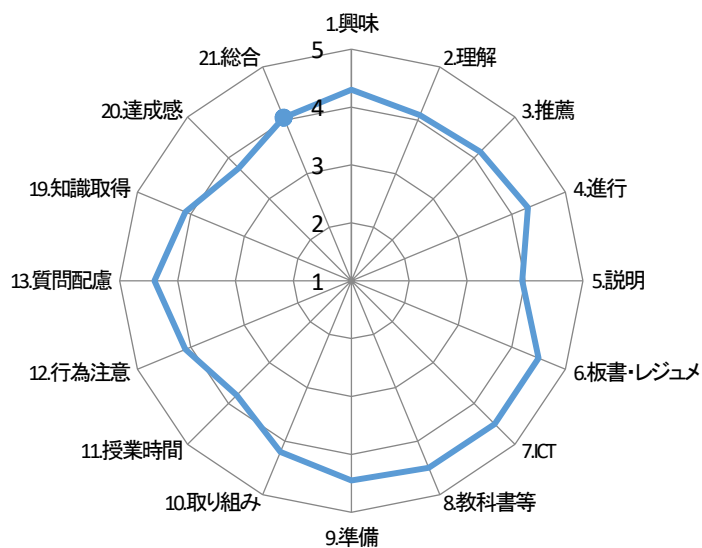
◆集計データ結果について

概ね4点程度であり、ある程度の評価は得られたと考えられるが、説明と達成感の項目で4点を下回る結果であった。教員からの知識の提供は少なくし、事例を用いて学習を深めていったため、学生自身で悩み、考える機会が多くあった事が影響している可能性がある。教員として知識の提供を増やして行くことも必要かもしれないが、どのような事が学生にとっての学びになったのか、どのような事が成果につながるのかを、より頻回に分かりやすい形で伝えて行く事が必要であると思われる。

今年度はポートフォリオを採用したが、学習時間が予習復習ともに1時間以上の学生が約半数以上であり、自ら学ぶ機会は提供できたと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この講義では事例の情報をもとにグループで学習し、学生から疑問をあげてもらうような形式で行った、その結果「考えるのは難しかったです、分からないことをその場で聞いて解決できたので良かったです。」「自分たちで考えたり、話し合ったりする時間がありよかったです。また、貴重な話が聞けたのもいい経験になった。」など、自ら考え学習する事ができている様子がうかがえる意見もあった。一方で「生徒が主体過ぎてどれが正しいアプローチ方法、目標なのか分からなかった。」と主体的な学習に至らなかった学がいた。「レポートでの予習課題を、どのように行ってきたか、まず最初は先生と一緒に確認をしたかった」という意見からも、グループでの学習を中心に進めて行ったが、より個別の学習状況を確認しながら支援して行く事が必要であった。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

作業療法士にとって、知識をどのように得るか、そして得た知識をどのように活かしていくかが重要になってくる。今後も事例の情報をもとに学生自身が学びを深めて行く形式を継続して行っていきたい。その中で、一人一人の学習状況をしっかりと把握できるよう形成評価を取り入れながら、その都度必要な支援を行なっていきたい。

今年度も当事者の方の講義を実施した。学生からの質問に答えていただく形にしたが、障害を経験された方の生活や作業療法士として必要なことに気づく事ができるとも貴重な機会になっていた。来年度以降も継続して実施していきたいと考えるが、より作業療法の治療者としての経験になるよう、当事者の方との関わり方を検討していきたい。

科目名

92. 身体障害作業治療学実習

担当教員

清水 一輝

草川 裕也

加藤 真夕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

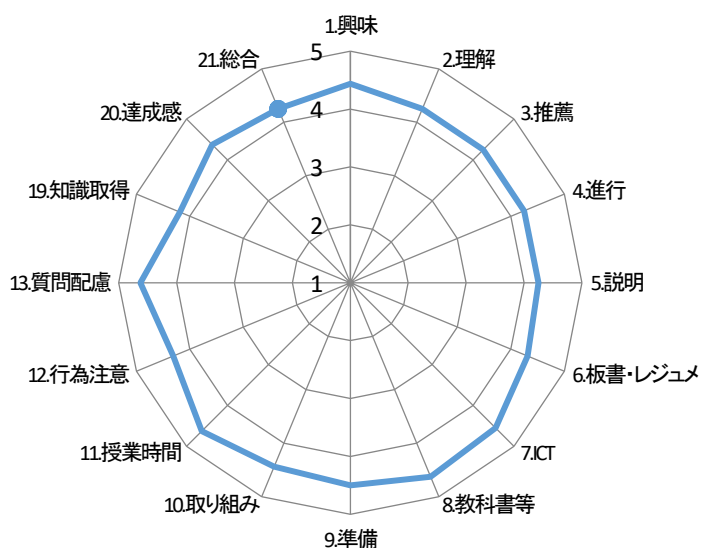
16名

◆集計データ結果について

各項目で4.2～4.5であり概ね良い評価であると考えられる。その中で知識取得に関してが最も低い評定となっていた。学生の自由記載にもある、授業の進行等が課題である。予習、復習ができていない学生や質問できていない学生が数名いたため、実習時間中にできるだけ多くの学生の状況を把握し、適切な理解につながっているかを確認していくことが必要であると考ええる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「質問しやすかった」「その都度フィードバックがもらえてよかった」という肯定的な意見がある一方で、「授業の進行が早かった」「実技について学ぶ時間がもう少し欲しかった」と授業時間に関する否定的な意見も多くあった。授業で扱うべき項目とそれを実施する授業時間の兼ね合いで、授業の進行速度が速くなっていることが影響していると考えられる。実技試験の前に、各学生の自主学習や補習などで実技練習の時間を補っている部分が多いため、授業の構成を検討していく必要がある。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

授業の時間内で実技に取り組む時間を確保できるよう、実技科目を整理し授業全体の構成を再度検討していきたい。それに加え、口頭での説明をなるべく少なくするため、予習資料の整理や事前学習でビデオ等使用するなど、事前に理解が深まるような工夫をし、事前に実技の準備をできるようにしていきたい。今年度は通年の開講科目となり、知識を問う中間試験も実施した。その狙いは、前期から自己学習を促すことが目的であったが、中間試験、実技試験どちらにおいても試験の直前で学習する学生が多くいた印象を受ける。本講義で扱う技術は評価実習で必ず求められる技術になるため、継続した学習により知識・技術の定着を図ることが重要だと考えている。そのため、今後も学生が継続して知識・技術の習得に取り組めるように構成を考えていきたい。

科目名

93. 精神障害作業治療学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

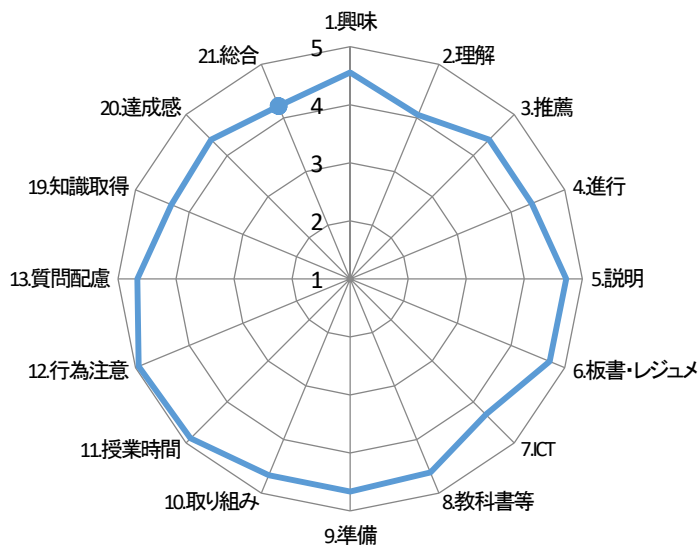
18名

◆集計データ結果について

概ね4～5点でありバランスが取れた授業であったと考えられる。疾患ごとに具体的な課題を示し、国家試験・臨床実習に対応できるような形態で行ったため、熱心に取り組んでいたようであった。ただ、予習や復習を全くしないと回答している学生が数名折おり、大変残念ではある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生たちに課題やグループ決めを任せましたが、教員が決めたほうが良いなどの記載が見られる。分からないでもないが、大学生として責任を持って学習するためにそのような手段をとっていることを理解して欲しい。他の授業のグループワークもあり、大変であった事の記載も見られるが、そもそもグループワークで学習していくことを知らせてあり、またグループのメンバーきめなどを学生たちに任せている以上、責任を持って行うべきであろうと思う。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

学習して分かった、とかやってみて良かった、といった学習に対するモチベーションを上げられるように、学習成果の発表に対してのポイントのつけ方を工夫する。例えば、課題の難易度を細かく分類する、早く成果をまとめ上げるとポイントを高くする、国家試験問題を積極的に取り入れるなどを取り入れていく考えである。

科目名

94. 精神障害作業治療学実習

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

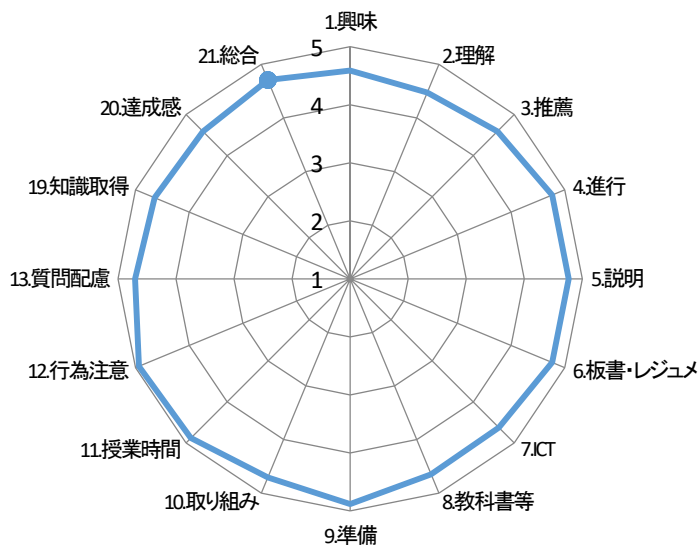
17名

◆集計データ結果について

集計データのポイントが4～5であり、学生の授業としてまずまずであったのであろうと考えられる。質問項目の17および18の、予習・復習時間に関しては平均が2～3時間であった。週2コマ(4時間)の授業であり、最低でも1時間は予習・復習に割くことが必要な授業形態であるため授業以外で概ね学習時間を確保していたと考えられる。ただ欲を言えば、授業ごとに各自に最低でも20分間ずつスーパーバイズをする時を設けていたので、もう少し多くても良いかもしれない。全く予習しなかったという学生が1名見られるが、スーパーバイズの中で次回の実習計画を立案してきたので、誤解が見られる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生がセラピストになる自身について理解が進んでいるような記載が多い。臨床においては、ただただ患者さんの話した内容を聞き取るのみではなく、他のデータや観察事項などから解釈することが必要なため、自身がどのような人物であり他の誰でもない自身であることを理解していく事は非常に重要である。他者との関係性の中で相手と自身を理解し受け取っていく作業の礎となるようなものが構築されてきていると考えている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 21 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

一人の教員が、多人数の学生にフィードバックをしていく形態のため、授業時間帯でのフィードバックを更に増やしていくなどの対策が必要である。青年期課題に取り組む授業として、また臨床に役立つ授業として、更に検討しながら進めていく授業としていきたい。

科目名

95. 発達障害作業治療学

担当教員

高田 政夫

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

18名

◆集計データ結果について

授業内容とシラバスの理解しやすさ、後輩にも推薦したいか、教員の講義準備、質問を述べられる環境であったかについて評点が低く反省しなければいけない。熱心に学生教員共に取り組んでいる状況であるがお互いに空回りしていた部分があるようである。総合評価でかろうじて四点台となっている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

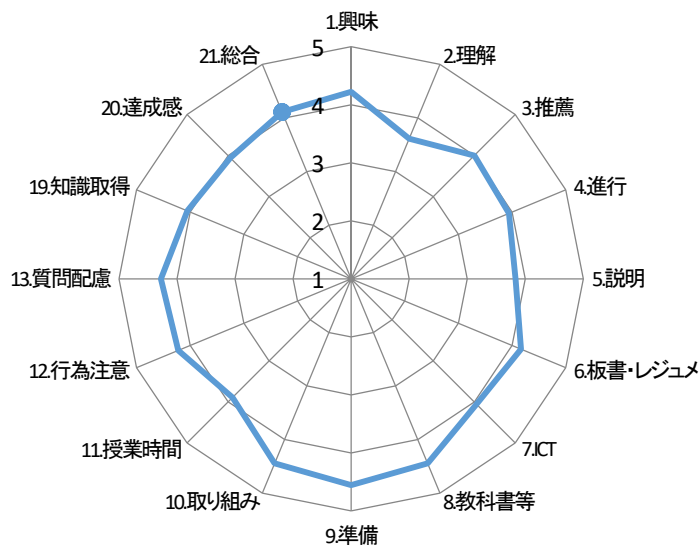
学生からいただいた18の意見の内、担当教員の説明不十分であった項目と考えられるものが半数を占めた。この中には一言『難しい』との意見も含まれている。

学生に質問時間を授業の最後に設けたが、質問が全く出ず反応がなかったため、授業の最初に設けてみたがこれにも反応がなかった。一方、授業終了後に個別に質問に来る学生が多かった。出来るだけ丁寧に質問に対しては対応したつもりであったが、個人的な見解に対して『はっきりしたことは判らない』との意見があった。

臨床作業療法面では、クライアントの個性が高いことを伝えたつもりであるが、真意が伝わらず残念です。

初めての授業とのこともあり、より詳しい授業ノートを初回及び各单元ごとに学生に渡しなが授業を実施した。試験については初回に実施する旨を伝えたが不十分であったようである。

書面で記載したことを更に口頭でしっかり伝えねばならないと反省している。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 21 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

今回の授業は、グループワーク時間を授業内で消化できるように組んでみた。結果として授業にしっかりついて学んだ学生からの前向きな意見をいただいたと考えます。

更に多くの学生から学びの確かな反応と収穫を得るようにしっかりコミュニケーションを交わし授業に臨みたい。レジュメを配布するのみでなく、重ねて口頭で丁寧な解説を加え、ポイントを明確に伝えて学生の反応を見たいと考えている。

科目名

96. 発達障害作業治療学実習

担当教員

高田 政夫

清水 一輝

田原 靖子

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

17名

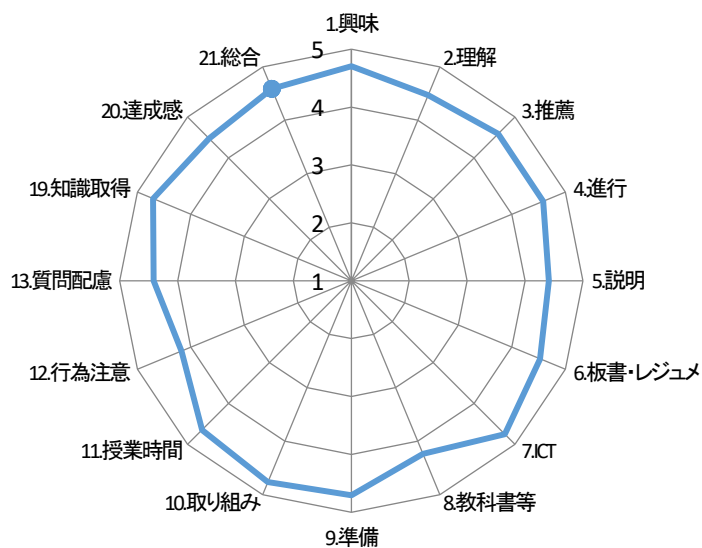
◆集計データ結果について

ほとんどの項目が4.5以上であり良い評価であった、行為注意、教科書使用に関しては4.2程度と他の項目と比べやや低い結果であった。本講義ではグループでの活動を中心に実施するが、その中で各個人の取り組みに差があったことが影響している可能性がある。上記のようにグループワーク中心であったため、教科書を使用する機会はほとんどなかった。

予習を全くしていない学生が約半数おり、3割以上の学生が質問できていなかった。活動の実施に向けた準備の中で、活動の計画だけにとどまらず、未就学児の発達や発達障害児の特徴、発達障害の作業療法など関連する知識の理解を学べるようにする必要がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

園児との関わりを通して学びが深まったなど肯定的な意見が多く、「実際に園児と関わることで、発達過程と照らし合わせ、考えることができた。」と、活動での交流を通して発達障害についての理解を深めることができている学生もいた。しかし、「作業療法士はどのように拘るのかわからなかった」と作業療法士としての学びを深めることが十分にできていなかった学生も多くいた可能性がある。活動を計画する際に、作業療法士として何が重要なかを明確に提示し、活動中に観察する視点や振り返りの視点など、学生に分かりやすい形で示すことが必要であると考えられる。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

本講義では学生自身が活動を提供する役割を担うことで、学生自身の主体的な取り組みを促すことが目的の一つである。その点に関しては、ある程度の成果が得られたと思われる。しかしながら、発達障害の作業療法に対する学びに十分につながっていない可能性もある。次年度は、上記のように事前・事後の課題で考えるべき視点を明確に示し、活動中の観察の視点なども、より具体的に提示していきたい。

科目名

97. 老年期作業療法学

担当教員

山下 英美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

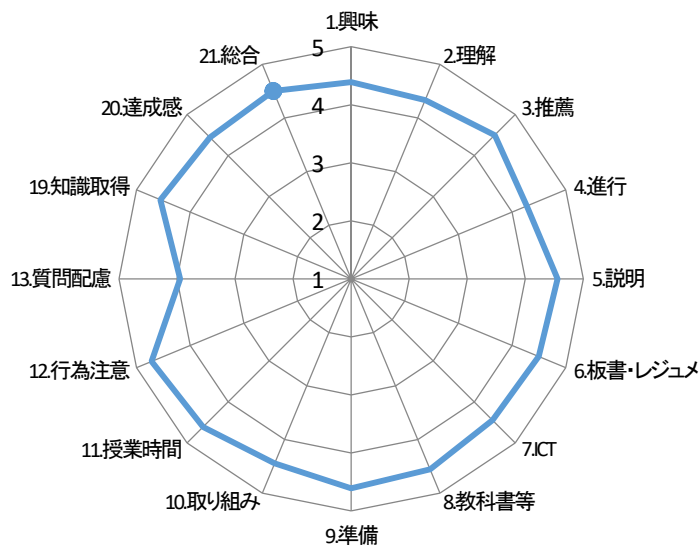
18名

◆集計データ結果について

「質問配慮」が3.9であったが、それ以外は概ね4.5前後でバランスのよい評価となった。受講態度については1名を除き「(どちらかといえば)熱心に取り組んだ」との回答であった。しかし、予習を全くしなかった者が6割、復習を全くしなかった者が5割であり、小テスト等の形成的評価を行わなかったためであろうと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

まず「認知症についての理解が深まった」との記載が複数あり、講義の中で力を入れた部分が伝わったと思われる。また「実習の場で実践できそうなこともたくさん知ることができた」「実習に行ったときに気をつけるべきことも知ることができた」「臨床に活かしたいと思う」といった記載もあり、臨床・実習に即した実践的な内容も伝わったと思われる。さらに「プリントが分かりやすかった」「他の教科書から分かりやすいところを資料として提供してもらえて助かった」といった記載があり、配布資料が理解を助けることができたと思われる。しかし「言葉を書き写す時間が短い」「写しきれない」といった記載もあり、進行にさらなる注意が必要である。検査実習に関しては「実際に検査を実施してみても大変さなどを学ぶことができた」との記載があり、アクティブな学習が効果的であったと思われる。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

「認知症の理解」「実践的な内容」といったねらいとしているところは学生に伝わっていると感じている。しかし、まだ進行が早いとの意見もあるため、全ての学生にとって分かりやすい授業を目指し、今後も工夫・改善をしていきたい。

◆集計データ結果について

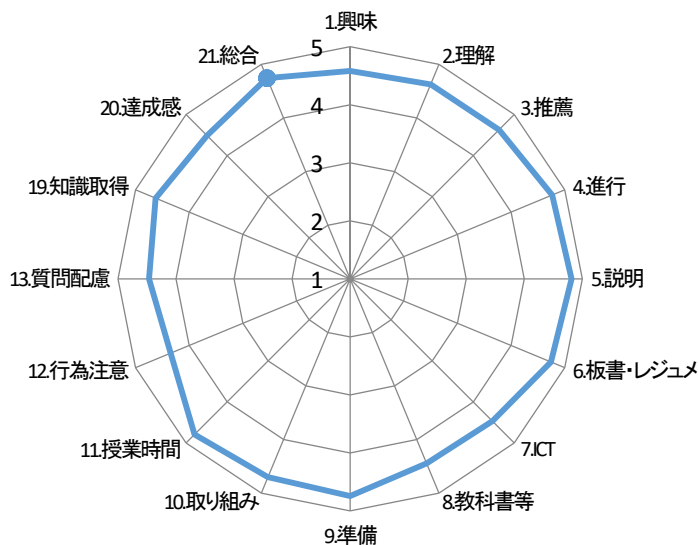
すべての項目で平均4.3-4.8であり、バランスの取れた評価であった。毎回簡潔に授業内容をまとめたレジュメを配布し、授業中はマイクを使用した。また随時、作業療法関連の雑誌から日常生活活動(ADL)に関する研究論文を探し出し、レビューするという個人ワークも取り入れた。

1年次の授業ではあるが、この科目で習得する知識は、今後作業療法を学ぶ上での基盤となるため、基本的な事項はすべての学生にもれなく押さえてもらいたいということが、担当教員としての願いであった。そのため、極力言葉を噛み砕き、学生らの身近な経験に引き寄せて考えてもらい、ポイントは何度も授業内で振り返った。それらの工夫が、バランスの取れた評価に繋がったと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

内容については文献検索、片麻痺疑似体験、自助具に触れたこと、臨床現場での体験談などが役立ったとの意見が多く、「これから自分たちがどんな世界に足を踏み入れるのかが知れてよかった」という意見が挙がった。また、授業の進め方については、「説明が分かりやすかった」「レポートにコメントを書いたのが良かった」「声が聞き取りやすかった」などの意見が挙げられた。文献検索はスマホ世代の学生らに、図書室でのハンドサーチやラーニングコモンズの利用に対する抵抗感を1年次から減らし、上の学年での学習へ繋げることを目的としており、学生にも常にそのように説明してきた。そのきっかけ作りとして役立ったのではないかと考えている。

一方、本科目で用いる教科書は2年次の関連科目でも使用予定であり、「2年次に習いますという点が多く、教科書をどこまで読んでよいかわからなかった」との意見が1件あり、伝え方の工夫の必要性を感じた。また、明らかに他の授業内容のコメントと思われるものが2つあり、授業評価の実施方法に対する課題が残った。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

自由記載では、「作業療法士の仕事がイメージ少してきた」というような記述が少なくなく、ADL領域に対する作業療法士の役割の概要を知り、2年次の学習に繋げてもらいたいとの教員側の目標は達成できたと自己評価している。レジュメやマイクの使用、授業構成についても特筆すべき指摘がなかったため今年度の授業方法を踏襲しつつ、授業をよりよいものに構築していきたい。

本試験結果では、授業中に強調したことがらはしっかりと押さえてあり、必要最低限の知識は身につけた学生が多かった一方、問題文の趣旨がうまく読み取れない学生も少なくなく、学生層の幅の広さを感じた。昨年度同様、今後これらの知識が臨床実習や2年次の専門科目の授業で使っていける知識として成熟していくかを、つぶさに見守っていかなければならない。学生一人一人の2年次の学習の様子を踏まえ、当授業の構成を改めて考えていきたい。

科目名 99. 日常生活作業学Ⅱ

担当教員 清水 一輝

専攻・配当年次 OT 2年

回答者数 25名

◆集計データ結果について

概ね4点程度の評価結果であった。理解、説明、知識取得、達成感で4点を下回っていた。今年度から担当した科目であるが、日常生活動作を支援するために必要な、作業療法の理論や実践枠組みに関する内容を取り入れた。そして、文章を読み学習する力をつけてもらいたいと考え、教科書の内容をもとに講義を進めていった。しかし、そのような進め方では、やや難解な理論や実践枠組みについて学生の理解へと繋がりにくかった可能性がある。それに加え、科目全体として伝える知識の量が多くなってしまったと考えられる。

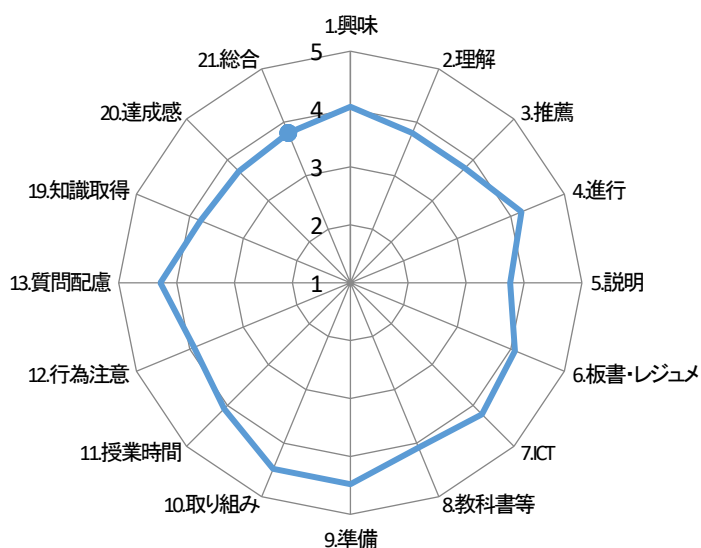
授業時間外での学習につながるよう、事前課題の配布や振り返りをするための資料を配布していたが、予習に関しては約半数が1時間以上、復習は7割が1時間以上の学習となっているため、その点において一定の成果は得られたと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見として、「生徒同士が話し合いながら理解を深めたり質問をする場所が設けられていたことで自分で考える力が身についたと思います。」「毎回の予習と復習でより講義の内容を理解することができた。」という意見があり、講義に臨む際の学生の意欲や学習内容の理解によって、良い学びを提供できた可能性がある。しかしその一方で、「理解できないことがたまにあった」「理論に基づいた話が多く、それを日常生活にむすびつけることが難しかった。」と、理解が不十分な学生に対しては、配慮が不足していた事がうかがえる。学生一人ひとりの学びの状況を確認しながら、講義の目標を明確にしていく事で、学生の理解を促していけるような形にしていきたい。

◆今後の改善に向けて

本講義において、日常生活の支援をする作業療法の姿を伝えられるよう、動画を利用して作業療法実践の様子や作業療法実践枠組みから、患者様の日常生活動作の観察や分析まで幅広い範囲を対象として授業を構成していた。しかし、そのような構成では理論などやや難解な知識になりやすく知識量も多くなることから、十分な学習に至らない学生がいたと考えられる。次年度以降は、ほかの関連科目と学習内容の調整を行いながら、この科目の中でどのような知識の習得を目指すのか、目標の範囲を広げすぎずに講義を構成していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 21 総合 (軸単位: 5段階評価点)

科目名

100. 日常生活作業学実習

担当教員

加藤 真夕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

19名

◆集計データ結果について

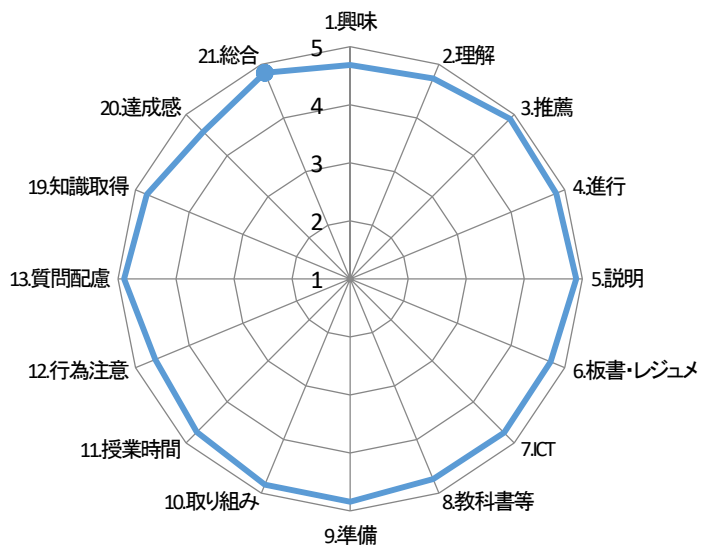
すべての項目で平均が4.5以上であり、バランスの良い評価であった。本講義は初めて受け持ったため手探りであったが、学生には①トランスファーや車椅子操作などの基本的な技術を、その場で修正しながら徹底的に身に付けてもらう、②各疾患の特性によるADL上の特徴を、自身で調べたり体験したりしながら身をもって理解してもらうという、臨床実習に向かうための技術獲得の場という位置づけを重視した。

随時、技能評価試験を行い、その都度フィードバックしたためか、14「熱心さ」、15「質問」はすべての学生が「取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」を選択した。一方18,19の予習・復習では十分に時間を割くことができていない学生が多かった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「随時フィードバックをしてくれるので実技の練習がしやすかった」「体験から得る学びが多く良かった」「腰への負担のかからない方法も教えてもらったので実習も自分の健康管理に気を付けながら臨みたい」などの肯定的意見が多数であった。上述した①②の重点を学生も感じ取り懸命に取り組んでくれた様子である。

一方「もっと授業時間数を増やしてほしい」との意見があった。時間を増やすことはカリキュラム編成上難しいが、消化不良の裏返しと考えると、予習・復習時間として、何をどのように、いかに効果的に行ってもらおうかが今後の課題となる。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

上記の反省から、予習・復習時間を増やす必要がある。授業内で提示するレポート課題の内容を再考し、より根拠に基づいたレポートを作成してもらうよう促す。

また、今後は養成校指定規則の改正に関係して、臨床実習を取り巻く状況が大きく変化する。そのような中で、技術の獲得はもちろん、臨床実習を取り入れていく必要性を感じている。他の関連科目と協同し、授業内容の再構築に努めたい。

◆集計データ結果について

すべての項目で平均4.4点以上であり、バランスのとれた評価であった。本科目の授業準備や進行で工夫していることは、①わかりやすく、後に活用できるレジュメを作ること ②演習を取り入れること ③関連論文を学生一人一人に探してもらうこと の3点である。①については、臨床実習や国家試験を念頭に置き、ポイントをわかりやすく示すことを意識した。また②についても同様に、臨床実習や国家試験で体験を生かせるよう、できる限り多くの演習を限られた時間の中で盛り込んだ。

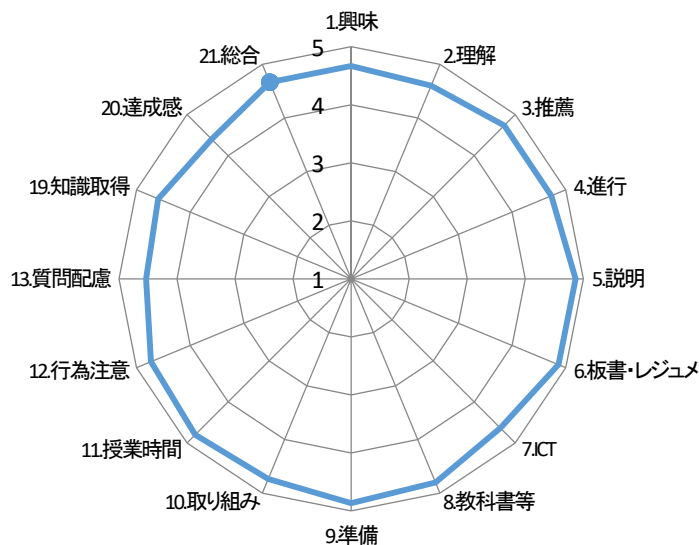
学生の取り組みについてはほとんどの学生が質問14,16に「取り組んだ」あるいは「どちらかといえば取り組んだ」と回答していた。復習は約7割の学生が「少しは勉強した」と回答した反面、予習は約5割が皆無と回答していた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

昨年度「脳の中は難しいだけに、理解するのが時間がかかる」という意見があり、今年度はいかにによりわかりやすく伝えるかにも注意を払いながら授業を行った。

今年度は「内容は難しかったが噛み砕いて説明してくれたので理解が深まったと思う。もっと勉強を深めたくなった」との意見があり、一定の成果があったと思われる。その他にも「レジュメが見やすかった」「実際に検査をすることでより理解も深まった」「文献を探す力・読む力がついたと思う」などの肯定的な意見が多数挙げられた。

一方「文献がどのように大切なのかということがあまり理解できなかった」との意見があり、学生の理解の個人差に対する対応が更に必要であると感じた。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

毎年、高次脳機能の領域に対し、「難しいからイヤだ」ではなく「難しいからこそおもしろい」と思ってもらえるような、高次脳機能の入門編としての位置づけの授業が展開できたらと思ひ、授業を進めている。年を重ねるごとに、学生がどこに興味を抱くのか、どこに躓きやすいのかの経験値としてのデータが蓄積され、マイナーチェンジを繰り返している。

今年度、学生の自由記載の中で提示された課題は、文献検索の意義である。多くの学生がその意義を理解しながら文献検索を行ってくれているようではあるが、今後は更に課題の意義を丁寧に説明することにも留意したい。

科目名

102. 義肢装具作業療法学

担当教員

草川 裕也

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

20名

◆集計データ結果について

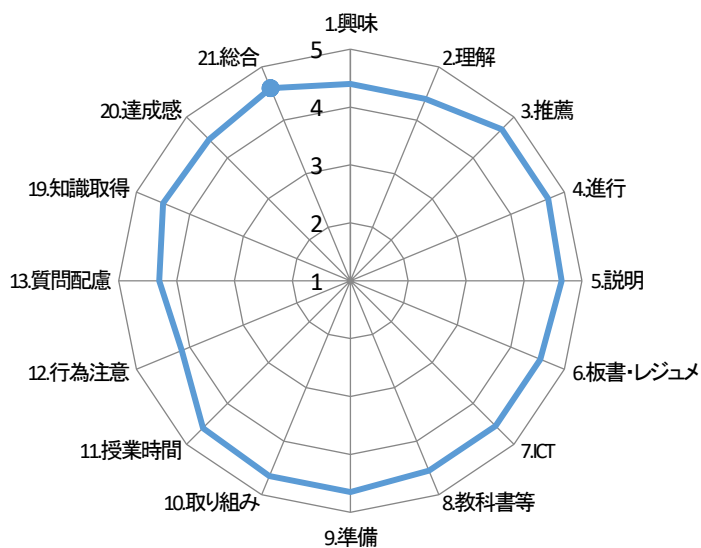
「興味」、「理解」、「行為注意」、「質問配慮」、「達成感」を除き平均4.5以上、それら5つの項目も平均4.0以上であり、総合的に良好な結果となった。自由記述には、「わかりやすかった」との記載があるが、難しかったとの感想も聞いており、興味を持ってもらいながら、理解に繋がる授業を展開していくためには、さらなる工夫が必要と思われる。また、「行為注意」については自由記述に記載がないが、十分ではないという評価であるため、厳しく関わっていく必要があったと思われる。授業中の質問については、受け付ける時間は十分に確保しているつもりであったが、環境作りは不十分であったのかもしれない。「達成感」については、「目標等への意識」の結果にも関連していると思われる。目標等を意識して取り組んでいない学生にとっては、達成感はあまりないかと思われる。そのため、目標が目につくようにする必要がありと思われる。加えて、予習や復習を行っていない学生が1/3-1/4程度いた。毎回解剖学に関する小テストを実施していたが、その準備を行っていなかったようである。必要性について、さらに話をする必要があったのかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

昨年度同様、義肢や装具の実物や写真などの補助資料を用いたことが良かったという意見が多かった。実物を実際に見たり、触ったりすることは、構造や特徴の理解のために重要であると考えられる。また、実物を触ったことで、興味を持ったという学生がおり、実物などを用いることが有効であると考えられる。さらに、国家試験において、義肢・装具については、図や写真を用いた設問が多くあるため、視覚的にも印象に残るような講義を実施していければと考える。一方、本年度も昨年度同様にグループワークを実施したが、グループワークに関する記述は本年度においてはなかった。否定的な意見はなかったが、昨年度ほどグループワークが機能していなかった可能性があるため、グループワークの内容や進行について再度検討する必要がある。

◆今後の改善に向けて

上記の通り、義肢や装具の実物を用いることについては、肯定的な意見が多く、継続すべきものと言える。しかし、興味を持ち、理解に繋がるような授業の改善が必要である。グループワークについても、グループで検討する課題の内容や量を再検討し、効果的に用いられるようにしたい。また、質問配慮についても、グループワークを通して確認したり、グループごとに質問を確認するなど、質問を行いやすい場面作りが必要である。加えて、目標への意識がなかなか促せなかったため、配布資料に記載するなど、目につく形で学生に伝える必要があると考える。予習、復習については、ポイントのみではなく、その必要性と併せて、授業内で伝えていく必要があると考える。これらを通して、達成感を得られるような授業を展開できればと考える。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評価点)

科目名

103. 義肢装具作業療法学実習

担当教員

草川 裕也

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

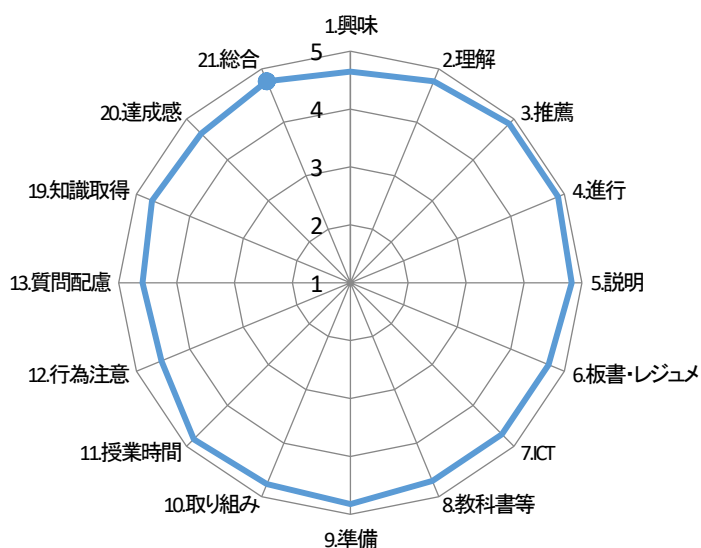
17名

◆集計データ結果について

ほとんどの項目において4.5以上となり、総合的に良好な結果となった。多くの学生が興味を持って取り組み、多くの学生に理解しやすいと感じてもらえたことは非常に良かった。装具を製作するという活動も盛り込まれており、楽しみながら取り組むことができたと思われる。一方、半数以上が予習を行っておらず、1/3以上の学生が復習を全く行わなかったことが残念である。予習内容については、シラバスに教科書の範囲と合わせて記載してあるが、もっと授業の中で積極的に伝えていく必要があると考える。また、授業到達目標を1/4以上の学生が知らなかったもしくは達成できなかったと感じているため、授業到達目標を意識して取り組めるようにする必要がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

例年、装具を作るという体験がよかった、楽しかったという意見が多いが、今年度も同様であった。装具を実際に作ることが、名称を覚えたり、利点・欠点などを理解したり、座学で学んだ知識を振り返ることのきっかけとなるため、装具製作は今後も継続する必要があると考える。装具製作以外の点については、ほとんど記載がなかったが、装具についての知識を得たあとに、実際に装具を作るという流れや、整形疾患の症例に基づいた学習と組み合わせを進めていく講義の構成について良い反応があった。昨年度は、城南キャンパスで実習を行わなければならないという、環境面の改善についての意見があったが、今年度は環境面についての記載は特になかった。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

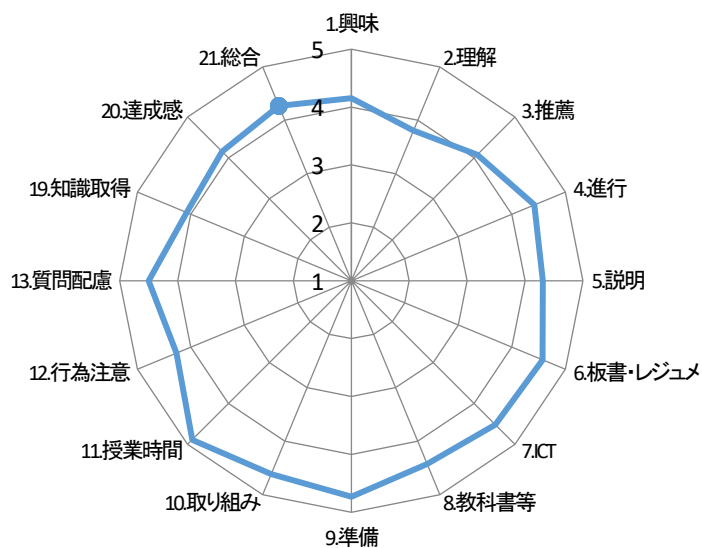
例年同様、装具製作に対する反応は良く、授業自体も興味を持って、楽しく参加してもらえたと感じた。また、装具製作をきっかけに、「他の装具の製作も行いたい」や「前期の義肢装具の勉強と関連づけて覚えていきたい」といったさらなる学習意欲に結びついていく点が良いと思う。そのため、できるだけ多くの装具を製作できれば良いと考えているが、特別な材料が必要となるため、工夫が必要である。装具製作以外の授業内容については、ほとんど意見がなかったが、国家試験において、義肢装具の問題に苦労している学生が多いため、国家試験での出題内容や授業到達目標の達成を意識した学習を促し、知識の定着を図り、理解を深められるよう展開できればと考える。

◆集計データ結果について

概ね4点以上の評価であったが、理解の項目で4点を下回っていた。学生の自由記載にもあったが、作業科学で扱う様々な概念は初学者にとっては難易度の高い内容であったことが今回の結果に影響していると思われる。興味や知識取得、達成感の項目でやや結果が低値を示していたのも、同様の理由であると考えられる。今年度が初めての担当であったが、講義で伝える知識を限定し、実習での経験を振り返ることを中心に行った。それにより、ある程度学生の理解を得ることはできていたが、まだまだ知識の伝達の仕方が不適切であったと思われる。難易度の高い科目であるため、短い時間で学生の理解を促せるような授業の構成を考えていく必要がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

今回の講義では、実習の振り返りをして知識をどのように活用できるかを考えてもらい、実践につながる知識が得られることを主な目的として実施した。「作業科学は難しいけど、知っていることでより患者さんの作業をより良くできることができるのではないかと思います」「作業科学の視点で見るという新しい考え方を取り入れられてよかった。さまざまな考えをもって介入できるとよいと考えた。」など実践につなげて理解している様子がうかがえた。一方で、「作業科学は話を聞いていても最後まで理解することは難しかったです。」と作業科学の知識を理解することの困難さがうかがえた。さらに、ポスター発表をする機会を通じて理解を促せるような課題を設定したが、「課題に時間がかかった」など、国家試験対策をしている中での課題に対して否定的な意見が多くあった。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

今年度は講義の前半で知識の伝達、後半ではそれを実践に生かした知識として理解できよう、各学生がポスター形式で実習で経験したことを発表してもらった。そのような形式に対して学生からも肯定的な意見が多く、発表している様子からも作業科学に対する理解が深まった様子がうかがえる。そのため、同様の形式で今後も継続していけると良いのではないかと考えている。しかしながら、学生からの意見では国家試験対策で模試や補習など他の様々な課題がある中での講義になったことで負担感を感じている学生が多かった。科目担当としても、授業時間内での課題への取り組みができるような構成にしたが、授業時間外で課題に取り組む学生が多かったため、授業の構成を来年度に向けて改善していく必要がある。

科目名

105. 人間作業モデル論

担当教員

山下 英美

専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

26名

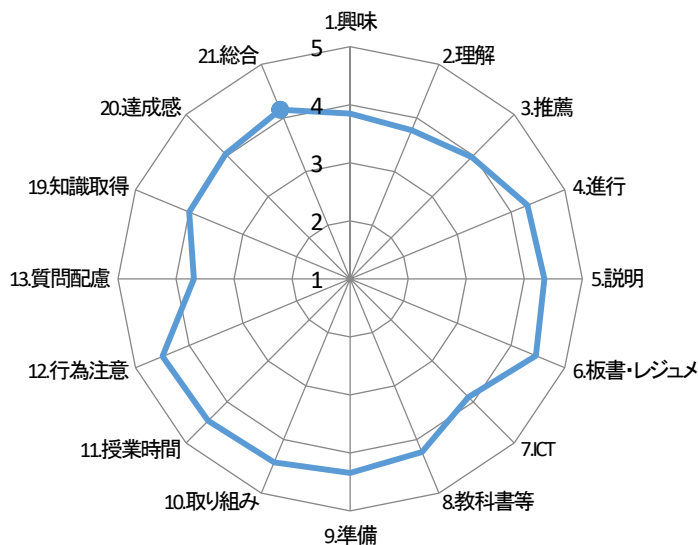
◆集計データ結果について

概ね4点前半であり、「興味」は3.8、「理解」は3.7という結果であった。授業内容が理論の理解であったため、興味が持ちづらく理解を促すことが不十分であったと思われる。受講態度に関しても「あまり熱心に取り組まなかった」を選択した者が1名あり、予習に関しては全くしなかった者が7割強みられ、復習に関しては1-2時間と回答した者が2割強みられたものの、全くしなかったと回答した者が3割強みられた。このような取り組み態度の不十分さは、開講時期が3年次の臨床実習後であったため、国家試験学習との兼ね合いで生じたのではないかと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

上記のとおり、開講時期を配慮して、国家試験対策を意識して授業を行った結果「国家試験対策につながった」「国家試験勉強と照らし合わせて学ぶことができた」「国家試験に出るところをピックアップして教えてもらったのでよかった」等の記載が見られ、一定の肯定的評価を得ることができたと思われる。しかし、そこに注力したあまり「国試に向けての内容で何も楽しく行えませんでした」との記載もあり、「作業に焦点を当てて作業療法を行う大切さを学ぶことが出来ました」「作業について理解が深まった」等の記載から伺える純粋に理論を学びたいと考えた学生には一部不評であったと思われる。

また、「臨床実習前に授業をするとよかった」「実習で耳にしたり、この理論を使って考察する機会があり、実習に行く前に知っていたかった」といった記載も複数見られ、2年次の「作業療法治療理論」の中で扱った程度では不十分であると感じる学生も複数みられることが分かった。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 21 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

開講時期に関しては、2年次の講義が過密であるため、3年次に配当することは現時点ではやむを得ないと考えられる。そういった状況の中で、科目間の連携として先に述べた「作業療法治療理論」の中で、本理論“人間作業モデル”の扱いを多くすることが考えられる。その上で、国家試験と連動した内容も残しつつ、理論を教授するというもおろそかにせず行っていきたい。

科目名

106. リハビリテーション関連機器

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

25名

◆集計データ結果について

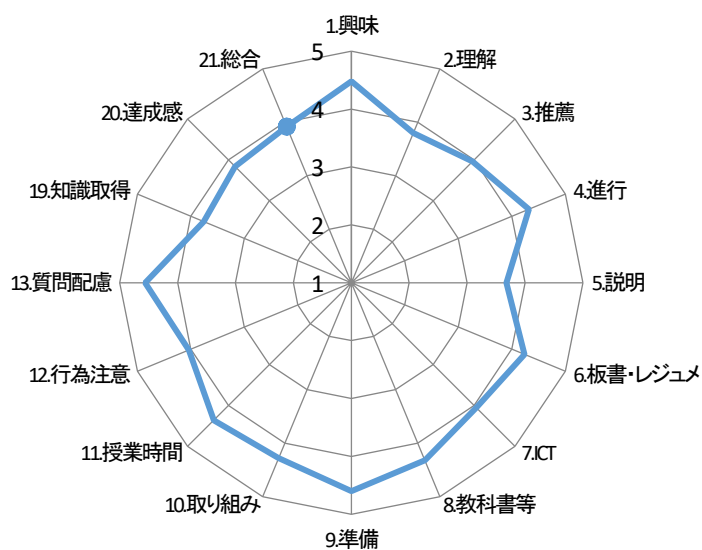
平均して4点程度であったが、説明、知識取得、達成感では4点を下回っている。説明に関しては、事前に学生が予習してきた内容に関して教員がその場で答えるような形であったため、抽象的な説明になってしまった部分もあると思われる。それに加え、事前の課題への取り組み状況により説明の理解の程度にも差があったと思われる。上記のような理由から、知識取得、達成感でも4点以下となっているのではないかと。学習の時間に関しては、半数以上が予習復習それぞれ1時間以上取り組んでおり、学生主体で学べるような環境を整えたことの成果として現れていると考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

事例をもとにリハ関連機器について学生が自ら学ぶことができるような構成を考えた。「グループワークの後に、先生が大切なところをまとめて話してくださったので、分かりやすかったです。」という肯定的な意見がある一方で、「自分たちで考えることはできたが実際の答えがあいまいなまま終わってしまった」など学生の主体的な学びにつながるような場として十分に機能していたかは疑問が残る。「リハビリテーション関連機器の教科なのでウェルフェアだけでなく講義で福祉用具を実際に見て使い方を学びたかった。」と、自助具等できるだけ実物を見ながら学習する機会を作っていたが、移乗・排泄・入浴などの機器を実際に触りながら学べる環境を整えることが不十分であったことが要因であると考えられる。

◆今後の改善に向けて

昨年に引き続き今年度も学生の主体的な取り組みを促せるよう、事例をもとに学習を行って行った。学生が予習復習に取り組む時間を提供できたことは成果として得られたが、その取り組みの度合いによって授業の理解に差があったと考えられる。今後は授業で扱う内容をより簡素にし、一つ一つ理解を深めていけるような構成にしていく必要があると考える。実際の道具を十分に活用しながら講義ができない場面もあり、学生からもそのような指摘があった。来年度以降は城南キャンパスの使用も検討し、様々な機器を実際に見て体験できるように授業環境を整えていきたい。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

科目名

107. 地域作業療法学

担当教員

山下 英美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

17名

◆集計データ結果について

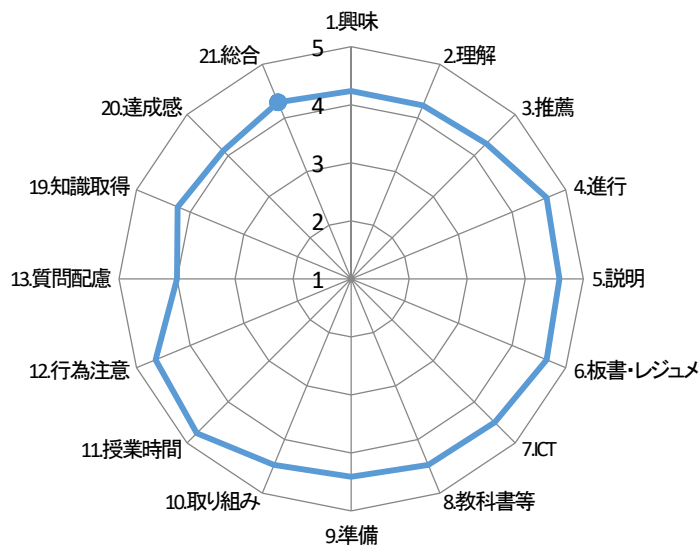
全て4点台で4.7までの間の結果となり、バランスの良い評価となった。
 予習は全くしなかった者が一番多く5割強、復習は1時間未満が一番多く、こちらも5割強となった。特に授業前後の課題を課さなかったためであると思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

制度に関する理解を促す部分が多いため「難しい内容だった」との記載が複数みられた。しかし「噛み砕いて説明してくれたのでついていくことができた」「分かりやすかった」との記載も複数みられ、一定の肯定的評価は得られたと思われる。

特に学生になじみの少ない“地域”に関する講義であったため「地域のことにたいして知らなかったことを知る機会になった」「自分たちの住んでいる地域ではどのようなことをしているのかを知る機会があつてよかった」といった記載もみられ、「制度を理解することも患者様と接する中で重要なことであると思いました」といった記載もあり、講義の目標に近づくことのできた学生もいたことが伺われた。

グループ発表に関しては、「良いと思うが、自分が担当していないものには知識として身につかないような気がした」との記載もあり、検討の必要性を感じた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 21 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

制度に対する興味・関心を促すよう、今後も分かりやすい説明を心がけていきたい。
 また、グループワークに関しては、発表後のディスカッションの時間を長くするなど、担当以外の内容についてもさらに理解が深まるよう、工夫していきたい。

科目名

108. 地域作業療法学実習

担当教員

山下 英美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

17名

◆集計データ結果について

概ね4点台後半となり、バランスの良い結果となった。

受講態度も約7割が「熱心に取り組んだ」と回答しており、レクリエーションを自分たちで考え準備し、ゆうあいデイケアセンターの利用者に対して実施するというアクティブな学習であったため、意欲的に取り組めたと思われる。

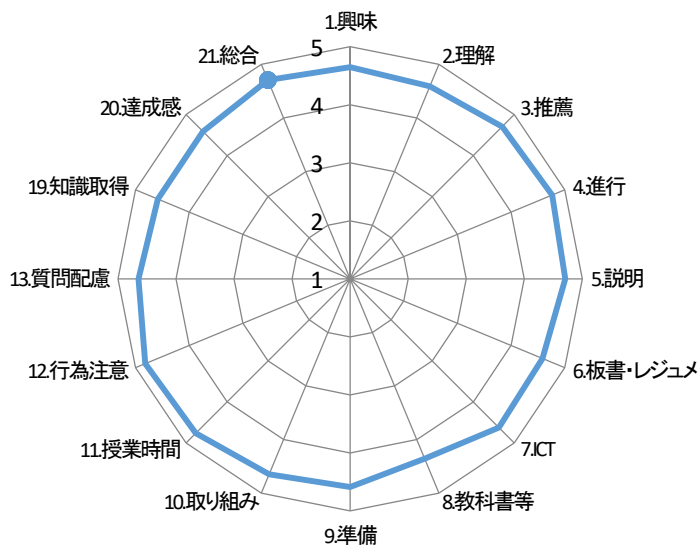
予習・復習の時間は、全くなかった者がそれぞれ5割弱・3割みられたが、1～5時間と答えた者もそれぞれ3割弱・5割弱みられ、これらの学生は、授業時間外のグループワークの時間を回答したと思われる。授業時間外で物品の製作や練習などを行ったと思われるが、個人差があったとすると検討の余地があるかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

まず「外部の方と交流できてよかった」「実際にゆうあいの方と関わる機会がありよい経験になった」というような記載が複数みられ、地域で生活されている介護保険利用者を対象とした実習の機会そのものが肯定的評価につながったと思われる。

そして「発表することの難しさを感じた」「計画どおり進めることの難しさを感じた」「反省点・改善点・今後に向けての課題を見つけることができた」「とても自分のためになる授業だった」といった記載もみられ、グループワークや準備・発表などの際、困難に直面し自身の課題を見つけることができ、今後につながる経験ができたことが伺われた。

さらに「楽しかった」「他者に楽しんでもらえることの達成感を感じることができた」といった記載もあり、学生個々が得るものの大きな授業であったと思われる。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

ゆうあいデイケアセンターでの実習も3年目となり、計画立案の前に施設見学を実施したり、学生間での発表練習を2回ずつ行うなど、ある程度の形は出来たと感じている。今年度は特に否定的な意見が無く、グループワークもスムーズに進んだと思われる。ただ、予習・復習時間の記載にばらつきがみられ、授業時間外のグループワークへの取り組みに関して、学生間の負担に大きな差があるとすれば問題である。今後は授業時間外の学生の動きにも気を配り、負担に差が出ないように注意していきたい。

科目名

109. 就労支援学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

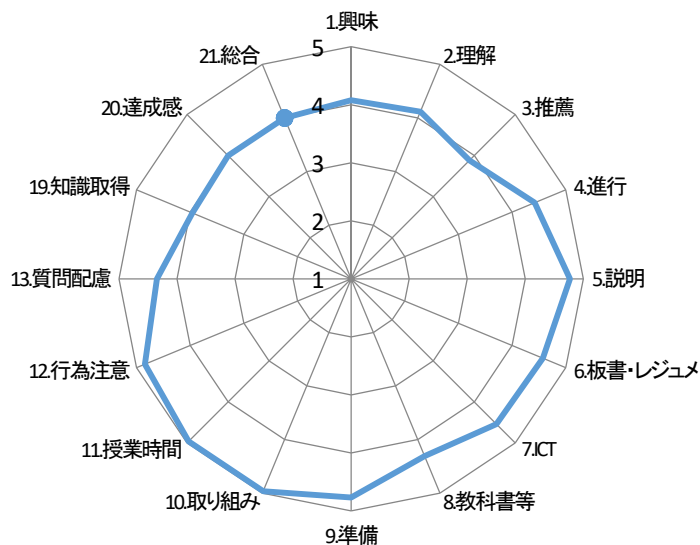
26名

◆集計データ結果について

4点前後の項目が多くまずまずバランスが取れた授業であったと考えられる。国家試験の学習の最中の授業であり、あまり負担とならないように配慮したのであるが(知識習得を前面には出さないようにしたりなど)、かえって満足度は下げてしまう結果となったのかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

就職活動もある中で、自身について振り返ったりする部分としては貢献した授業であったと考えられる。国家試験対策としての授業の充実を求める記述があり、今後検討する。



1-3授業内容 4-8授業方法 9-13教員
19,20学生の満足度 21総合(軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

国家試験の範囲を更に拡大して取り扱う授業の計画立案を検討する。

科目名

110. 臨床実習 I (基礎) (OT)

担当教員

高田 政夫・山下 英美・加藤 真夕美・横山 剛・草川 裕也・清水 一輝

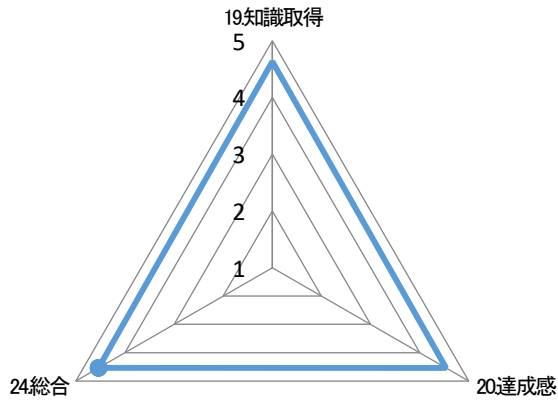
専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

41 名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、一部の設問を除外して実施。

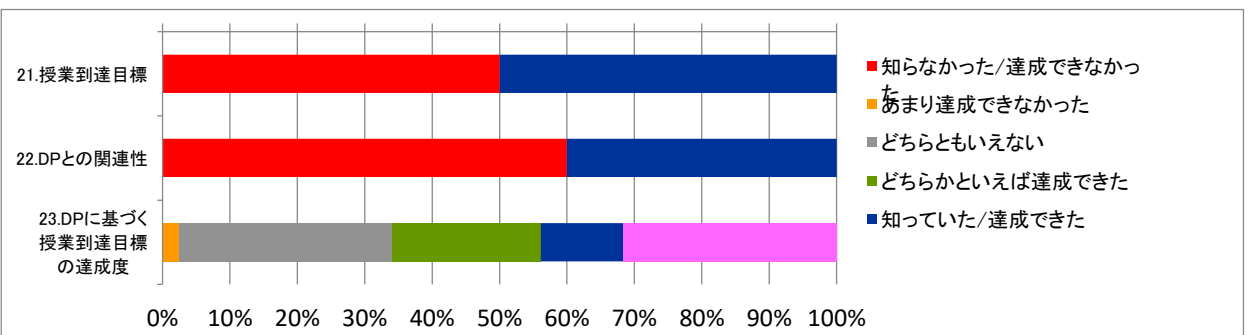
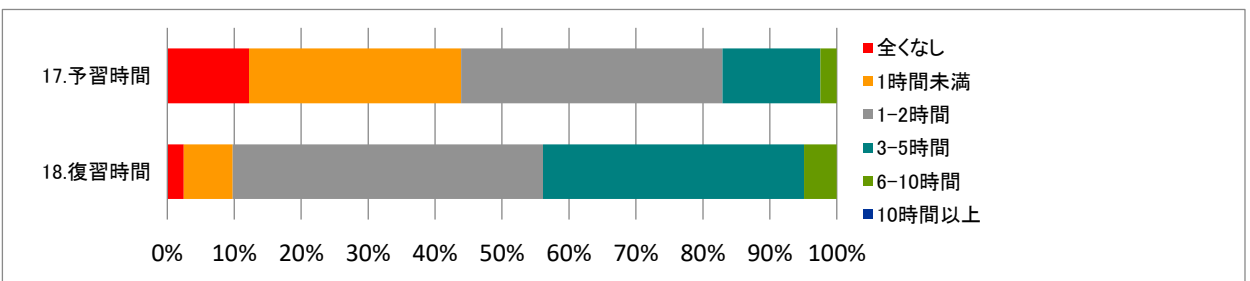
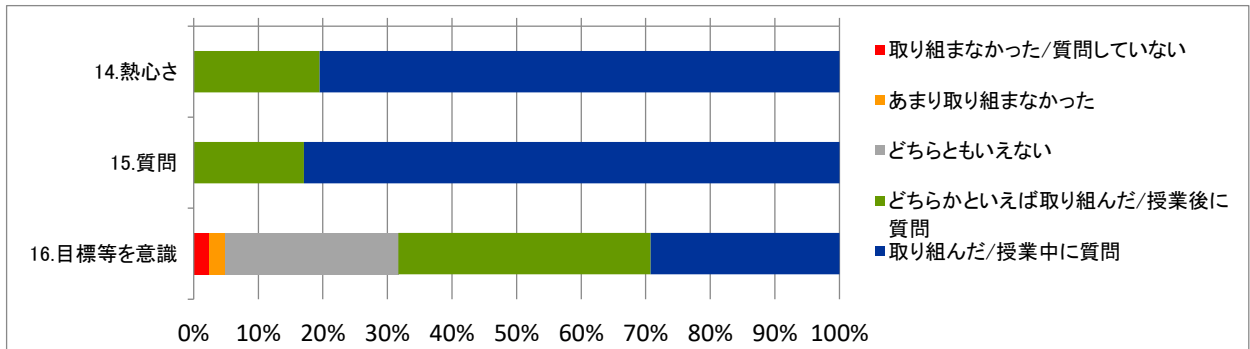


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

111. 臨床実習Ⅱ(評価)(OT)

担当教員

高田 政夫・山下 英美・加藤 真夕美・横山 剛・草川 裕也・清水 一輝

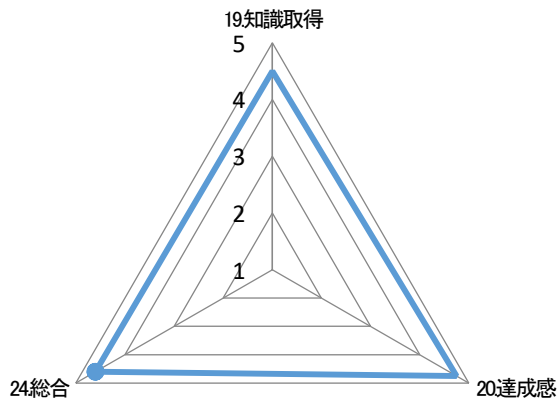
専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

20名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、一部の設問を除外して実施。

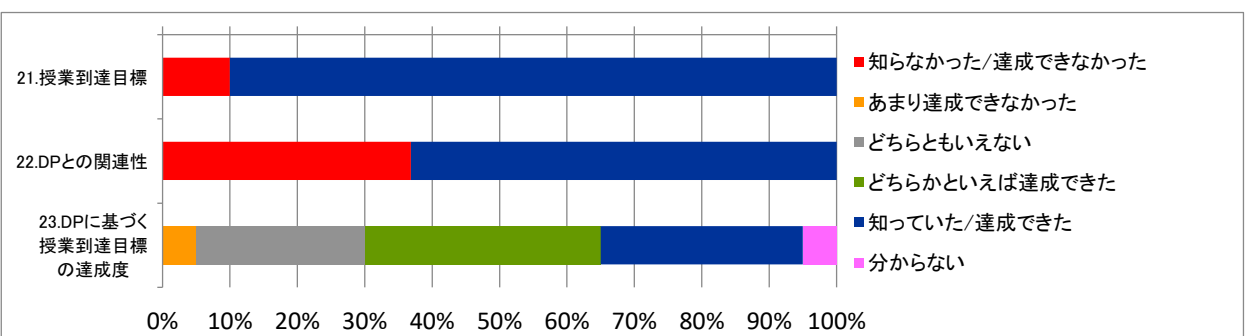
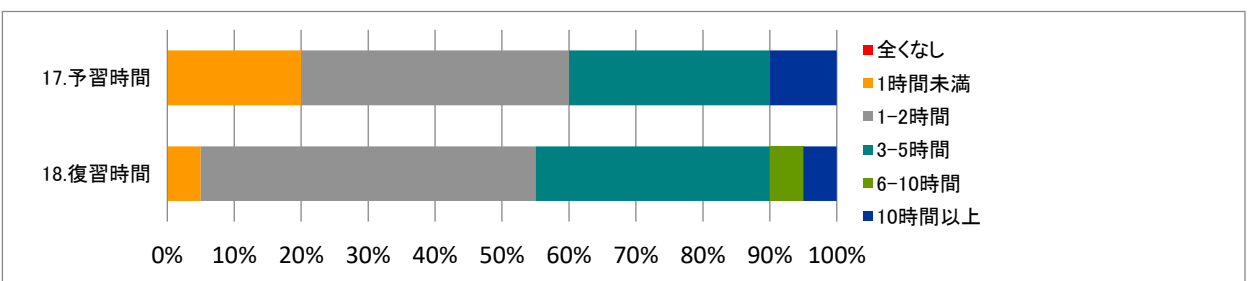
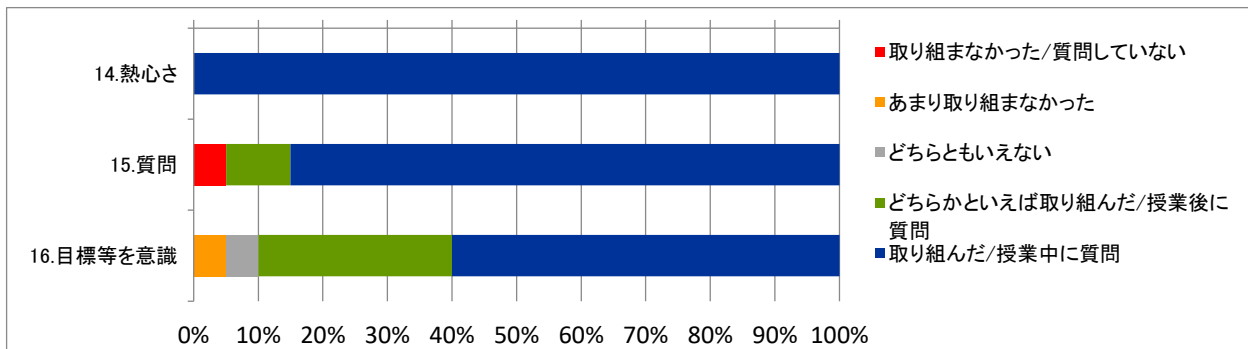


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

112. 臨床実習Ⅲ(総合1)(OT)

担当教員

高田 政夫・山下 英美・加藤 真夕美・横山 剛・草川 裕也・清水 一輝

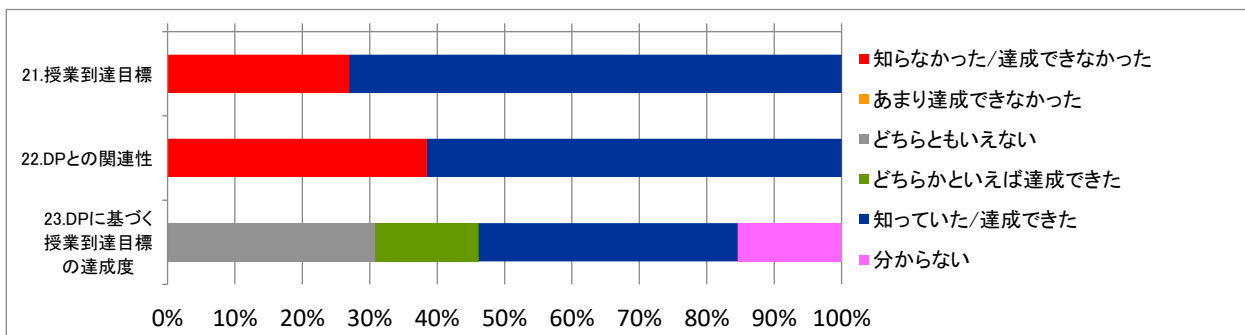
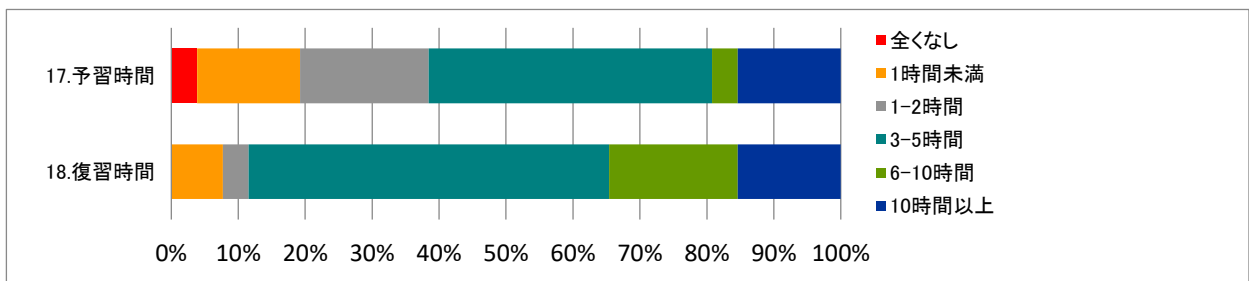
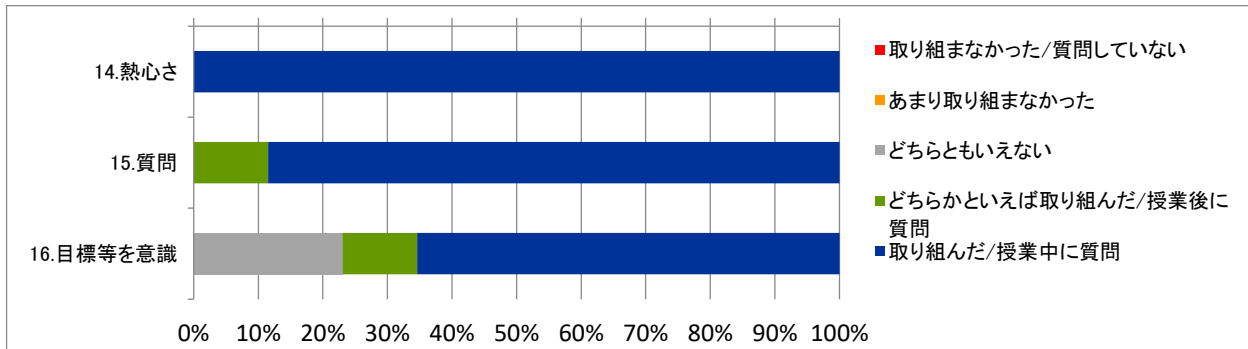
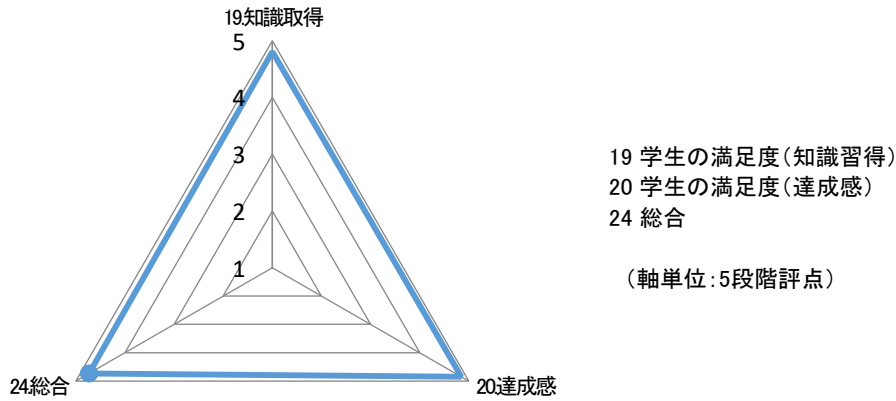
専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

26名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、一部の設問を除外して実施。



科目名

113. 臨床実習Ⅳ(総合2)(OT)

担当教員

高田 政夫・山下 英美・加藤 真夕美・横山 剛・草川 裕也・清水 一輝

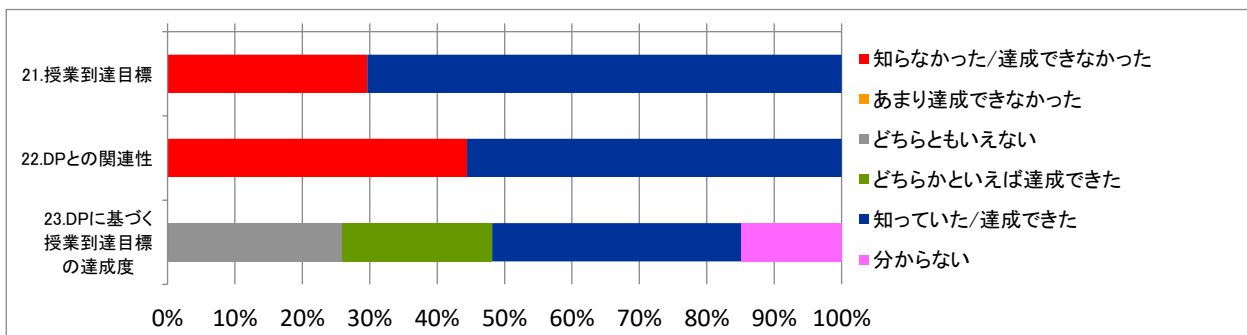
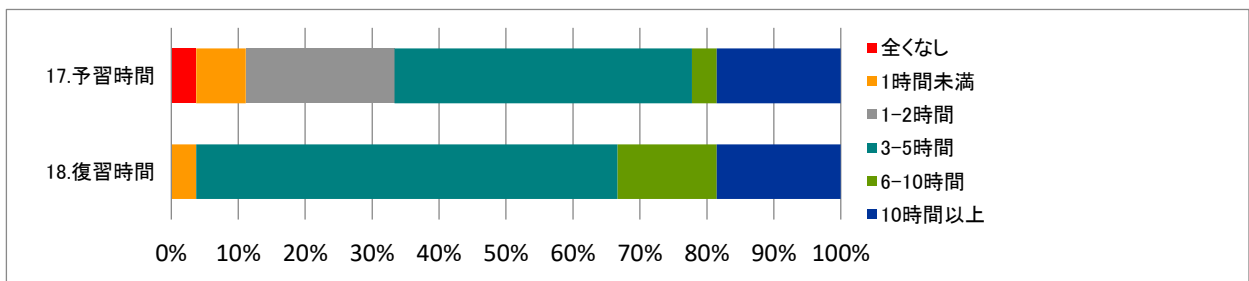
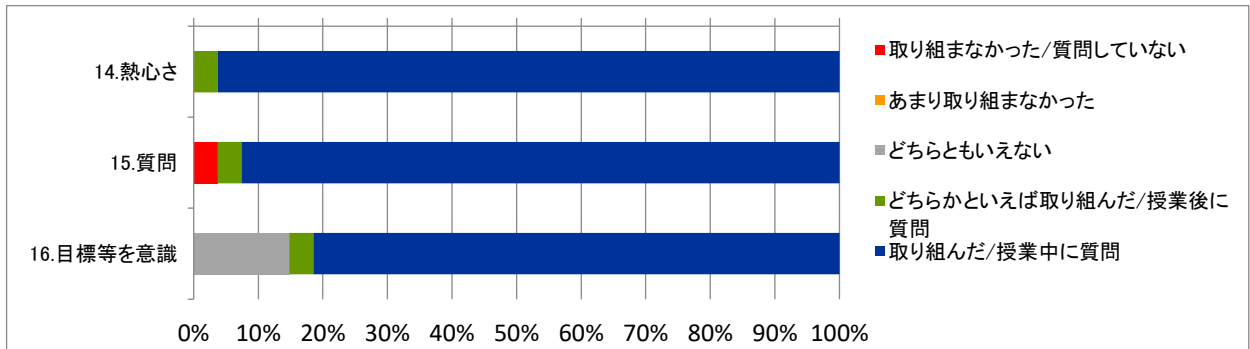
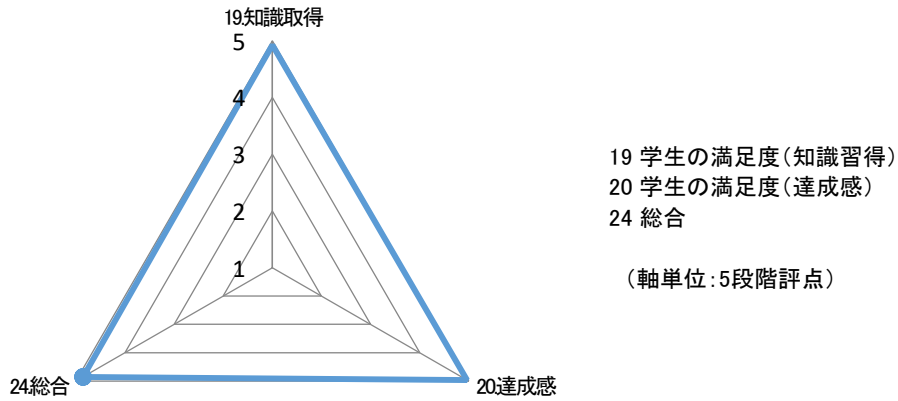
専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

27名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、一部の設問を除外して実施。



科目名

114. 卒業研究(OT)

担当教員

高田 政夫・山下 英美・加藤 真夕美・横山 剛・草川 裕也・清水 一輝

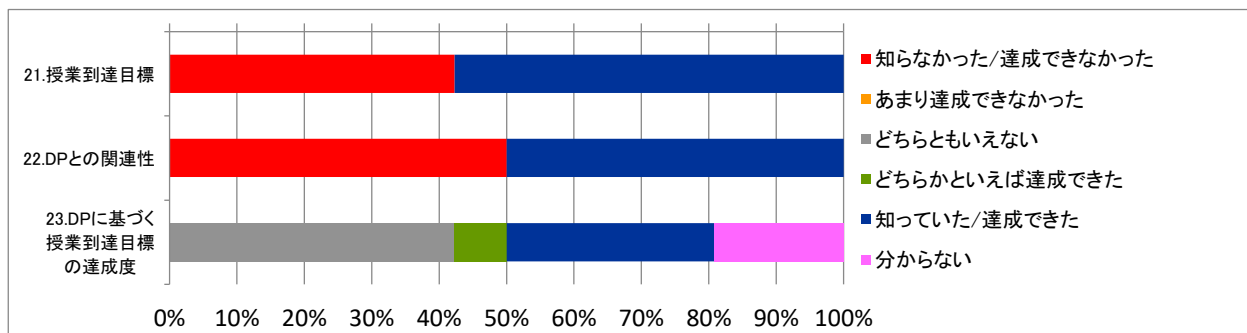
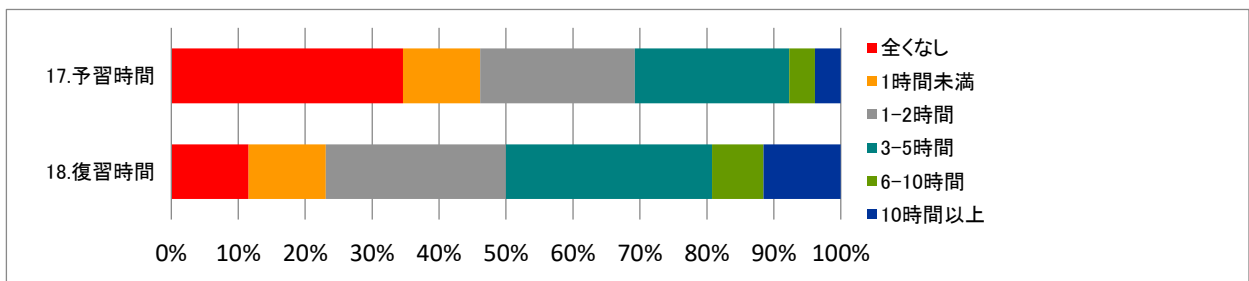
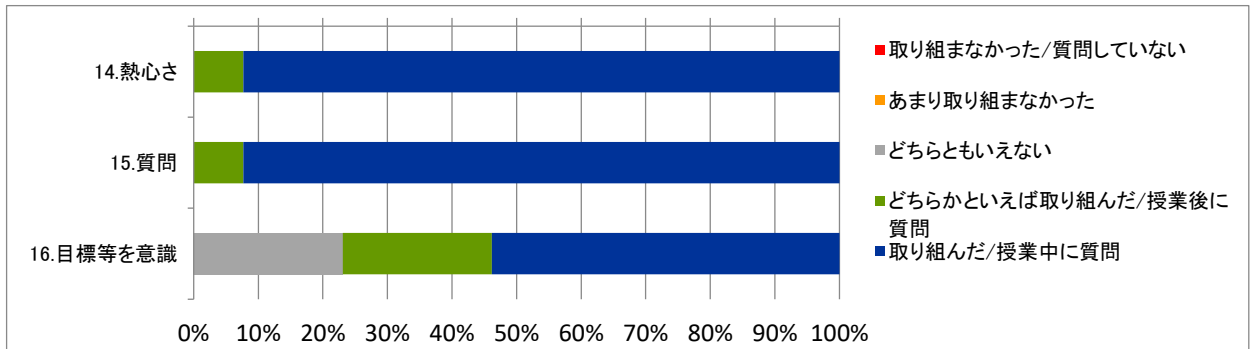
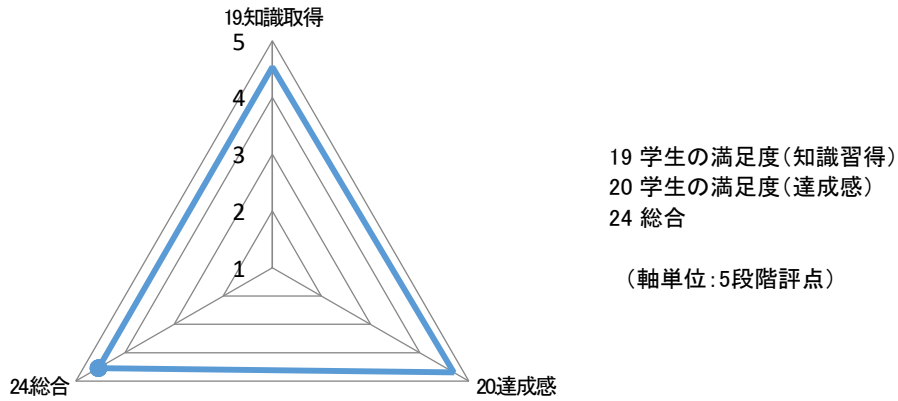
専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

26 名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、一部の設問を除外して実施。



科目名

115. 総合演習(OT)

担当教員

理学療法学専攻・作業療法学専攻全教員

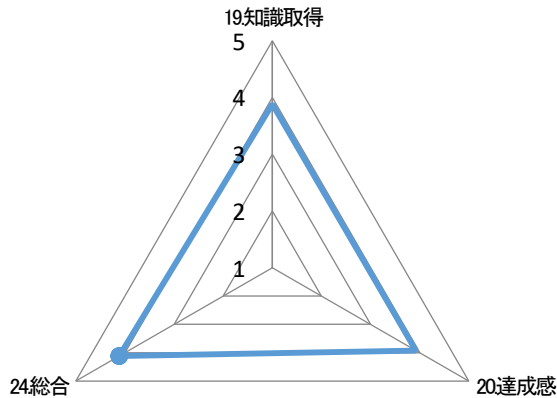
専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

26名

◆集計データ結果について

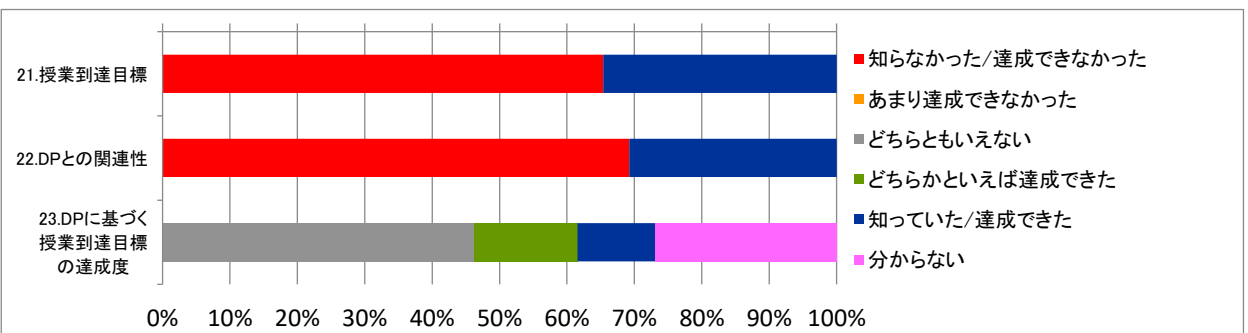
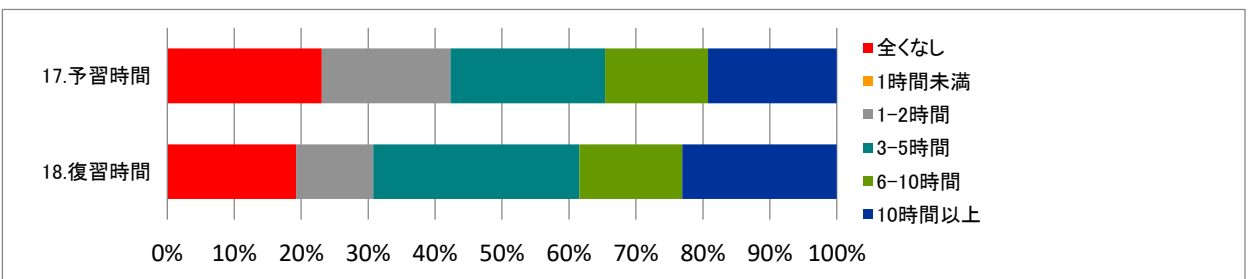
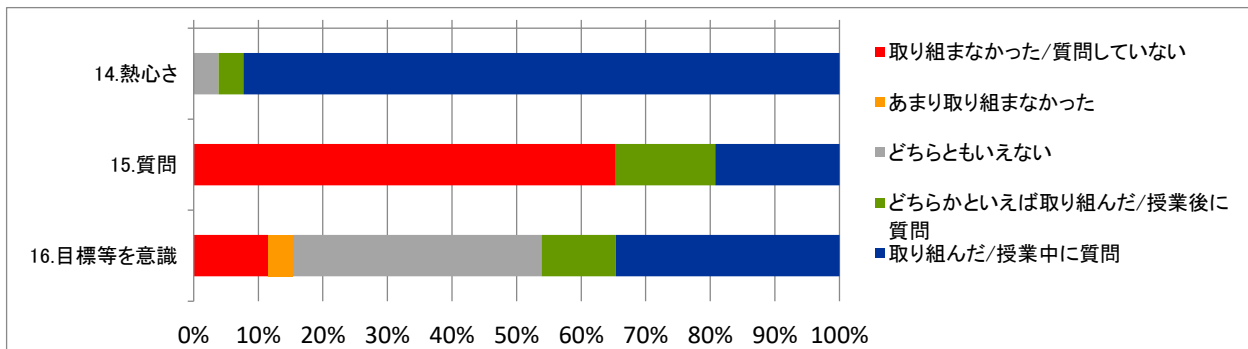


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位: 5段階評点)



編集委員

鳥居 昭久 (FD&SD委員会委員長)
加藤 真夕美 (FD&SD委員会)
清島 大資 (FD&SD委員会)
山田 南欧美 (FD&SD委員会)
清水 一輝 (FD&SD委員会)
松浦 智美 (FD&SD委員会)
大谷 智美 (FD&SD委員会)

2018年度 授業評価レポート

発行日 令和元年 6月 30日
発行者 学校法人 佑愛学園
愛知医療学院短期大学
〒452-0931 愛知県清須市一場 519
TEL 052-409-3311
<http://www.yuai.ac.jp>